

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第528集

や ぎ さわ や ぎ さわ ら ん と の さわ  
**八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書**

三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査

2008

国土交通省東北地方整備局  
三陸国道事務所  
(財) 岩手県文化振興事業団

# 八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは、県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターでは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業に関連して、平成19年度に発掘調査された宮古市八木沢Ⅱ遺跡及び八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査により、八木沢Ⅱ遺跡では、縄文時代中期の竪穴住居跡や貯蔵穴からなる集落跡、古代の集落跡などが検出され、八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡では、縄文時代と推測される陥し穴状遺構が検出されました。中でも八木沢Ⅱ遺跡では、時代によって集落の立地が異なることが判明しており、当該期における自然環境や生業と集落の立地との係わりについて考えるうえで貴重な資料となるものであります。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会、山田町教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成20年12月

財團法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 武田牧雄

## 例　　言

- 1 本報告書は岩手県宮古市大字八木沢第3地割字中村129ほかに所在する八木沢Ⅱ遺跡、岩手県宮古市大字八木沢第8地割字駒込7-1ほかに所在する八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所との協議を経て、財團法人文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録される八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡の遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。

八木沢Ⅱ遺跡	: 遺跡番号 LG43-0205、遺跡略号 YGS II-07
八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡	: 遺跡番号 LG43-0279、遺跡略号 YGSR I-07
- 4 発掘調査の調査面積、調査期間、調査担当者は次のとおりである。

八木沢Ⅱ遺跡	調査面積: 7,500m <sup>2</sup> 、調査期間: 平成19年4月12日～8月10日
	調査担当者: 阿部勝則・八重畠ちか子・横井猛志
八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡	調査面積: 700m <sup>2</sup> 、調査期間: 平成19年10月9日～10月25日
	調査担当者: 阿部勝則・八重畠ちか子
- 5 室内整理の整理期間、整理担当者は次のとおりである。

八木沢Ⅱ遺跡	整理期間: 平成19年11月1日～平成20年3月31日、整理担当者: 阿部勝則・八重畠ちか子
八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡	整理期間: 平成19年12月3日～12月14日、整理担当者: 阿部勝則・八重畠ちか子
- 6 野外調査における基準点測量・写真撮影にあたっては次の機関に委託した。

基準点測量	: 釜石測量設計株式会社。
航空写真撮影	: 東邦航空株式会社。
- 7 遺物の分析・鑑定にあたっては次の機関に委託した。

石材鑑定	: 花崗岩研究会（代表欠内桂三）。
炭化材樹種鑑定	: 岩手県木炭協会。
炭化材の年代測定	: パリノ・サーヴェイ株式会社。
- 8 発掘・整理・報告にあたっては次の方々にご指導・ご協力いただいた（順不同・敬称略）。

齊藤邦雄・佐藤嘉広・菅 常久・櫻井友梓（岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課）、竹下將男・高橋憲太郎・鎌田祐二・加納由美・安原 誠・長谷川真・阿部 翼（宮古市教育委員会）、安達尊伸（田野畠村教育委員会）、川向聖子（山田町教育委員会）、井上雅孝（滝沢村教育委員会）、田崎キクエ（地権者）。
- 9 本報告書の執筆は、I章 調査に至る経過は、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所に原稿を依頼した。II章～V・VI章は、阿部勝則・八重畠ちか子が分担して執筆した。文末に（氏名）を記してある。VI章は、鑑定委託先に依頼した原稿を掲載した。報告書の編集・校正は阿部・八重畠が行った。
- 10 本遺跡の調査成果は、先に、『現地説明会資料』（平成19年7月21日）、『平成19年度発掘調査報告書』（岩文振第524集）などに発表しているが、本書の内容が優先するものである。
- 11 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 凡　　例

## 1 掲載図版の構成

図版構成は、遺構・遺物に分けています。遺構図版は、竪穴住居跡・竪穴状遺構・陥し穴状遺構・土坑・焼土遺構・土器埋設遺構・溝跡・炭窯跡の順で種類毎に掲載した。遺物図版は土器・土製品・石器・石製品・陶磁器・鉄製品・ガラス製品・植物遺存体の順に出土遺物の種類毎に図版を作成し、出土地点・層位（上→下）を基準に掲載した。別に出土地点別の遺物集成図も作成している。遺物の掲載番号は、掲載順に連番とし、図版・写真図版とも同一番号とした。掲載遺物にはすべて観察表を付した。観察表内の（　）内の数値は残存値、<　>内数値は推定値である。

## 2 掲載図版の縮尺

掲載図版の縮尺は以下を原則としたが、一部変更したところもあり、各図にスケール・縮尺を付した。

### a 遺構図版

竪穴住居跡の平・断面図：1/50、炉跡の平・断面図：1/30、陥し穴状遺構・土坑の平・断面図：1/40、焼土遺構・土器埋設遺構の平・断面図：1/30、溝跡の平・断面図：1/100、炭窯跡の平・断面図：1/60。

### b 遺物図版

土器：1/3、土製品：1/2、剥片石器：1/2、砾石器：1/3、石製品：1/2、陶磁器：1/3、鉄製品：1/3、ガラス製品：1/3。

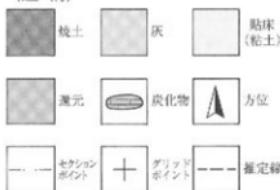
### c 写真図版

遺構の写真図版の縮尺は不定である。遺物の写真図版の縮尺は、概ね図版と同一縮尺になることを基本として編集したが、一部変更したところもあり、各図に縮尺を付した。

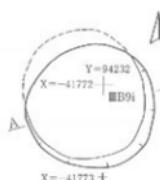
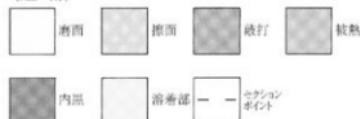
## 3 図版の凡例

図中に使用した記号と網かけの凡例は以下のとおりである。それ以外については、個々の図版毎に凡例を示している。

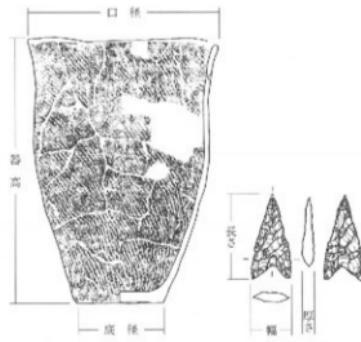
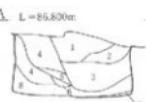
### 〈遺構〉



### 〈遺物〉



土坑



土器

石器

## 目 次

I 調査に至る経過 .....	1
II 遺跡の位置と立地 .....	2
1 遺跡の位置と地理的環境 .....	2
2 遺跡の立地と周辺の地形・地質 .....	2
3 周辺の遺跡 .....	2
4 基本土層 .....	4
III 調査・整理の方法 .....	13
1 野外調査 .....	13
2 室内整理 .....	16
IV 八木沢Ⅱ遺跡 .....	19
1 検出遺構 .....	19
(1) 検出遺構の概要 .....	19
(2) 竪穴住居跡 .....	19
(3) 竪穴状遺構 .....	23
(4) 陥し穴状遺構 .....	24
(5) 土坑 .....	26
(6) 烧土遺構 .....	35
(7) 土器埋設遺構 .....	36
(8) 溝跡 .....	37
(9) 炭窯跡 .....	40
2 出土遺物 .....	64
(1) 出土遺物の概要 .....	64
(2) 土器 .....	64
(3) 土製品 .....	68
(4) 石器 .....	68
(5) 石製品 .....	69
(6) 陶磁器 .....	69
(7) 鉄製品 .....	69
(8) ガラス製品 .....	69
(9) 植物遺存体 .....	69
V 八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡 .....	96
1 検出遺構 .....	96
(1) 検出遺構の概要 .....	96
(2) 陥し穴状遺構 .....	96
(3) 土坑 .....	96
2 まとめ .....	97

VI 分析・鑑定	101
1 炭化材の年代測定と樹種同定	101
2 種実遺体の同定	103
VII 総 括	108
1 遺 構	108
(1) 縄 文	108
(2) 古 代	108
(3) 現 代	109
2 遺 物	109
(1) 縄 文	109
(2) 古 代	109
(3) 現 代	109
3 ま と め	109
報告書抄録	147

## 図版目次

(八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡)	
第1図 遺跡位置図	7
第2図 遺跡周辺の地形分類図	8
第3図 遺跡周辺の地質分類図	9
第4図 宮古市域図	10
第5図 周辺の遺跡分布図 (八木沢Ⅱ遺跡)	11
第6図 基本上層図	12
第7図 ドレンチ位置図	18
第8図 遺構配図(1)：全体図	43
第9図 遺構配図(2)：部分図	44
第10図 壁穴住居跡(1)：SI01	45
第11図 壁穴住居跡(2)：SI02	46
第12図 壁穴住居跡(3)：SI03・06	47
第13図 壁穴住居跡(4)：SI04	48
第14図 壁穴住居跡(5)：SI05	49
第15図 壁穴状遺構：SKI01・02	50
第16図 陥し穴状遺構(1)：SK02・14・20	51
第17図 陥し穴状遺構(2)：SK22・25・30	52
第18図 土坑(1)：SK01・03	53
第19図 土坑(2)：SK04～07	54
第20図 土坑(3)：SK08～12	55
第21図 土坑(4)：SK13・15～18	56
第22図 土坑(5)：SK19・21・23・24・27	57
第23図 土坑(6)：SK26・28・29	58
第24図 焼土遺構：SN01・02、土器埋設遺構： SZ02・04	59
第25図 清跡(1)：SD01・06	60
第26図 清跡(2)：SD02～05	61
第27図 清跡(3)：SD09	62
第28図 炭窯跡：SW01・02	63
第29図 遺構別出土遺物集成図(1)	77
第30図 遺構別出土遺物集成図(2)	78
第31図 遺構別出土遺物集成図(3)	79
第32図 土器(1)	80
第33図 土器(2)	81
第34図 土器(3)	82
第35図 土器(4)	83
第36図 土器(5)	84
第37図 土器(6)	85
第38図 土器(7)	86
第39図 土器(8)・土製品(1)	87
第40図 土製品(2)	88
第41図 石器(1)	89
第42図 石器(2)	90
第43図 石器(3)	91
第44図 石器(4)	92
第45図 石器(5)	93
第46図 石製品	94
第47図 陶磁器・鉄製品・ガラス製品	95
(八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡)	
第48図 調査区位置図	98
第49図 遺構配置図	99
第50図 陥し穴状遺構：SK01、土坑：SK02	100

## 表 目 次

(八木沢II遺跡)	
第1表 周辺の遺跡一覧表	5
第2表 遺構一覧表	14
第3表 壊穴住居跡観察表（縦文）	41
第4表 壊穴住居跡観察表（古代）	41
第5表 壊穴状遺構観察表	41
第6表 陥し穴状遺構観察表	41
第7表 土坑観察表	42
第8表 焼土遺構観察表	42
第9表 土器埋設遺構観察表	42
第10表 炭窯跡観察表	42
第11表 出土地点別土器重量表	70
第12表 遺構別出土遺物一覧表	71
第13表 土器観察表（1）縦文・弥生	72
第14表 土器観察表（2）土師器	74
第15表 上製品観察表	74
第16表 石器観察表	74
第17表 石製品観察表	75
第18表 石材略号一覧表	75
第19表 產地等略号一覧表	75
第20表 石器・石製品の器種別石材一覧表	75
第21表 陶磁器観察表	75
第22表 鉄製品観察表	76
第23表 ガラス製品観察表	76
第24表 炭化種実観察表	76
第25表 炭化材観察表	76
(八木沢ラントノ沢I遺跡)	
第26表 陥し穴状遺構観察表	97
第27表 土坑観察表	97

## 写真図版目次

(八木沢II遺跡)	
写真図版1 遺跡（1）：調査区全景	112
写真図版2 遺跡（2）：調査前現況・基本土層	113
写真図版3 壊穴住居跡（1）：SI01	114
写真図版4 壊穴住居跡（2）：SI02	115
写真図版5 壊穴住居跡（3）：SI03	116
写真図版6 壊穴住居跡（4）：SI04・05（1）	117
写真図版7 壊穴住居跡（5）：SI05（2）	118
写真図版8 壊穴住居跡（6）：SI06、壊穴状遺構 ：SK101・02	119
写真図版9 陥し穴状遺構（1）：SK02・14・20	120
写真図版10 陥し穴状遺構（2）：SK22・25・30	121
写真図版11 土坑（1）：SK01・03～07（1）	122
写真図版12 土坑（2）：SK07（2）・08～10	123
写真図版13 土坑（3）：SK11～13・15（1）	124
写真図版14 土坑（4）：SK15（2）・16～18	125
写真図版15 土坑（5）：SK19・21・23・24	126
写真図版16 土坑（6）：SK26～29	127
写真図版17 焼土遺構：SN01・02、土器埋設遺構 ：SZ02・04	128
写真図版18 溝跡（1）：SD01～05	129
写真図版19 溝跡（2）：SD09	130
写真図版20 炭窯跡（1）：SW01（1）	131
写真図版21 炭窯跡（2）：SW01（2）・02	132
写真図版22 土器（1）	133
写真図版23 土器（2）	134
写真図版24 土器（3）	135
写真図版25 土器（4）	136
写真図版26 土器（5）	137
写真図版27 土器（6）	138
写真図版28 土器（7）・土製品	139
写真図版29 石器（1）	140
写真図版30 石器（2）	141
写真図版31 石器（3）	142
写真図版32 石器（4）	143
写真図版33 石器（5）・石製品	144
写真図版34 陶磁器・鉄製品・ガラス製品・炭化 種実	145
(八木沢ラントノ沢I遺跡)	
写真図版35 遺跡：調査区全景、陥し穴状遺構 ：SK01、土坑：SK02	146

## I 調査に至る経過

八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡は、一般国道45号宮古道路事業の事業区域内に位置しているため、当該事業の施工に伴い、発掘調査を実施することとなったものである。

宮古道路事業は、宮古市内の国道45号の線形不良及び隘路箇所を解消し、増大する交通需要に対応するとともに、三陸沿岸地域への高速交通サービスの充実を図り、地域経済の発展・連携・交流の促進のために、平成15年度から事業化している。

これに係る埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、次のように進められた。八木沢Ⅱ遺跡については、平成17年7月15日～11月5日まで試掘調査を行い、その結果、平成17年12月12日付「教牛第1338号」にて岩手県教育委員会生涯学習文化課長より、宮古道路建設事業に関連する包蔵地として回答された。本発掘調査が必要となったことから、岩手県教育委員会と三陸国道事務所が協議を行い、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに発掘調査を委託することとなったものである。

八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡については、平成18年4月21日～11月21日まで試掘調査を行い、その結果、平成18年12月20日付「教牛第1284号」にて岩手県教育委員会生涯学習文化課長より、宮古道路建設事業に関連する包蔵地として回答された。本発掘調査が必要となったことから、岩手県教育委員会と三陸国道事務所が協議を行い、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに発掘調査を委託することとなったものである。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

## II 遺跡の位置と立地

### 1 遺跡の位置と地理的環境

本遺跡の所在する宮古市は岩手県の沿岸北部に位置し、北西は岩泉町、西は川井村、南は山田町に接し、東側は太平洋に面している。平成17年6月に田老町と新里村と合併しており、面積約696.82km<sup>2</sup>、人口59,456人である（平成18年現在）。三陸海岸のはば中央に位置し、漁業・港湾・観光を柱に発展を目指す、本州最東端の市である。

八木沢Ⅱ遺跡は、宮古市八木沢第3地割字中129ほかに所在し、宮古市の中央やや南側にあり、JR山田線磯駒駅の南約2.8kmに位置する。八木沢川を下った地点の海岸線からの直線距離は約3.5kmである。同地点は北緯39度37分1秒、東経141度55分56秒付近に位置する。

また、八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡は、同八木沢第8地割字駒込7-1ほかに所在し、JR山田線磯駒駅の南西約3.0kmに位置する。八木沢川を下った地点の海岸線からの直線距離は約4kmである。同地点は北緯39度36分38秒、東経141度56分3秒付近に位置する。

八木沢Ⅱ遺跡および八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡は、国土交通省国土地理院発行5万分の1地形図「宮古」(NJ-54-13-3:平成5年12月1日発行)、同2万5千分の1地形図「宮古」(NJ-54-13-3-1:平成8年7月1日発行)の図幅に属する。  
(阿部)

### 2 遺跡の立地と周辺の地形・地質

宮古市の地形は、西側に北上高地が南北に連なり、その東縁が直接太平洋に張り出している山地・丘陵地帯が大半を占める。そのなかに閉伊川・八木沢川・津軽石川とその支流によって形成された谷底地形・氾濫平野が分布する。なかでも川井村の兜明神岳に源を発して東流する閉伊川が、市域のはば中央を西から東に向かって流れ、太平洋に注いでいるが、この閉伊川の北側と南側によって宮古市域の地形は大きく分かれる。

遺跡の立地する場所は、地形分類上、小起伏山地に区分される。

また、地質分類上は、花崗岩質岩石に区分される。

八木沢Ⅱ遺跡は、閉伊川の南側に位置し、南西から北東方向に向かって流れる八木沢川の支流によって形成された谷底平野の南側の山地に立地している。調査区の標高は46~90mである。調査区の範囲は、東西約90m、南北約350m、面積7,500m<sup>2</sup>である。遺跡の現況は山林と畑地である。

八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡は、八木沢川西岸の山地に立地している。調査区の標高は35~45mである。調査区の範囲は東西約15m、南北約45m、面積700m<sup>2</sup>である。遺跡の現況は山林と畑地である。

ふたつの遺跡の今回の調査区は、いざれも三陸縦貫自動車道宮古道路建設予定地部分である。  
(阿部)

### 3 周辺の遺跡

宮古市の遺跡数は、平成17年に合併された旧新里村地区、旧田老町地区を含め、579遺跡にのぼる。第5図は平成17年12月31日時点における岩手県遺跡検索システム（註1）に掲載されているもので、本遺跡周辺に分布する遺跡を図示したものである。それに加えて、近乍の三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業に係り、分布調査で新たに把握された試掘段階の遺跡や、新たに登録された遺跡も掲載した。第5図の図幅内（南北20km、東西16km）に登録されているのは250遺跡を数える。（第1表参照）

この地域は、縄文時代から近世までの遺跡が分布しており、縄文時代が154遺跡、古代（奈良・平安

とされたものも含む) 86遺跡、中世27遺跡、近世が4遺跡を数える(註2)。

縄文時代は、早期から晩期までの遺跡が確認されている。早期は背ノ沢遺跡(22)、小沢貝塚(43)などで、土器片が確認されている程度であるが、前期に入ると徐々に竪穴住居跡をもつ遺跡数が増え、中期になると、遺跡数・遺物量ともに最盛期を迎える。磯薺蝦夷森貝塚(131)や上村貝塚(128)、近内中村遺跡(24)などの比較的大きい集落や、その反対に、2~3棟の小規模な集落も数多く営まれるようになる。後・晩期になると、遺跡数は減少するものの、近内中村遺跡(24)のように後期後半から晩期前半の遺構・遺物が大量に検出されるといった大集落が認められる。古代、特に平安時代に入ると、再び遺跡数が増加し、集落内に鍛冶炉、鉄滓、轆の羽口など、鉄生産に関連する遺構・遺物が、特徴的にあらわれる。蛭ヶ澤遺跡(138)、青猿I遺跡(74)など多くの遺跡でみられ、特に鳥田II遺跡(158)は当該期の岩手県内屈指の鉄生産遺跡であることが指摘されている。そして、中世に至ると、山口館、重茂館など、城館跡の増加が特徴され、登録されている27件の遺跡のうち、城館跡は22遺跡を数える。いずれも河川や急峻な斜面を自然要害として利用し、平場や空堀を構築するものである。本遺跡周辺には、八木沢古館(159)、八木沢新館遺跡(156)があり、八木沢氏に関わるものと考えられている。近世に入ると、遺跡数は減少し、黒森町I遺跡(42)で鉄物工房跡、磯薺沖(136)で台場跡が検出されている程度である。

次に、第5図の図幅内に図示した250遺跡の中から、本遺跡と同時期である縄文時代の集落及び、古代の集落の特徴について主に立地の観点から概観する。

#### 縄文時代

縄文時代の遺跡は、北上山地から山地・支脈が延びて形成している山地・山岳地帯が大部分を占める宮古地区特有の地形を反映して、その立地に3つの傾向が認められる。第一に臨海性の小丘陵上に位置するもので、上村貝塚(128)、銀ヶ崎館山貝塚(61)、金浜館(182)などがあげられる。上村貝塚では中期の竪穴住居跡11棟、銀ヶ崎館山貝塚では中期の住居跡7棟が検出されている。金浜館ではフ拉斯コ状土坑が47基検出されているため、周辺に大規模な集落の存在が推定されている。これらは小丘陵上で広い平坦面や緩斜面を利用して、比較的大規模な集落を形成することが多い。

第二に西流する大河川である閉伊川にそそぐ山口川、近内川などの中河川が形成した、谷底平野及び氾濫平野に立地するもので、近内中村遺跡(24)、高根遺跡(13)、音ノ沢遺跡(22)、小平I遺跡(14)などがあげられる。この場合、周辺の山地から山口川、近内川に流れ込む小河川や沢が形成する崖懸性崩塌地や緩斜面に立地する場合もあり、その規模によっては縄文中期から晩期までの拠点集落ともいいくらい近内中村遺跡や、中期の竪穴住居跡19棟を検出した小平I遺跡のように大集落を形成する場合もある。これらは閉伊川より北部の千葉丘陵域に多くみられる。

第三に八木沢丘陵、千徳丘陵、花輪山地などの小起伏山地のやせ尾根上に立地するものである。当八木沢II遺跡はこれに分類されるものであり、他には狐崎II遺跡(73)、木戸井内IV遺跡(106)、八木沢駒込II遺跡(165)(現在整理中)などが上げられる。これらは尾根上あるいは尾根先端の緩斜面の狭い範囲を利用して、竪穴住居跡が2~3棟程度の小規模な集落が多い。

また、縄文時代には遺跡内でも遺構別に立地の違いがみられる。住居跡と貯蔵穴はセットで確認されることが多いが、前述した金浜館遺跡のように、貯蔵穴群のみが検出された例がある。墓壙についても上村貝塚では、竪穴住居跡内から人骨を伴った墓壙が検出される例がある一方、背ノ沢遺跡のように、墓壙群として単独に確認されている遺跡もある。これらは、集落が大規模化すると、住居跡群と貯蔵穴群及び墓壙群を区分する傾向をもつようになると考えられる。また、陥し穴状遺構に関しては、居住の場、狩猟の場と区分されることが多く、集落跡と離れたところから検出される。また尾根上・斜面・低地と、あらゆる地形に設置する。この立地の差異は、遺構の形状の違いとあわせて、時

期差や、狩猟対象、狩猟方法の違いを反映している可能性がある。

#### 古代

古代の遺跡は、岩手県遺跡検索システムをみると、縄文時代の山地・丘陵上にある遺跡と共伴する例が多くみられる。他地域においては、古代になると、低地に集落が移動するのが一般的な傾向として認められるが、宮古地区ではそれとは異なる様相を示しており、むしろ、縄文時代の第二の特徴としてあげた、山口川・近内川などの中河川流域の、比較的標高の低い地域には、古代の集落が常まれなくなり、標高の高い尾根上や斜面に立地するものが多いのが特徴である。以下で事例を挙げながら、縄文時代の集落との立地の相違点を見ていく。

まず、縄文時代とも共通する立地である臨海性の小丘陵上にある遺跡は、上村貝塚（128）、鍬ヶ崎館山貝塚（61）などがある。上村貝塚は奈良～平安時代の住居跡が16棟、鍬ヶ崎館山貝塚は平安時代の住居跡3棟が検出されている。この場合、比較的広い平坦面を利用しておらず、集落の立地という点では、縄文時代と大きな変化はみられない。

次に山地・丘陵部の尾根上に集落が築かれているのは、島田II遺跡（158）、磯鳩館山貝塚（137）である。これらは縄文時代のやせ尾根上に常まれる集落と立地的には共通しているが、より平坦部の広い尾根上を選択しており、集落の規模も10～30棟程度と飛躍的に大きくなる。そしてもうひとつ特徴的なのは、同じ山地・丘陵部の尾根から谷（洞）に下る斜面上に立地する集落が増加することである。当八木沢II遺跡もこれに分類され、他に蛭沢遺跡（138）、木戸井内IV遺跡（106）があげられる。その谷は低地面が比較的広く、開けた谷部であることが多く、それを見下ろす形の斜面部から堅穴住居跡が検出される。蛭沢遺跡では、奈良時代から平安時代までの住居跡32棟が検出されており、それは時代が下るとともに、緩斜面から急斜面に進出して集落を営む傾向があると指摘されている（註2）。これらの尾根上や尾根からの斜面部に立地する遺跡は、堅穴住居跡とともに、その内外に製鉄関連の遺構（製鉄炉、大鐵冶炉、小鐵冶炉など）を伴うことが多い。そのため鉄生産関連の職人の移動と関連づけて考えられている（註3）。

以上みてきたように、縄文時代と古代の集落は、ともに山地・丘陵上を好んで営まれるという点では一致する。しかし、それは前述したこの地区特有の地形とともに、古代になって、社会的に鉄生産の重要性が増してくる中で、砂鉄が採取できるこの地域としての特異性によるものであり、土地選択の要因となる背景は大きく変化しているといえる。

（八重畠）

#### 註

- (1) 報告書一覧 41
- (2) 2時期以上を含む複合遺跡は重複して数えた。
- (3) 報告書一覧 27

## 4 基本土層

八木沢II遺跡は、調査区が北東～南西方向に長さ350m×幅90mと細長く、また尾根部と谷部が連続する複雑な地形であることから、尾根上と谷、谷部など地形に応じて6箇所で基本土層の確認を行った。地点により若干の差がみられるが、各観察地点の上層の堆積状況と基本土層は次のとおりである。

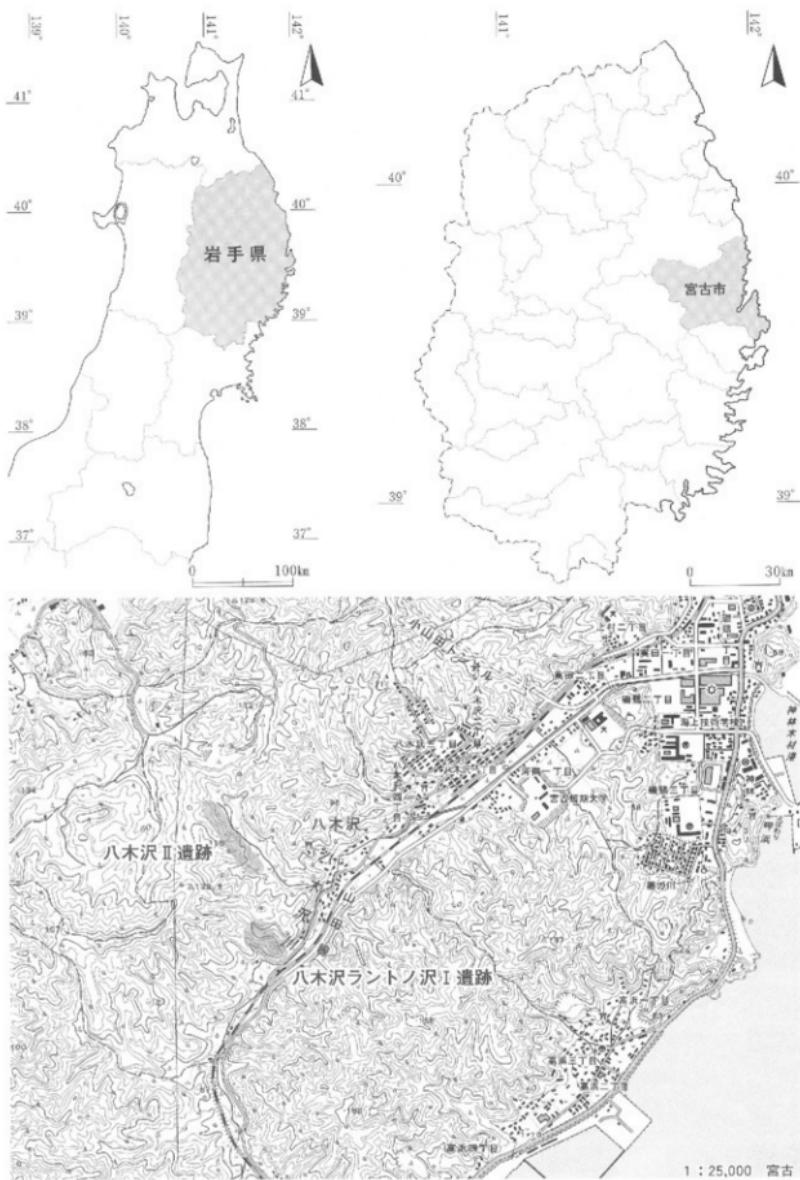
### （1）各観察地点の上層の堆積状況と遺構検出面

遺跡の現況は山林で、調査区には伐採した立木の搬出のための作業道が継続していた。調査区内の土層の堆積をみると、尾根部の上（観察地点②・④・⑤・⑥）や斜面部ではI層直下でⅢ層またはⅣ層が確認された。よってⅢ層または、Ⅳ層が遺構検出面となった。斜面部や谷部（観察地点①・③）ではI層直下にⅡ

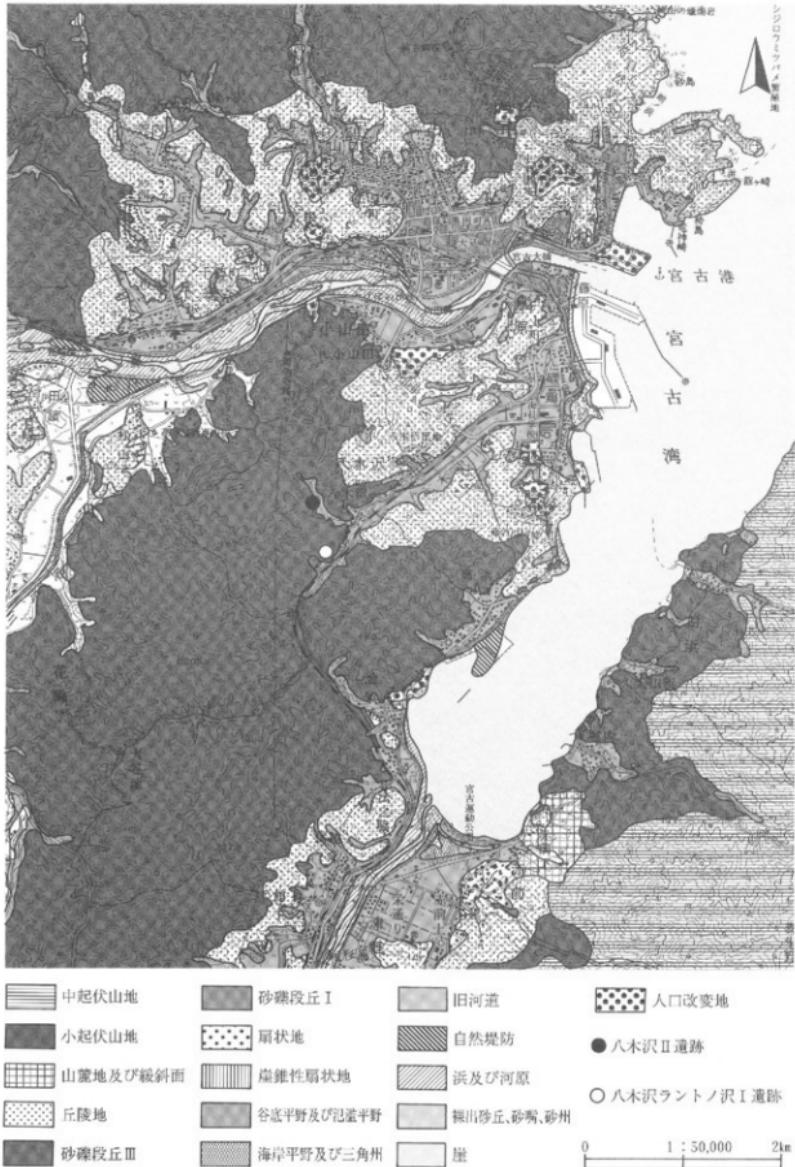
第1表 周辺の遺跡一覧表

施設	名	施設名	種別	時代・時期	報告書	施設	名	施設名	種別	時代・時期	報告書
No	名	名	種別	時代・時期	報告書	No	名	名	種別	時代・時期	報告書
1	22	1365	殿内地	繩文・弥生・古代		75	33	0222	青磁Ⅱ	古墳群	
2	22	1388	殿内地	繩文		76	33	0225	青磁Ⅳ	古墳群	
3	22	2347	殿内地	繩文		77	33	0226	青磁Ⅴ	古墳群	
4	22	1285	殿内地	繩文		78	33	0228	長柄丘	古墳群	
5	22	2087	殿内地	繩文・古代		79	33	0226	長柄土上	生糸野	
6	23	1042	アサツイ沢	殿内地	繩文・古代	80	33	0229	赤堀山	古墳群	
7	23	1058	柏・沢田	殿内地		81	33	0245	長鏡山	古墳地	
8	23	1121	柏・沢田	殿内地		82	33	0247	長鏡寺	古墳地	
9	23	2151	柏・沢田	殿内地		83	33	0253	長鏡Ⅰ	新宮城	3
10	23	2216	小平田	泊地		84	33	0257	長鏡寺Ⅱ	古墳地	
11	23	1223	牛沢	泊地		85	33	0321	長鏡寺Ⅲ	古墳地	21
12	23	1224	小平田	泊地		86	33	0311	長鏡寺Ⅳ	古墳地	
13	23	1253	高松	泊地		87	33	0328	長鏡寺Ⅴ	古墳地	
14	23	1256	小平Ⅰ	泊地	5	88	33	0340	長鏡寺Ⅵ	古墳地	
15	23	1295	赤坂原	泊地	2	89	33	0385	綱山	古墳地	
16	23	1300	赤坂原	泊地		90	33	1006	風日日	古墳地	
17	23	1326	風森	泊地		91	33	1029	風森Ⅰ	古墳地	
18	23	1332	風森山	泊地		92	33	1120	風森Ⅱ	古墳地	
19	23	1349	寒栗	泊地		93	33	1237	戸ノ出	古墳地	
20	23	1394	寒栗マダラ	泊地		94	33	1273	木本森内	古墳地	
21	23	2021	寒栗	泊地		95	33	1370	木山田Ⅱ	城跡跡	中世
22	23	2024	せノ沢	泊地	39	96	33	1380	木山田Ⅰ	宿毛地	古代
23	23	2055	熱川	泊地		97	33	1399	木山田Ⅱ	城跡跡	中世
24	23	2059	古川中村	泊地		98	33	2386	鶴山	宿毛地	
25	23	2104	新・沢	泊地		99	33	2162	鶴山宇知	前田地	
26	23	2133	宝塚御場	泊地		100	33	2166	鶴山大字北	無名跡	
27	23	2162	近内駅	城跡跡		101	33	2189	鶴山Ⅱ	城跡跡	
28	23	2294	逆内白石	城跡跡		102	33	2197	鶴山Ⅲ	城跡跡	
29	23	2296	逆内大字	城跡跡		103	33	2214	木門町Ⅱ	数寄地	
30	23	2397	逆内白石目	城跡跡		104	33	2227	木門町Ⅲ	数寄地	12-38
31	23	2395	泰田	泊地		105	33	2260	鶴山Ⅳ	数寄地	
32	23	2391	山田駅跡	泊地		106	33	2263	木門町Ⅴ	東落多	
33	23	2344	山田駅跡	泊地	2-31	107	33	2286	八木沢	数寄地	
34	23	2246	大津井	泊地		108	33	2282	鶴山Ⅴ	数寄地	12
35	23	2382	大津井	泊地		109	33	2306	小山田Ⅱ	前田地	
36	23	2310	山口駅	城跡跡		110	33	2343	鶴山Ⅵ	数寄地	
37	23	2628	狩野村	泊地		111	33	2399	鶴山御所	前田地	
38	23	2625	小川・沢御所	泊地		112	33	2519	鶴山御所Ⅱ	前田地	
39	23	2336	小川・人形町	泊地		113	33	2561	八木沢	数寄地	
40	23	2345	小川・人形町	泊地		114	33	2572	八木沢Ⅱ	数寄地	
41	23	2353	黒ヶ沢	泊地		115	33	31	可逆性あり△		
42	23	2362	黒ヶ沢	城跡跡		116	33	3025	三田相	城跡跡	中世
43	23	2577	日本家	泊地		117	33	3122	夏屋	数寄地	
44	24	1000	半田駅Ⅴ	泊地		118	34	0103	掛・懸野町	数寄地	
45	24	1020	半田駅Ⅵ	泊地	17	119	34	0124	掛・懸野町	数寄地	
46	24	1049	寒原	泊地		120	34	0143	光葉集	聚落跡・貝塚	
47	24	1166	平原	泊地		121	34	1007	藤原・草引	数寄地	
48	24	1184	平原Ⅱ	泊地		122	34	1027	藤原・草引Ⅱ	集落跡	中世
49	24	1167	平原Ⅲ	泊地		123	34	1041	藤原・草引Ⅲ	数寄地	
50	24	2003	日の出町Ⅰ	泊地		124	34	1047	城造山跡	数寄地	
51	24	2033	日の出町Ⅱ	泊地		125	34	1023	小山田Ⅳ	城跡跡	中世
52	24	2044	日の出町Ⅲ	泊地		126	34	1076	小山田Ⅴ	城跡跡	古代
53	24	2076	日の出町Ⅳ	泊地		127	34	1084	二村日	数寄地	
54	24	2080	小川大字	泊地		128	34	1095	七村日	数寄地	
55	24	2087	小川田	泊地		129	34	1091	二村番	数寄地	
56	24	2111	難野町	泊地		130	34	2061	上村日	数寄地	12
57	24	2150	上村町	泊地		131	34	2067	難野町御所	数寄地	
58	24	2158	井ノ口・南	泊地		132	34	2013	難野町Ⅱ	数寄地	古代
59	24	2175	井ノ口・南	泊地		133	34	2076	私良Ⅰ	数寄地	
60	24	2183	狼ヶ原駅(掛山)	城跡跡		134	34	2091	難野Ⅰ	数寄地	
61	24	2184	狼ヶ原山	泊地	23	135	34	2097	私良Ⅱ	数寄地	
62	24	2190	狼ヶ原山	泊地		136	34	2133	鹿瀬内	数寄地	
63	32	1333	下根寺	泊地		137	34	2155	破風越山	数寄地・賦税跡	中世
64	32	2333	田舎町(三合堂)	城跡跡		138	34	2155	破風越	平安・奈良	22-30
65	32	2358	田舎町	城跡跡		139	34	2184	毛輪築	城跡跡	
66	33	0087	芦井田	泊地		140	34	2132	招入保	城跡跡	
67	33	0099	芦井田	泊地		141	34	2195	七村日	城跡跡	
68	33	0128	近内大字	泊地		142	34	2236	七村日	城跡跡	
69	33	0148	近内木	城跡跡		143	34	2291	小野坂Ⅰ	数寄地	
70	33	0197	千施風呂御所	城跡跡		144	34	2398	人ノ介Ⅰ	数寄地	
71	33	0202	青普惠	泊地		145	34	0044	木本水田	数寄地	
72	33	0207	青普惠	泊地	21	146	34	0102	七村日Ⅰ	城跡跡	古代
73	33	0218	長里町	城跡跡		147	34	0122	七村日Ⅱ	城跡跡	
74	33	0220	青普惠	泊地	20	148	34	0138	長里町	城跡跡	
					21	149	34	0163	七村日Ⅲ	城跡跡	

登録番号	登録コード	登録名	種別	時代・時期	報告書	登録番号	登録名	種別	時代・時期	報告書
150	43 0200	扇風機	機械・古代			225 53 0060	長沢町御酒造工場	施設地	古文	
151	43 0205	八木城跡	歴史地	機械・古代	11	226 53 0072	長沢町御酒造工場	施設地	純文	
152	43 0212	扇風機	機械・古代			227 53 0246	扇風機	施設地	古文・古代	
153	43 0230	扇風機	機械・古代			228 53 0508	扇風機	施設地	古文・古代	
154	43 238	八木城跡	土木遺跡	機械・古代		229 53 0513	扇風機	施設地	機械・古代	
155	43 0301	八木城下城	歴史地	機械・古代		230 53 0582	扇風機	施設地	中古	
156	43 0312	八木城下城	歴史地	機械・古代		231 53 1093	長沢町御酒造工場	施設地	機械・古代	
157	43 0320	八木城下城	歴史地	機械・古代		232 53 1194	扇風機と瓦器	施設地	古文・古代	
158	43 0338	扇風機	機械・古代		7-8-9	233 53 1207	津軽石人像	施設地	機械・古代	
159	43 0367	八木城古跡	歴史地	機械・古代		234 53 1225	扇風機	施設地	機械・古文・良及	26
160	43 1012	内宮	歴史地	機械・古代	11	235 53 1266	扇風機	施設地	中古	
161	43 1040	扇風機	歴史地	機械・古代	37	236 53 1373	根井田穴山城	施設地	機械・古文・古代	
162	43 1042	扇風機	歴史地	機械・古代		237 53 1481	根井田穴山城	施設地	機械・純文	
163	43 1073	扇風機	歴史地	機械・古代		238 53 1501	根井田穴山城	施設地	機械・中古	
164	43 1206	八木城跡	歴史地	機械・古代	12-37	239 53 1589	久保田城	施設地	機械・古文・古代	
165	43 1244	八木城跡	歴史地	機械・古代		240 53 2031	根井田穴山城	施設地	機械・機械・古文	
166	43 1257	八木城跡	歴史地	機械・古代		241 53 2455	舟形塚	施設地	機械・純文	
167	43 1369	高森城	城郭・城柵	機械・古代		242 54 0069	赤坂前櫻井	施設地	機械・古文・古代	14-32
168	43 1388	高森城下城	歴史地	機械・古代		243 54 0113	小堀内Ⅰ	施設地	機械・古文・弘生	
169	43 2088	大字地図	歴史地	機械・古代		244 54 0123	小堀内Ⅱ	施設地	機械・古文	
170	43 2076	大字地図	歴史地	機械・古代		245 54 0142	小堀内Ⅲ	施設地	機械・良典	32
171	43 2143	大字地図	歴史地	機械・古代		246 54 0160	西原益田城	施設地	機械・古文・古代	14-32
172	43 2147	大字地図	歴史地	機械・古代		247 54 1008	東安八代城	施設地	機械・平安	14-32
173	43 2170	大字地図	歴史地	機械・古代		248 54 1025	唐前城	施設地	機械・平安	14-32
174	43 2204	大字谷部	集落跡	機械・古代		249 54 1064	赤坂前	施設地	城跡	中世
175	43 2206	大字谷部	集落跡	機械・古代		250 54 1072	赤坂前牛了平	施設地	機械	14-29
176	43 2209	ツバメノ井	歴史地	機械・古代						
177	43 2222	大字谷部	歴史地	機械・古代						
178	43 2233	大字谷部	歴史地	機械・古代						
179	43 2264	大字谷部	歴史地	機械・古代						
180	43 2314	高森城跡	歴史地	機械・古代						
181	43 2316	高森城跡	歴史地	機械・古代						
182	43 2335	高森城跡	歴史地	機械・古代	15					
183	43 2342	高森城跡	歴史地	機械・古代						
184	43 2363	高森城跡	歴史地	機械・古代						
185	43 2384	高森城跡	歴史地	機械・古代						
186	43 2394	高森城跡	歴史地	機械・古代						
187	43 2393	可能院あり①	施設地	機械・古代						
188	43 2391	可能院あり②	施設地	機械・古代						
189	43 2391	可能院あり③	施設地	機械・古代						
190	43 2391	可能院あり④	施設地	機械・古代						
191	43 2310	可能院あり⑤	施設地	機械・古代						
192	43 2229	可能院あり⑥	施設地	機械・古代						
193	43 0279	古木城ノソノリ	施設地	機械・古代	11-12					
194	43 2393	可能院あり⑦	施設地	機械・古代						
195	43 2393	可能院あり⑧	施設地	機械・古代						
196	43 0364	八木城中正	歴史地	機械・古代						
197	44 0003	高森城跡	歴史地	機械・古代						
198	44 0095	高森城跡	歴史地	機械・古代						
199	44 0208	高森城跡	歴史地	機械・古代						
200	44 0267	高森城跡	歴史地	機械・古代						
201	44 0364	高森城跡	歴史地	機械・古代						
202	44 1013	高森城今ノ屋	歴史地	機械・古代						
203	44 1082	高森城跡	歴史地	機械・古代						
204	44 1155	惣内Ⅰ	歴史地	機械・古代						
205	44 1309	白坂	歴史地	機械・古代						
206	44 1234	白坂大田口Ⅰ	歴史地	機械・古代						
207	44 1247	白坂大田口Ⅱ	歴史地	機械・古代						
208	44 1271	白坂大田口Ⅲ	歴史地	機械・古代						
209	44 1282	白坂大田所	歴史地	機械・古代						
210	44 1290	白坂大田所Ⅱ	歴史地	機械・古代						
211	44 1311	白坂Ⅰ	歴史地	機械・古代						
212	44 1267	老内Ⅰ	歴史地	機械・古代						
213	44 2176	老内Ⅱ	歴史地	機械・古代						
214	44 2195	老内Ⅲ	歴史地	機械・古代						
215	44 2290	老内Ⅳ	歴史地	機械・古代						
216	44 0328	千代野Ⅰ	歴史地	機械・古代						
217	44 0336	千代野Ⅱ	歴史地	機械・古代						
218	44 0347	千代野Ⅲ	歴史地	機械・古代						
219	52 0357	千代野Ⅳ	歴史地	機械・古代						
220	52 0379	民井川	水系	機械・古代						
221	52 1317	千代野Ⅴ	歴史地	機械・古代						
222	52 1306	千代野Ⅵ	歴史地	機械・古代						
223	52 0327	千代野Ⅶ	歴史地	機械・古代						
224	52 0327	千代野Ⅷ	歴史地	機械・古代						
225	52 0328	千代野Ⅸ	歴史地	機械・古代						
226	52 0366	高森城跡	歴史地	機械・古代						
227	52 0347	高森城跡	歴史地	機械・古代						
228	52 0358	高森城跡	歴史地	機械・古代						
229	52 0379	高森城跡	歴史地	機械・古代						
230	52 0387	千代野Ⅹ	歴史地	機械・古代						
231	52 1317	千代野Ⅺ	歴史地	機械・古代						
232	52 1306	千代野Ⅻ	歴史地	機械・古代						
233	52 0327	千代野Ⅼ	歴史地	機械・古代						
234	52 0327	千代野Ⅽ	歴史地	機械・古代						
235	52 0327	千代野Ⅾ	歴史地	機械・古代						
236	52 0327	千代野Ⅿ	歴史地	機械・古代						
237	52 0379	八木城下城	歴史地	機械・古代						
238	52 0388	八木城下城	歴史地	機械・古代						
239	52 0389	八木城下城	歴史地	機械・古代						
240	52 0389	八木城下城	歴史地	機械・古代						
241	52 0327	千代野ⅰ	歴史地	機械・古代						
242	52 0327	千代野ⅱ	歴史地	機械・古代						
243	52 0327	千代野ⅲ	歴史地	機械・古代						
244	52 0327	千代野ⅳ	歴史地	機械・古代						
245	52 0327	千代野ⅴ	歴史地	機械・古代						
246	52 0327	千代野ⅵ	歴史地	機械・古代						
247	52 0327	千代野ⅶ	歴史地	機械・古代						
248	52 0327	千代野ⅷ	歴史地	機械・古代						
249	52 0327	千代野ⅸ	歴史地	機械・古代						
250	52 0327	千代野ⅹ	歴史地	機械・古代						
251	52 0327	千代野Ⅺ	歴史地	機械・古代						
252	52 0327	千代野Ⅻ	歴史地	機械・古代						
253	52 0327	千代野Ⅼ	歴史地	機械・古代						
254	52 0327	千代野Ⅽ	歴史地	機械・古代						
255	52 0327	千代野Ⅾ	歴史地	機械・古代						
256	52 0327	千代野Ⅿ	歴史地	機械・古代						
257	52 0327	千代野ⅰ	歴史地	機械・古代						
258	52 0327	千代野ⅱ	歴史地	機械・古代						
259	52 0327	千代野ⅲ	歴史地	機械・古代						
260	52 0327	千代野ⅴ	歴史地	機械・古代						
261	52 0327	千代野ⅵ	歴史地	機械・古代						
262	52 0327	千代野ⅶ	歴史地	機械・古代						
263	52 0327	千代野ⅷ	歴史地	機械・古代						
264	52 0327	千代野ⅸ	歴史地	機械・古代						
265	52 0327	千代野ⅹ	歴史地	機械・古代						
266	52 0327	千代野Ⅺ	歴史地	機械・古代						
267	52 0327	千代野Ⅻ	歴史地	機械・古代						
268	52 0327	千代野Ⅼ	歴史地	機械・古代						
269	52 0327	千代野Ⅽ	歴史地	機械・古代						
270	52 0327	千代野Ⅾ	歴史地	機械・古代						
271	52 0327	千代野Ⅿ	歴史地	機械・古代						
272	52 0327	千代野ⅰ	歴史地	機械・古代						
273	52 0327	千代野ⅱ	歴史地	機械・古代						
274	52 0327	千代野ⅲ	歴史地	機械・古代						
275	52 0327	千代野ⅴ	歴史地	機械・古代						
276	52 0327	千代野ⅵ	歴史地	機械・古代						
277	52 0327	千代野ⅶ	歴史地	機械・古代						
278	52 0327	千代野ⅷ	歴史地	機械・古代						
279	52 0327	千代野ⅸ	歴史地	機械・古代						
280	52 0327	千代野ⅹ	歴史地	機械・古代						
281	52 0327	千代野Ⅺ	歴史地	機械・古代						
282	52 0327	千代野Ⅻ	歴史地	機械・古代						
283	52 0327	千代野Ⅼ	歴史地	機械・古代						
284	52 0327	千代野Ⅽ	歴史地	機械・古代						
285	52 0327	千代野Ⅾ	歴史地	機械・古代						
286	52 0327	千代野Ⅿ	歴史地	機械・古代						
287	52 0327	千代野ⅰ	歴史地	機械・古代						
288	52 0327	千代野ⅱ	歴史地	機械・古代						
289	52 0327	千代野ⅲ	歴史地	機械・古代						
290	52 0327	千代野ⅴ	歴史地	機械・古代						
291	52 0327	千代野ⅵ	歴史地	機械・古代						
292	52 0327	千代野ⅶ	歴史地	機械・古代						
293	52 0327	千代野ⅷ	歴史地	機械・古代						
294	52 0327	千代野ⅸ	歴史地	機械・古代						
295	52 0327	千代野ⅹ	歴史地	機械・古代						
296	52 0327	千代野Ⅺ	歴史地	機械・古代						
297	52 0327	千代野Ⅻ	歴史地	機械・古代						



第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡周辺の地形分類図



第3図 遺跡周辺の地質分類図



第4図 宮古市域図

層の堆積が確認された。このⅡ層は遺物をほとんど含まない層であるが、調査では、この層より焼土・造構や若干の遺物を確認している。よって谷部では、Ⅱ層上面を1次検出面、Ⅲ層上面を二次検出面とし、Ⅱ層が厚く堆積するところは、段階的に掘り下げて造構の確認を行った。

八木沢ラントノ沢I遺跡の基本土層の堆積状況と遺構検出面は八木沢II遺跡と同様である。

## (2) 基本土層

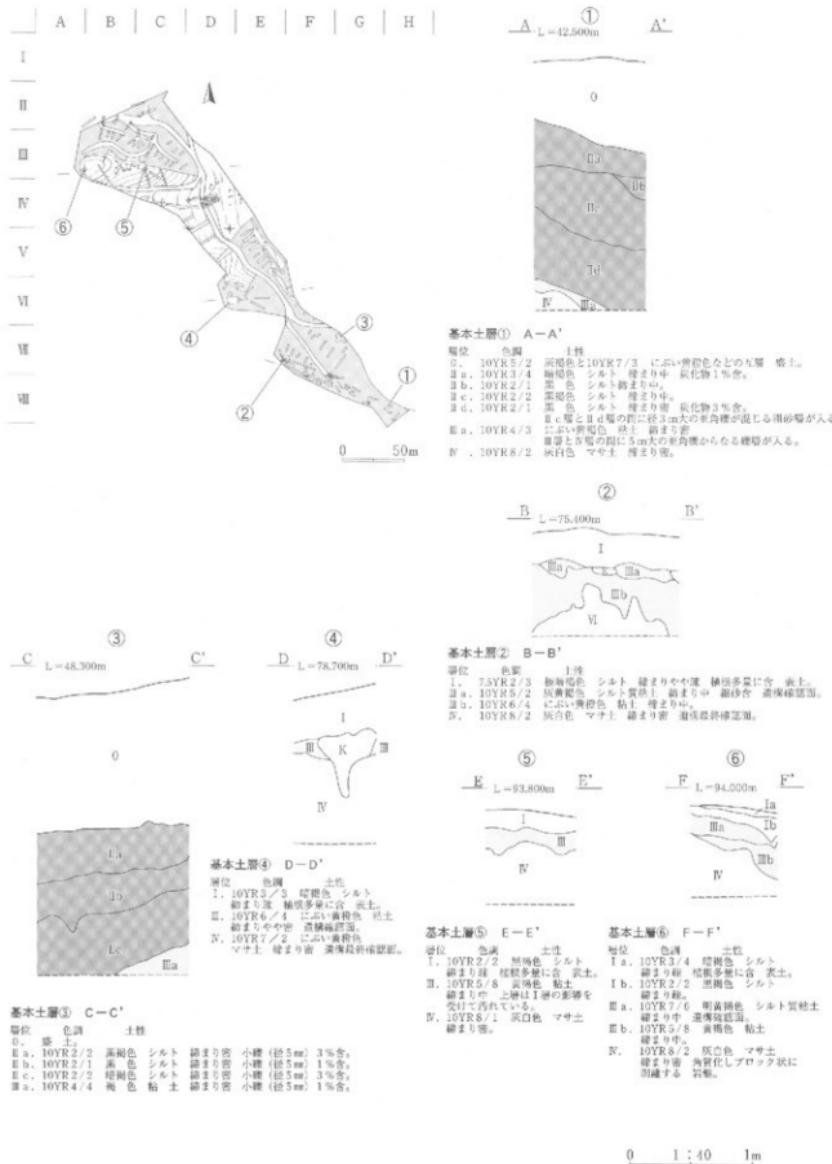
遺跡の基本土層の色調・層厚・土性などの特徴は、以下のとおりである。

I層	10YR 2/2	黒褐色	層厚10~110cm	シルト	縮り疎	現表土(盛土、漸移層含)
II層	10YR 3/4	暗褐色	層厚20~120cm	シルト	縮り中	(谷部の一次検出面)
III層	10YR 5/6	黄褐色	層厚20~40cm	粘土	縮り密	地山(尾根部の一次検出面、谷部の2次検出面)
IV層	10YR 8/2	灰黄褐色	層厚50cm以上	マサ土	基盤の疊層に統く(尾根部の2次検出面)	

(阿部)



第5図 周辺の遺跡分布図



第6図 基本土層図

### III 調査・整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) 調査区の設定と遺構の命名

###### ① 八木沢Ⅱ遺跡

調査区の地区割にあたっては、平面直角座標（第X系：世界測地系）に合わせた基準点をもとにし、調査区全体にメッシュがかかるようにグリッドを設定した。設定した基準点・補点の座標値（世界測地系）は、以下のとおりである。

基準点1	X=-41,772.000	Y=94,200.000	H=94.044m
基準点2	X=-41,772.000	Y=94,248.000	H=84.726m
補 点1	X=-41,820.000	Y=94,284.000	H=68.273m
補 点2	X=-41,820.000	Y=94,316.000	H=58.711m
補 点3	X=-41,940.000	Y=94,380.000	H=67.341m
補 点4	X=-41,940.000	Y=94,400.000	H=66.217m

グリッドは、原点(X=-41,660.000, Y=94,160.000)を北西側隅にして、40m四方の大グリッドを設定し、さらに4m四方の小グリッドを設定した。グリッド名は、大グリッドは北から南に向かってI・II・III(ローマ数字)…、西から東に向かってA・B・C(アルファベット大文字)…とし、小グリッドは北から南に向かって1・2・3(アラビア数字)…、西から東に向かってa・b・c(アルファベット小文字)…とした。それぞれの組み合わせでIA1a・IB1bグリッドの区画名を付し、区画左上の杭をもって、その区画のグリッド名称を表した。

###### ② 八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡

調査区の地区割の方法は、八木沢Ⅱ遺跡に準じている。

##### (2) 遺構の名称

検出された遺構の名称は、遺構の種類に応じてアルファベットで略号化し、検出順にそれぞれ番号を付けて、SI01・SK02のように命名した。精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混亂を防止するために欠番とした。本調査で使用した遺構略号と遺構名は以下に記したとおりである。報告にあたっては、現場で命名した遺構名をそのまま使用しているため一部欠番を生じている。

SI：竪穴住居跡、SKI：竪穴状遺構、SK：陥し穴状遺構・土坑、SN：焼土遺構、SZ：土器埋設遺構、SD：溝跡、SW：炭窯跡

###### ① 八木沢Ⅱ遺跡

検出された遺構種別・検出数・遺構名は以下に記したとおりである。なお、遺構名の一覧表は第2表に記した。

遺構種別：検出数：遺構名

竪穴住居跡 6棟：SI01・02・03・04・05・06

竪穴状遺構 2棟：SKI01・02

第2表 遺構一覧表

No	遺構名	種別	No	遺構名	種別	No	遺構名	種別
1	SI01	堅穴住居跡	14	SK30	陥し穴状遺構	27	SK15	土坑
2	SI02	堅穴住居跡	15	SK01	土坑	28	SK16	土坑
3	SI03	堅穴住居跡	16	SK03	土坑	29	SK17	土坑
4	SI04	堅穴住居跡	17	SK04	土坑	30	SK18	土坑
5	SI05	堅穴住居跡	18	SK05	土坑	31	SK19	土坑
6	SI06	堅穴住居跡	19	SK06	土坑	32	SK21	土坑
7	SK101	堅穴状遺構	20	SK07	土坑	33	SK23	土坑
8	SK102	堅穴状遺構	21	SK08	土坑	34	SK24	土坑
9	SK02	陥し穴状遺構	22	SK09	土坑	35	SK26	土坑
10	SK14	陥し穴状遺構	23	SK10	土坑	36	SK27	土坑
11	SK20	陥し穴状遺構	24	SK11	土坑	37	SK28	土坑
12	SK22	陥し穴状遺構	25	SK12	土坑	38	SK29	土坑
13	SK25	陥し穴状遺構	26	SK13	土坑	39	SN01	焼上遺構

陥し穴状遺構 6基：SK02・14・20・22・25・30

土 坑24基：SK01・03・04・05・06・07・08・09・10・11・12・13・15・16・17・18・19・21・23・24・26・27・28・29

焼土遺構 2基：SN01・02

土器埋設遺構 2基：SZ02・04※01・03欠番

溝 跡 7条：SD01・02・03・04・05・06・09※07・08欠番

炭窯跡 2基：SW01・02

② 八木沢ラントノ沢 I 遺跡

陥し穴状遺構 1基：SK01

土 坑 1基：SK02

### (3) 試掘・粗掘と遺構検出

当初、幅1～2m、長さ5～10mのトレーニングを地形に応じて任意の場所に入れ、土層の堆積状況を把握した。試掘溝の設定にあたっては、平成17年度の試掘調査の成果を考慮しながら、計129本の試掘溝を入れている。試掘の結果、急斜面地で遺構・遺物が存在する可能性が低いと判断された区域は、試掘調査のみで調査を終了した。それ以外の区域においては、試掘結果にもとづいて表上掘削を行った。調査区全体の表土の厚さは20～30cm程あり、包含する遺物はほとんどないことを確認し、重機により表土除去を行った。

遺構検出は人力で行った。遺構の検出は、尾根上では、Ⅲ層の黄褐色土層（一次検出）またはⅣ層マサ土層（二次検出）でを行い、谷部では、Ⅱ層黒褐色土層（一次検出）またはⅢ層黄褐色土層（二次検出）で検出を行った。

### (4) 遺構精査

検出された遺構の精査は、原則として住居跡や炭窯跡など人形の遺構の場合は4分法、土坑類は2分法で行った。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影を適宜行っている。陥し穴の底面で確認された副穴は、径が小さく深いことから、トレーニングを設定して断面観察による記録を優先して作成した。

遺構内出土の遺物は、覆土で可能な限り分層して取り上げ、床面出土の遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則としてグリッドごとに出土した層位を記して取り上げ、適宜、写真撮影・図面作成をしている。

また、現場での記録作成では、上記の図面・写真以外にField・Card（以下F・Cと略す）を使用して、遺跡の調査経過や遺構の精査の進捗状況を記録している。

#### （5）実測・写真撮影

平面実測はグリッドごとに合わせた1mメッシュを基準として行った。平面図・断面図の縮尺は堅穴住跡・土坑類・炭窯跡などは1/20を基本として、マイラー用紙に記録した。レベルは、基準高をもとに絶対高で測った。なお、トレンド位置図・個々の遺構平面図については、グリッド杭・水糸によって設けられた基準から計測する簡易遺り方測量ではなく、電子平板を用いて図化作業を行った。断面実測については、任意の高さを基に設定した水糸を基準として計測を行った。

写真撮影は、35mmモノクロームとカラー・リバーサル各1台、モノクローム6×9cm判1台、補助用としてデジタルカメラ1台を使用して調査員が行った。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを使用した。実際の撮影は各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などについて行っている。また、調査終了段階でセスナ飛行機による遺跡の航空写真撮影を行った。

#### （6）土層注記

断面図作成後に土層注記を行った。観察項目は、色調・土性・縦まり・混入物などである。基本的には『新版標準土色帳』（1990年版、小山正忠・竹原秀雄編・著）をもとに行っているが、縦まりは、密・やや密・中・やや疎・疎、の5段階で判断した。個々の遺構の覆土堆積状況は、自然か人為かの判断と、埋没した土の起源の把握を課題として記録した。層名は調査区内に見られる基本的な土層をローマ数字（I・II・III）、遺構内覆土をアラビア数字（1・2・3）で表した。層位の細分の必要が生じた場合は、小文字のアルファベットを付し、Ia・Ib・Ic…などと表わした。

#### （7）土壤水洗

縄文時代の住居跡においては、動物遺存体が存在する可能性、古代の住居跡においては、製鉄関連の遺構である可能性を考慮し、住居跡の覆土下位（床上5cm）の覆土、住居跡の炉跡の覆土及び焼土・カマドの覆土上及び焼土を探取し、水洗い・天日での乾燥・篩（5mm・3mm・1mm）による仕分け、磁着作業を行った。この工程を経て得られた遺物には、土器・石器の細片や砂鉄などがある。

#### （8）調査の経過

##### ① 八木沢Ⅱ遺跡

調査期間は4月12日～8月10日で、作業実働日数は80日であった。作業員の登録人数は、当初35人で始まり、一日の平均稼働作業員数は25人ほどで作業を行った。以下に調査経過を簡略に記す。

- 4月12日(火) 資材搬入、調査開始、作業員登録35人
- 4月24日(木) 基準点測量（釜石測量設計株式会社）
- 6月11日(月) 作業員5人隠里Ⅲ遺跡へ支援（7月13日まで）
- 7月18日(月) 作業員6人森崎Ⅱ遺跡へ移動（8月1日まで）
- 7月21日(木) 現地説明会：13:00～15:00、見学者100人
- 8月1日(金) 航空写真撮影（東邦航空）
- 8月10日(金) 終了確認、調査終了・撤収

具体的な調査の進行状況を記す。調査対象区域は、平成17年度に試掘調査が行われた30,600m<sup>2</sup>よ

り、本調査対象範囲として示された12,600m<sup>2</sup>である。調査区の現況は山林で、木は伐採されていたが、木を積み出す際に旧地形を造成して設けられた作業道が、調査区を縦断していた。

作業は、調査区の確認を行った後、人力で雑物撤去を行い、各所に雑物を集積した。集積した雑物は、後に重機で調査区域外に搬出している。重機による雑物撤去が終了したのは5月11日で、雑物撤去に約12日間を要している。

雑物撤去が終了した区域から、任意にトレンチを設けて試掘調査を行った。試掘調査の留意点は、遺構の検出面の把握と尾根部・谷部が連続する調査区における上層の確認である。また、平成17年度に行われた試掘調査で確認されている、遺構の確認にも留意して行った。今回の調査では、トレンチ129本を設定している。調査区は、急傾斜地も含まれるため、遺構の分布を把握することにも留意し、遺構が確認される可能性が低いと判断した区域は、全面表土掘削を行わなかった。調査区を南側から便宜的に1・2・3・4・5区と仮称して調査を進めた。

4月は雑物撤去と1・2・4・5区の試掘を中心に行なった。5区は遺構・遺物は確認できなかったことから、以後、土捨場として利用した。

5月は1区の遺構精査・2区の遺構精査及び、3区の試掘、4区の表土掘削を行なった。6月は3区の表土掘削及び4区の遺構精査、7月は、3区の遺構精査・4区の遺構精査及び試掘を行なっている。排出する土量を考え、5月14日から重機（BH・CD）による排土処理を開始した。以後、重機は、調査終了時まで断続的に使用した。土捨場は、調査区の南側（調査対象外）と北側（5区）の2箇所に設け、連日、重機による残土の搬出作業を行なった。7月以降、連日30度を超える真夏日が続いている。野外作業は継続して行い、併行して土壤水洗・仕分け等の作業を事務所内で行なっている。

調査区の全容が見え始めた7月21日に現地説明会を行なった。以後、作業の進行に併せて航空写真撮影を行なった。遺構数がほぼ確定し、調査終了の目処が付いた8月10日に終了確認を受け、調査を終了して撤収した。

## ② 八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡

調査期間は10月9日～10月25日で、作業実働日数は13日であった。作業員の登録人数は当初6人で始まり、一日の平均稼働作業員数は4人ほどで作業を行なった。以下に調査経過を簡略に記す。

10月9日(火) 調査開始、作業員登録6人

10月24日(木) 航空写真撮影（東邦航空）

10月25日(金) 終了確認。調査終了。

実際の調査は、隣接する八木沢駒込Ⅰ遺跡の調査と併行して行われた。

(阿部)

## 2 室内整理

八木沢Ⅱ遺跡の室内整理の期間は、平成19年11月1日～平成20年3月31日で、整理に従事した作業員は1名である。八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡の室内整理の期間は、平成19年12月3日～平成19年12月14日である。野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は室内整理の段階で次のように処理し、整理を行い、報告書作成とともに資料化を行なった。

### (1) 遺構に関する記録

実測図は遺構ごとに分類し、図面は点検のうえ、第二原図を作成してトレースを行なった。電子平板で測量したデータについては、現場で入手した情報をそのまま保存することとし、打ち出したデータ

は、手実測で記録したその他の実測図と合わせて、マイラー用紙に第2原図を作成している。

撮影されたフィルムはネガアルバムに密着写真と一緒にして収納した。カラースライドフィルムはスライドファイルに撮影順に収納した。

### (2) 遺物の整理

遺物は野外及び当センター整理室で水洗した後、細片は別として、出土地点・層位等を台帳に登録し、その登録Noを全破片に注記した。その後、出土地点・層位ごとに仕分けを行い、遺構ごと、遺構出土の遺物はグリッドごとに接合・復元作業を行った。遺物の実測図は実物大とし、トレースは遺物の状況に応じて実物大あるいは縮小して図化した。石材・炭化材・炭化種実・炭化材の年代測定の分析は外部の専門家に委託した。

### (3) 遺物の選別・図化の基準

遺物の整理・報告にあたっての作業・記録作成は以下の方針で進めた。報告書に掲載された遺物は出土した遺物のすべてではなく、整理のなかで設定した基準を基に選別した一部の資料である。以下に選別基準を明示する。また、資料化は図化・写真が全てではない。不掲載資料についても可能な限り数的処理を行い、出土資料全体の傾向を把握するためのデータとした。

#### a 土器

はじめに出土地点別に重量計測を行った。土器の接合と並行して、遺物の選別を進めた。接合した土器については、原則としては計測値（器高・口径・底径）1箇所以上計測可能なもの（器形が把握できるもの）を立体土器として登録し、図化した。破片資料は、優先的に口縁部破片を選択したが、一部胴部破片も選んでいる。そして、該当する土器の型式名を記録して歴的処理を行った。底部破片は、底部圧痕・調整が認められる破片を選別して図化した。掲載にあたっては、縄文・弥生土器と土師器を分けて掲載した。

#### b 石器

石器は、出土したすべてを対象として、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行い、さらに一部資料について図化を行った。図化の基準は、遺構内出土遺物を優先して図化することにし、それ以外の石器は、観察表・写真を掲載するに留めた。

#### c 土製品・石製品

土製品・石製品は、出土したすべてを対象として、仕分け・登録作業・計測・分類を行い、全点について、観察表・図・写真を掲載した。

#### d 陶磁器

陶磁器は、出土したすべてを対象として、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行い、さらに一部資料について図化を行った。図化の基準は、遺構内出土遺物及び19世紀代までの陶磁器を可能な限り図化することにし、それ以外の陶磁器は、観察表・写真を掲載するに留めた。

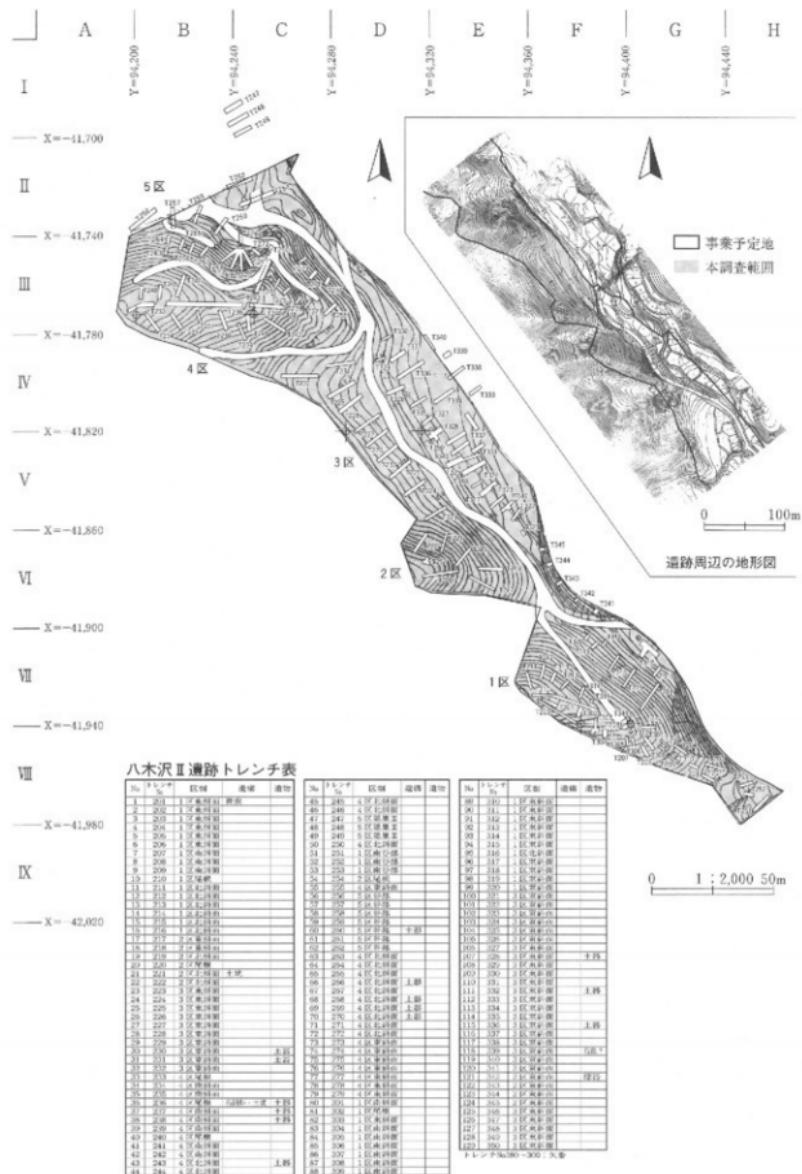
#### e 鉄製品・ガラス製品

鉄製品・ガラス製品は、出土したすべてを対象として、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行い、全点の観察表・図・写真を掲載した。

#### f 植物遺存体

炭化種実と炭化材がある。炭化種実・炭化材とも、個々に仕分け・登録作業・計測・分類を行った。炭化種実は、観察表・写真掲載とした。炭化材は、観察表のみの掲載とし、樹種名を掲載するに留めた。なお、遺構内出土の資料を中心には炭化種実2点・炭化材6点について、専門家による種実同定と放射性炭素年代測定を行い、分析結果を掲載した。  
(阿部)

# 1 野外調査



第7図 トレンチ位置図

## IV 八木沢Ⅱ遺跡

### 1 検出遺構

#### (1) 検出遺構の概要 (第8~28図)

検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡4棟、古代の竪穴住居跡2棟、竪穴状遺構2棟、陥し穴状遺構6基、土坑24基、焼土遺構2基、土器埋設遺構2基、炭窯跡2基である。

遺構の占地をみると、縄文時代の遺構のうち竪穴住居跡や大形の土坑類は、調査区北端の尾根上に占地し、古代の竪穴住居跡は尾根の崩にあたる緩斜面に占地している。調査区南端の南斜面では現代の炭窯跡が検出された。時期によって遺構の占地が異なる特徴がある。以下、遺構毎に詳述する。

(阿部)

#### (2) 竪穴住居跡 (第10~12図)

縄文時代中期の竪穴住居跡が4棟、古代の竪穴住居跡が2棟、計6棟が検出された。いずれも斜面上に築かれており、遺存状態はよくない。立地をみると、縄文時代の住居跡は、調査区北端のやせ尾根上にSI01・03・06の3棟と、その尾根から谷に向かう、谷頭にあたる箇所(Ⅲ区)でSI02が検出された。古代の住居跡はその尾根から谷に向かう西斜面上(Ⅲ区)からSI04・05の2棟が検出された。

(八重畠)

#### SI01竪穴住居跡

##### 遺構 (第10図、写真図版3)

[位置・検出状況] ⅢB 7h・8hグリッド。尾根中央にトレッジを入れた段階で、表土直下から多数の縄文土器片と炉の焼土を検出した。その後、炉より斜面上部である西側に、暗褐色上の広がりを確認した。遺構確認面はIV層である。

[重複関係] SI03、SKI01、SK08を切る。SK07、SZ02に切られる。

[規模・平面形] 径4.39×(2.26)mで、円形基調と推定される。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・明黄褐色土を主体とする。自然堆積とみられる。

[壁・床面] 壁・床面とも、斜面上部にあたる住居跡西半で明瞭に残存する。壁は外傾して立ち上がる。床面は西側では基盤層であるIV層を床面としているが、斜面下部である東側ではⅢ層を床面としていたものとみられ、土砂の流出などの要因により、残存していないかった。

[柱穴・配置] PP1~PP14の14個が検出された。西側半分から検出される柱穴は、規模が30~50cmで深さは30~60cmである。一方、東側半分から検出された柱穴は、規模が90~100cm前後と大きくなる。配置は不明である。

[炉] 地床炉である。住居跡中央より、やや北西寄りに位置すると考えられる。SK07に切られ、三日月状に残存する。規模は66×(33)cmを測る。焼土の厚さは16cmを測る。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (第29・32・41・42・46図、写真図版22・29・30・33・34)

[出土状況] 覆土、床上、柱穴内から縄文土器片(総重量4390.6g)、石器、炭化種実が出土している。

[土器] 繩文土器（1～8）。

[石器] 石鏃（151）・楔形石器（155）・不定形石器（157）・磨石（165・166）。

[石製品] 三角形状石製品（201）。

[炭化種実] コナラ属（251）。

時期 出土遺物からみて、繩文時代中期末葉と思われる。

(八重畠)

### SI02竪穴住居跡

遺構（第11図、写真図版4）

[位置・検出状況] IVc 4 b～5 c グリッド。II層で黒褐色土の広がりとして確認した。当該地点の表土除去中にトレンチを入れたところ、遺構の覆土状の堆積層と床面と思われる平坦面を確認したことから、住居跡の可能性を考えて調査を行った。このトレンチにより住居跡の北東側の床・壁の一部を失っている。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 南側が調査区域外であるため正確な規模・形状は不明である。残存している部分は、径5.54×(3.26)mで、残された壁は曲線的であり、平面形は円形基調と思われる。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土から構成される。自然堆積と考えられる。

[壁・床面] 壁・床は、Ⅲ層を掘り込んでつくられている。残存している北壁は外傾して立ち上がる。壁高は126.3cmである。床はほぼ平坦だが、西から東にかけて若干傾斜する。壁の立ち上がりが確認された北西側は、壁際が帯状の高まりを持って床面より一段高くなっている。

[柱穴・配置] PP 1～9の9基を確認した。PP 1・2は主柱になる可能性がある。その他は、壁際に設けられた柱穴で規模が小さい。柱穴の開口部が住居跡の内側に向くように掘り込まれている柱穴がある。

[炉] 地床炉が1基確認されている。焼成面が床面よりやや高く、凹凸があることなど若干の問題があるが、炉跡と認定した。炉の位置は、推定される住居跡の形状のなかで、北寄りの位置に当たる。炉の規模・平面形は、径61×31cmの不整形である。焼上の厚さは4cmである。

遺物（第29・30・32・33・39・41～45図、写真図版22・23・28～30・32）

[出土状況] 覆土下位から床上にかけて上器（総重量3,606g）・土製品・石器・炭化材が出上している。炭化材は、住居跡の北西壁に沿って出土している。磨石が4点出土している。

[土器] 繩文土器（9～23）。

[土製品] きのこ形土製品（141）。

[石器] 不定形石器（158）・磨製石斧（162・163）・磨石（167～170）・台石（190・191）。

時期 出土した遺物から繩文時代中期末葉と推定される。出土した炭化材（クリ）について放射性炭素年代測定を行った結果、補正年代4090±40年の結果が得られている。

(阿部)

### SI03竪穴住居跡

遺構（第12図、写真図版5）

[位置・検出状況] III B 8 h、9 h グリッド。入力で表土を除去していたところ、Ⅲ層上から石圓炉を検出した。その後、石圓炉より斜面上部である北東側に黄褐色土の広がりを確認した。

[重複関係] SI01に切られる。SI06を切る。またSK17と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模・平面形〕住居跡東南部は斜面のため、土層流出などの理由で失われていた。残存部で径(3.26)×(2.48)mを測る。円形基調であると推定される。

〔覆土・堆積状況〕黄褐色土、褐色土など5層の堆積である。自然堆積と考えられる。

〔壁・床面〕検出された北部の壁も、SI06によりIV層を壁としていなかったため、判断が難しかったが、覆土の差異と、SI03の床面がSI06の床面より若干低く、床から壁への立ち上がりが少しではあるが認められたため、SI03の壁を特定することができた。床面は斜面上部では基盤層であるIV層を利用しているが、斜面下部はIII層を床面としていたものとみられ、土層流出などの要因により残存していなかった。

〔柱穴・配置〕PP1～11の11個が検出された。規模は30～50cm前後で、深さは20～50cm前後を測る。配置は不明である。

〔炉〕石囲炉である。住居跡のほぼ中央に位置すると考えられる。炉石は6個の流紋岩で弧を描くように配置されていた。礫はすべて簡面理で剥離されたものを用い、炉の内側に面をあわせるように配置している。しかし、この炉石は床面と推定した部分より10cm程度高いレベルで検出されている。これが床面の掘りすぎによるものなのか、木の根などの自然営為により、上に持ち上げられたもののかは判断がつかなかった。また石囲炉から80cm程斜面を下ったところに、炉石が流れ落ちたものとみられる、同じ石材の礫が1個検出されている。石囲炉内に焼土はほとんど確認されなかつた。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物（第30・33・43図、写真図版23・31）

〔出土状況〕覆土上、石囲炉内から縄文土器片（総重量737.6g）、石器が出土している。

〔土器〕縄文土器（24～28）。

〔石器〕磨石（171）・砥石（193）。

時期 出土遺物からみて、縄文時代中期中葉と思われる。出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代90±30BPの結果を得ている。試料採取に際して誤りがあった可能性がある。  
(八重畠)

#### SI04竪穴住居跡

遺構（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕III D10g～IVD1gグリッド。IV層で黒褐色土と焼土の広がりを確認し、住居跡の可能性を考えた。その後、煙道の煙出し部分を確認したことから古代の竪穴住居跡と認識して調査を行った。

〔重複関係〕造構の遺存状況が悪いため、明確にできないが、平面的にはSK14陥し穴状造構と重複していた可能性がある。

〔規模・平面形〕斜面下の西側が残っていないため明確ではない。残存している部分は、一辺3.19×(1.35)mで、残された壁は直線的である。主軸方向はN-86°～Wである。

〔覆土・堆積状況〕不明である。カマドの燃焼部の上には黒褐色土が堆積していた。

〔壁・床面〕詳細は不明である。IV層を掘り込んでつくられている。残存している西壁は外傾して立ち上がる。壁高は41.1cmである。床はほぼ平坦であるが、西から東に緩く傾斜している。

〔柱穴・配置〕PP1・2の2個を確認した。カマドを挟んで対になるように位置している。住居跡全体の柱配置は不明である。

〔カマド〕住居跡の西壁中央より南側に偏った位置に設けられている。斜面上方に当たる。袖部は、

地山の削り出しと思われるが、燃焼部の南側にわずかに残る程度である。燃焼部は、径40cmほどの範囲で焼土が形成されており、焼土の厚さは2cmほどである。煙道は矧り貫き式で、径20cm、長さ1mの横穴を掘り抜いてつくられている。2方向から掘った穴の接合部は、きれいに接合せず、微妙に食い違っている。煙道の覆上には、径15~20cmほどの弾角礫が詰められていた。

【その他の付属施設】カマドの北側で、部分的に貼床が施されていた。

#### 遺物

【出土状況】土器片（総重量30.3g）が出土している。小片のため掲載していない。

時期 詳細は不明だが、古代と考えられる。

(阿部)

#### SI05堅穴住居跡

遺構（第14図、写真図版6・7）

【位置・検出状況】IVD 2fグリッド。Ⅲ層で、黒褐色土の広がりとして検出した。検出した段階で、斜面下方は失われていたが、斜面上方の一辺が直線的であったことから、古代の住居跡の可能性を考えて調査を行った。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】斜面下の西側が残っていないため明確ではない。残存している部分は、一辺3.71×(1.45)mで、残された壁は直線的である。主軸方向はN-58°-Wである。

【覆土・堆積状況】黒褐色土・黒色土・黄褐色土から構成される。自然堆積と考えられる。

【壁・床面】詳細は不明である。IV層を掘り込んでつくられている。残存している西壁は外傾して立ち上がる。壁高は67.5cmである。床はほぼ平坦である。

【柱穴・配置】確認できていない。

【カマド】住居跡の西壁中央より北側に偏った位置に設けられている。斜面の上方に当たる。袖部は、燃焼部の南側に礫を心材として周囲に粘土を貼りつけて構築されていた。燃焼部は、径60×50cmほどの焼土の広がりが形成されていた。焼土の厚さは5cmほどである。煙道は矧り貫き式で、径25cm、長さ1.4mの横穴を掘り抜いてつくられている。煙出し部の深さは1mを測る。煙道の覆土には、黒褐色土・褐色土が堆積する。

【その他の付属施設】なし。

遺物（第30・38・39図、写真図版27・28・33）

【出土状況】覆土の下位から床上にかけて、土器（総重量10,409g）・石器の遺物が多く出土している。

【土器】土師器（29・121~130）。

【石器】台石（192）。

時期 出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

#### SI06堅穴住居跡

遺構（第12図、写真図版8）

【位置・検出状況】ⅢB 8 g・9 hグリッド。SI03を精査中に、その西側から、別の遺構と見られる覆土（褐色土・黄褐色土）の広がりが確認され、SI03の調査終了を待って、精査を開始した。遺構確認面はIV層である。

【重複関係】SI03に切られる。

【規模・平面形】残存部で径(2.36)×(2.43)mを測る。円形基調と推定される。

【覆土・堆積状況】上部は黄褐色土、下部は明黄褐色土主体である。覆土上層から炭化物粒～プロックが多く認められ、覆土下層には炭化材が多く含まれていた。この堆積状況から焼失住居の可能性が考えられるが、住居跡の大半が切りあいや、土砂の流出などにより失われているため、不明である。

【壁・床面】木根の影響を受けている部分もあるが、ほぼ外傾して立ち上がる。床面はIV層を利用している。

【柱穴・配置】PP 1～4 の4個を検出した。規模は直径30～40cm程度で、深さは30～60cmを測る。PP 1とPP 2には炭化物粒が多く含まれていた。柱穴の配置は不明である。

【炉】検出されなかった。

【その他の付属施設】なし。

#### 遺物

【出土状況】PP 4 から微細な土器片（総重量4.2g）が出土している。また、覆土3層から炭化材（クリ・ケヤキ・ナラ）が4点出土している。

時期 造構の新旧関係からみて、縄文時代中期中葉と思われる。なお炭化材のうち1点について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代4270±40BPとの結果がでている。 (八重畑)

### (3) 壊穴状造構 (第15図・写真図版8)

IV区の尾根上で検出した2棟を登録した。覆土が浅く、不明瞭な点が多いが、壁の立ち上がりが一部分でも検出されたこと、また床面が平坦で、柱穴が確認できたことから、壊穴状造構とした。

(八重畑)

#### SK101壊穴状造構

造構 (第15図・写真図版8)

【位置・検出状況】ⅢB 7h・8iグリッド。当初、暗褐色土の広がりを土坑と想定し、精査を開始したが、断面の観察により、二次堆積のマサ土を壊穴状造構の床面として、そこから柱穴を掘り込んでいることが判明した。その後、周辺にサブトレンチを入れるなどして、造構範囲を特定し、精査を再び開始した。よって、当初土坑として掘り進めた部分の床面は消失している。検出面はⅢ層である。

【重複関係】SI01に切られる。

【規模・平面形】残存部で径(3.40)×(3.04)mを測る。平面形は円形基調と推定される。

【覆土・堆積状況】暗褐色土・明黄褐色土が主体である。自然堆積とみられる。

【壁・床面】壁は外傾して立ち上がるが、一部木根の影響で歪みがある。床面は二次堆積のマサ土を利用している。

【柱穴・配置】PP 1～7の7個を検出した。配置は不規則である。

【その他の付属施設】なし。

遺物 (第30・33・43図、写真図版23・31)

【出土状況】覆土・柱穴内から縄文土器片（総重量49.0g）、覆土上層から石器が出土した。

【土器】縄文土器 (30)。

【石器】磨石 (172・173)。

時期 造構の新旧関係から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

### SK102堅穴状遺構

遺構（第15図、写真図版8）

【位置・検出状況】ⅢB 8 j・ⅢC 9 aグリッド。当初、木根が密集していることから、平面から遺構の存在を確認していなかったが、ベルトを設定して表土を除去していたところ、Ⅳ層から柱穴らしきプランを検出した。その後、周辺を精査し、西側に壁の立ち上がりを検出したため、堅穴状遺構とした。検出面はⅣ層である。

【重複関係】SK10・12・16と重複するが、新旧関係は不明である。

【規模・平面形】不明な点が多いが、残存部で径1.8mを測る。形状は不明である。

【覆土・堆積状況】覆土は浅く、暗褐色の腐植土や、Ⅳ層起源の黄褐色土が堆積している。自然堆積とみられる。

【壁・床面】壁は東側で検出されている。外傾してなだらかに立ち上がる。床面はⅣ層を用いている。

【柱穴・配置】PP 1～10の10個を検出した。規模は直径30～45cm前後、深さは30～60cm前後である。配置は不規則である。

【その他の付属施設】なし。

遺物（第30・33・44図、写真図版23・31）

【出土状況】覆土、柱穴内から縄文土器片（総重量347.4g）、石器が出土している。

【土器】縄文土器（31・32）。

【石器】磨石（174）。

時期 出土遺物からみて、縄文時代中期中葉～後葉と思われる。

### （4）陥し穴状遺構（第16・17図、写真図版9・10）

形状から、陥し穴としての機能が考えられる穴である。6基確認された。そのうち5基がⅣD～ⅤDグリッドの平坦面に位置する。平面形は、長方形、楕円形、溝状などの形を呈し、副穴を作うものもある。出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、縄文時代と推測される。

（阿部）

### SK02陥し穴状遺構

遺構（第16図、写真図版9）

【位置・検出状況】ⅥE 6 aグリッド。Ⅳ層で褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】規模は、開口部径157×94cm、底部径128×44cm、平面形は楕円形を呈する。等高線に沿って長軸が設けられている。深さは、126cmである。

【覆土・堆積状況】褐色土・黒褐色土から構成される。覆土中には植根が多量に入り、締まりが弱い。

【壁・底面】壁・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。壁はほぼ直角に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

【その他の付属施設】なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

**SK14陥し穴状遺構**

遺構（第16図、写真図版9）

【位置・検出状況】 IV D 1 g グリッド。IV層で褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】 東側にあるSI04堅穴住居跡と重複していた可能性がある。

【規模・平面形】 規模は、開口部径223×44cm、底部径149×22cm、平面形は溝状を呈する。等高線に沿って長軸が設けられている。深さは55cmである。

【覆土・堆積状況】 褐色土・黄褐色土から構成される。自然堆積と思われる。

【壁・底面】 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。底面はほぼ平坦である。

【その他の付属施設】 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

**SK20陥し穴状遺構**

遺構（第16図、写真図版9）

【位置・検出状況】 IV D 2 i ~ 3 j グリッド。III層で黒色土の広がりとして検出された。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 規模は、開口部径192×117cm、底部径158×46cm、平面形は橢円形を呈する。等高線に沿って長軸が設けられている。深さは、107cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土・明黄褐色土・暗褐色土から構成される。

【壁・底面】 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。壁は直立的に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

【その他の付属施設】 底面に副穴を2個確認した。開口部が10cmに満たない細長い穴である。逆茂木を立てた痕跡であると思われる。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

**SK22陥し穴状遺構**

遺構（第17図、写真図版10）

【位置・検出状況】 VE 8 h ~ 9 h グリッド。III層で黒褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 規模は、開口部径237×76cm、底部径289×11cm、平面形は溝状を呈するが、中央附近に膨らみを持つ。等高線に沿って長軸が設けられている。深さは、138cmである。

【覆土・堆積状況】 黒褐色土・暗褐色土・明黄褐色土から構成される。自然堆積と思われる。

【壁・底面】 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。壁は、長軸方向の両端部が開口部より奥に入り込んでいる。底面は、湾曲しながら長軸方向の東から西に傾斜する。

【その他の付属施設】 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

### SK25陥し穴状遺構

遺構（第17図、写真図版10）

【位置・検出状況】 VE 8 h ~ 9 h グリッド。Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】 規模は、開口部径237×76cm、底部径289×11cm、平面形は楕円形を呈する。等高線に沿って長軸が設けられている。深さは、138cmである。

【覆土・堆積状況】 黒色土・暗褐色土・にぶい黄褐色土から構成される。

【壁・底面】 壁・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。

【その他の付属施設】 底面に副穴を2個確認した。径4~6cmの細長い穴である。逆茂木を立てた痕跡であると思われる。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

### SK30陥し穴状遺構

遺構（第17図、写真図版10）

【位置・検出状況】 VE 3 g ~ 3 g グリッド。Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】 規模は、開口部径245×27cm、底部径228×17cm、平面形は溝状を呈する。等高線に沿って長軸が設けられている。深さは、30cmである。

【覆土・堆積状況】 暗褐色土で構成される。

【壁・底面】 壁・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。壁は外傾する。底面は直線的で長軸方向の東から西にかけて緩く傾斜する。

【その他の付属施設】なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明だが、縄文時代と推定される。

## （5）上 坑（第18図、写真図版23）

用途不明のものを含む穴を一括した。24基ある。このなかには、北尾根でまとまって確認された、定形的な規模・形状をもち、貯蔵穴としての用途が想定される土坑8基を含めている。時期は、概ね縄文時代と考えられるが、出土遺物を欠くものについては、時期の詳細は不明である。また、SK01・02土坑は、SW01・02炭窯跡との関連性が考えられ、現代の遺構の可能性がある。（阿部）

### SK01土坑

遺構（第18図、写真図版11）

【位置・検出状況】 VC 6 g ~ 6 h グリッド。Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出された。南側が調査区域外にかかる。

【重複関係】 SK03を切っている。

【規模・平面形】 規模は、開口部径213×(194)cm、底部径55×38cm、平面形は円形を呈する。深さは、147cmである。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。底面は緩く湾曲している。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。SW01・03炭窯跡との関連も考えられる。

#### SK03土坑

遺構 (第18図、写真図版11)

[位置・検出状況] ⅥG 6 g グリッド。SK01精査中に確認されたものである。SK01の壁面から黒褐色土の覆土の広がりとして検出された。南東側が調査区域外にかかる。

[重複関係] SK01に切られている。

[規模・平面形] 規模は、開口部径 (87) × (55)cm、底部径 (69) × (50)cm、平面形は円形基調と思われるが、詳細は不明である。深さは、30cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・褐色土・暗褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。底面は東から西に緩く傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。SW01・02炭窯跡との関連も考えられる。

#### SK04土坑

遺構 (第19図、写真図版11)

[位置・検出状況] ⅥE 2 b グリッド。IV層で黒色土の広がりとして検出された。その広がりは斜面の等高線に平行する形状で広がっており、断面観察から複数の土坑が重複する遺構と認識した。西側でSK05と重複しており、平面形状など正確に認識できていない。

[重複関係] SK05と重複していた可能性がある。

[規模・平面形] 規模は、開口部径 (180) × 210cm、底部径 (140) × 160cm、平面形は円形基調だが、不整形を呈する。深さは、30cmである。

[覆土・堆積状況] 黒色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。底面は南から北に傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### SK05土坑

遺構 (第19図、写真図版11)

[位置・検出状況] ⅥE 2 a ~ 2 b グリッド。IV層で黒色土の広がりとして検出された。その広がりは斜面の等高線に平行する形状で広がっており、断面観察から複数の土坑が重複する遺構と認識した。東側でSK04、西側でSK06と重複しており、平面形状を正確に認識できていない。

[重複関係] SK04・06と重複する。SK06を切る。

[規模・平面形] 規模は、開口部径 (300) × 130cm、底部径 (250) × 130cm、平面形は不整形を呈する。

深さは、110cmである。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。底面は南から北に緩く傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### SK06土坑

遺構 (第19図、写真図版11)

[位置・検出状況] VIE 2 aグリッド。IV層で黒色土の広がりとして検出された。その広がりは斜面の等高線に併行する形状で広がっており、断面観察から複数の土坑が重複する遺構と認識した。東側でSK05と重複しており、平面形状を正確に認識できていない。

[重複関係] SK05に切られる。

[規模・平面形] 規模は、開口部径 (250) × 190cm、底部径 (240) × 100cm、平面形は不整形を呈する。深さは、70cmである。

[覆土・堆積状況] 黒色土・黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はIV層を掘り込んでつくられている。底面は南から北に緩く傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### SK07土坑

遺構 (第19図、写真図版11・12)

[位置・検出状況] III B 7 h・8 hグリッド。SI01の床面を精査していたところ、黄褐色土の広がりとして確認した。

[重複関係] SI01の炉を切っており、SI01より新しい。

[規模・平面形] 開口部径106×100cm、底部径162×139cm、円形を呈する。深さはSI01の床面から130cmを測る。

[覆土・堆積状況] 全体的に黄褐色土・暗褐色土を主体とする。覆土12層で焼土と炭化物、覆土17層で炭化物が検出され、ともにその付近から上器が出土している。人为的堆積の可能性がある。

[壁・底面] 底部に向かって広がるフラスコ状を呈する。底面は平坦である。

[その他の付属施設] なし。

[所見] 貯蔵穴と考えられる。

遺物 (第30・33図、写真図版23)

[出土状況] 覆土上位から下位にわたって縄文土器片 (総重量2560.6g) が出土している。北半部の12層から一個体の深鉢 (P 1、No35) が土圧で押し潰されたような状態で出土し、その直下から焼土と炭化物が検出されている。また17層から深鉢 (P 2、No34) の破片と炭化物が出土した。

[土器] 縄文土器 (33~36)。

時期 出土遺物と遺構の新旧関係から、縄文時代中期末葉と思われる。なお、覆土17層から出土した炭化材 (クリ) について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代3910±30BPとの結果が出て

いる。

(八重畠)

### SK08土坑

遺構（第20図、写真図版12）

[位置・検出状況] III B 8 g・8 hグリッド。SI01の壁を精査中に明黄褐色土の広がりとして確認した。検出面はIV層である。

[重複関係] SI01のPP12に切られており、SI01より古い。

[規模・平面形] 開口部径110×110cm、底部径114×111cmで円形を呈する。深さは98cmである。

[覆土・堆積状況] 上部は明黄褐色土が主体で、下部は黒褐色土などが堆積している。堆積状況は不明である。

[壁・底面] 底部に向かって若干広がっており、プラスコ状を呈する。底面は平坦である。

[その他の付属施設] なし。

[所見] 貯蔵穴と考えられる。

#### 遺物

[出土状況] 織細な縄文土器片（総重量27.0g）が覆土中～下層で出土しているが、図示し得ない。また炭化種実（252）が3～4層で出土している。種実同定の結果、コナラ属コナラ亜属の子葉との鑑定結果を得ている。

時期 遺構の新旧関係からみて、縄文時代中期中葉～後葉と思われる、なお5層から出土した炭化材（ケンボナシ属）について放射性炭素年代測定を行った結果、補正年代4060±40BPとの分析結果がでている。

### SK09土坑

遺構（第20図、写真図版12）

[位置・検出状況] III B 8 i・9 iグリッド。IV層で黄褐色土の広がりとして確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部径154×143cm、底部径118×116cmの円形を呈する。深さは98cmである。

[覆土・堆積状況] 上部は黄褐色土が主体で、下部は褐色土、明黄褐色土などが堆積している。堆積状況は不明である。

[壁・底面] 壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、ビーカー状を呈する。底面は平坦である。

[その他の付属施設] なし。

[所見] 貯蔵穴と考えられる。

#### 遺物（第30・34図、写真図版23）

[出土状況] 縄文土器片（総重量107.9g）が覆土上位から下位にわたって出土した。

[上器] 縄文土器（37）。

時期 出土遺物からみて、縄文時代中期中葉と思われる。

### SK10土坑

遺構（第20図、写真図版12）

[位置・検出状況] III B 7 j・8 jグリッド。IV層で暗褐色土、黄褐色粘土の広がりとして確認した。

[重複関係] SK102と重複しているが、新旧関係は不明である。

〔規模・平面形〕 開口部径193×183cm、底部径147×122cmの円形で、深さは108cmである。

〔覆土・堆積状況〕 上部は暗褐色土が主体で、下部は黄褐色土が主体である。一部に根の影響を受けた自然堆積とみられる。

〔壁・底面〕 壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物（第30・34図、写真図版23）

〔出土状況〕 覆土上層から縄文土器片（総重量62.7g）が出土している。

〔土器〕 縄文土器（38・39）。

時期 出土遺物から見て、縄文時代中期中葉と思われる。

#### SK11土坑

遺構（第20図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 III C 8 aグリッド。III層で褐色土の広がりとして確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 開口部径128×97cm、底部径112×72cmの楕円形を呈する。深さは35cmである。

〔覆土・堆積状況〕 褐色土・黄褐色土の堆積である。堆積状況は不明である。

〔壁・底面〕 壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、形状、覆土などから縄文時代中期と考えられる。

#### SK12土坑

遺構（第20図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 III B 7 j・III C 8 aグリッド。III層で褐色土の広がりとして確認した。

〔重複関係〕 SK102と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模・平面形〕 開口部径148×127cm、底部径130×90cmの楕円形を呈する。深さは54cmである。

〔覆土・堆積状況〕 褐色土と黄褐色土の2層である。自然堆積とみられる。

〔壁・底面〕 ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

〔その他の付属施設〕 なし。

遺物（第31・34図、写真図版23）

〔出土状況〕 覆土上層から下層にわたって縄文土器片（総重量39.0g）が出土した。

〔土器〕 縄文土器（40）。

時期 詳細な時期は不明だが、遺構の形状及び遺物からみて、縄文時代中期と思われる。

#### SK13土坑

遺構（第21図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 III C 8 aグリッド。III層で褐色土の広がりとして確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔規模・平面形〕 開口部径104×58cm、底部径51×23cmの不整椭円形を呈する。深さは30cmである。

〔覆土・堆積状況〕 褐色土・黄褐色土を主体とする。自然堆積とみられる。

[壁・底面] 摺鉢状に立ち上がる。底面は段差を有する。

[その他の付属施設] なし。

遺物 (第31・34図、写真図版23)

[出土状況] 覆土1層から縄文土器片1点 (19.7g) が出土している。

[土器] 縄文土器 (41)。

時期 詳細な時期は不明だが、遺物からみて、縄文時代中期と思われる。

#### SK15土坑

遺構 (第21図、写真図版13)

[位置・検出状況] III B 8 g グリッド。IV層で明黄褐色土の広がりとして確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部径140×122cm、底部径94×80cmの楕円形を呈する。深さは106cmである。

[覆土・堆積状況] 全体的に明黄褐色土が土体である。自然堆積とみられる。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がり、ビーカー状を呈する。底面は平坦である。

[その他の付属施設] なし。

[所見] 貯蔵穴と考えられる。

遺物 (第31・45図、写真図版32)

[出土状況] 石器 (凹石) が覆土中層より出土している。

[石器] 凹石 (187)。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状、覆土などから縄文時代中期と考えられる。

#### SK16土坑

遺構 (第21図、写真図版14)

[位置・検出状況] III B 8 i・9 j グリッド。IV層で黄褐色土の広がりとして確認した。

[重複関係] SK102と重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・平面形] 開口部径142×133cm、底部径145×132cmの円形を呈する。深さは93cmである。

[覆土・堆積状況] 上部は黄褐色土主体、下部は褐色土主体である。堆積状況は不明である。

[壁・底面] やや内傾するが、ほぼビーカー状を呈する。底面は平坦である。

[その他の付属施設] なし。

[所見] 貯蔵穴と考えられる。

遺物 (第31・44図、写真図版31)

[出土状況] 覆土から石器 (磨石) が2点出土している。そのうち1点は壁にくい込むような形で出土した。

[石器] 磨石 (175・176)。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状、遺構の新旧関係と覆土などから縄文時代中期と考えられる。

### SK17土坑

遺構（第21図、写真図版14）

【位置・検出状況】ⅢB 8 h・9 iグリッド。SI03の精査中に障害となっていた杉の根を取り除いたところ、SI03とは別個の褐色土の広がりとして確認した。検出面はIV層である。

【重複関係】SI03と重複するが、新旧関係は不明である。

【規模・平面形】開口部径131×124cm、底部径142×133cmの円形を呈する。深さは85cmである。

【覆土・堆積状況】褐色土、黄褐色土、明黄褐色土などで、土壤化した炭化物粒を含む層が多くみられた。堆積状況は人為的である可能性がある。

【壁・底面】やや内傾するがビーカー状を呈する。底面は平坦である。

【その他の付属施設】なし。

【所見】貯蔵穴と考えられる。

遺物（第31・34・41図、写真図版24・29）

【出土状況】覆土上層から縄文土器片1点（228.7g）と石器が出土している。

【土器】縄文土器（42）。

【石器】不定形石器（159）。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状、覆土などから縄文時代中期と考えられる。

### SK18土坑

遺構（第21図、写真図版14）

【位置・検出状況】ⅢB 9 gグリッド。IV層に褐色土の広がりとして確認した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】開口部径151×141cm、底部径146×126cmの円形を呈する。深さは81cmである。

【覆土・堆積状況】上層は褐色土、下層は黄褐色土が主体である。自然堆積とみられる。

【壁・底面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、ビーカー状を呈する。底面は平坦である。

【その他の付属施設】なし。

【所見】貯蔵穴と考えられる。

遺物（第31・34図、写真図版24）

【出土状況】微細なものも含め、縄文土器片（総重量181.7g）が覆土上層から下層にわたって出土した。

【土器】縄文土器（43）。

時期 詳細な時期は分からないが、遺物・遺構の形状などから縄文時代中期と思われる。

### SK19土坑

遺構（第21図、写真図版15）

【位置・検出状況】ⅢB 9 hグリッド。SI03の床面精査中に、黄褐色土の広がりとして確認した。

【重複関係】SI03と重複している。新旧関係は不明である。

【規模・平面形】開口部径88×68cm、底部径58×51cmの円形を呈する。深さは46cmを測る。

【覆土・堆積状況】黄褐色土と褐色土の2層である。自然堆積とみられる。

【壁・底面】外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

【その他の付属施設】なし。

遺物

【出土状況】覆土から微細な縄文土器片1点(8.4g)が出土しているが、図示し得なかった。

時期 縄文時代中期と思われる。

#### SK21土坑

遺構 (第22図、写真図版15)

【位置・検出状況】IVD 4 i~4 jグリッド。Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】規模は、開口部径408×52cm、底部径378×19cm、平面形は溝状を呈する。深さは、15cmである。

【覆土・堆積状況】暗褐色土・褐色土で構成される。

【壁・底面】壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は、穴の長軸方向である南西から北東に緩く傾斜する。

【その他の付属施設】なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

(阿部)

#### SK23土坑

遺構 (第22図、写真図版15)

【位置・検出状況】IVD 5 j~6 jグリッド。Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】規模は、開口部径102×98cm、底部径89×91cm、平面形は円形を呈する。深さは、21cmである。

【覆土・堆積状況】黒褐色土で構成される。

【壁・底面】壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は、ほぼ平坦である。

【その他の付属施設】なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### SK24土坑

遺構 (第22図、写真図版15)

【位置・検出状況】IVE 3 a~4 bグリッド。Ⅲ層で黒褐色土の広がりとして検出した。東側が調査区城外にかかる。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】規模は、開口部径(131)×96cm、底部径(84)×40cm、平面形は円形基調である。深さは、26cmである。

【覆土・堆積状況】黒褐色土で構成される。

【壁・底面】壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は、南西から北東方向に向かって傾

斜している。

【その他の付属施設】なし。

遺物（第31・34図、写真図版24）

【出土状況】覆土から土器（7.6g）が出土している。

【土器】縄文土器（44）。

時期 縄文土器が出土しているが、詳細は不明である。

### SK26土坑

遺構（第23図、写真図版16）

【位置・検出状況】ⅢB 7 g グリッド。IV区北斜面のⅢ層から石棒が出土し、その周りに黄褐色土の広がりとして確認した。断面の観察により、当初遺構として想定していた範囲より、小さい土坑であることが判明したため、土坑南東側の壁は、ベルト部以外は失われている。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】開口部径41×(25)cm、底部径20×(16)cmの楕円形を呈する。深さは36cmである。

【覆土・堆積状況】黄褐色土1層の堆積である。堆積状況は不明である。

【壁・底面】外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

【その他の付属施設】

遺物（第31・46図、写真図版33）

【出土状況】石棒が横位の状態で、覆土上部から出土している。

【石製品】石棒（202）。

時期 詳細な時期は不明だが、遺物からみて、縄文時代中期と思われる。

(八重畠)

### SK27土坑

遺構（第22図、写真図版16）

【位置・検出状況】ⅢB 7 i・8 i グリッド。SKI01の床面の検出時に、明黄褐色土の広がりとして検出した。

【重複関係】SKI01と重複するが、新旧関係は不明である。

【規模・平面形】開口部径123×109cm、底部径95×93cmの円形である。深さはSK27の床面から36cmを測る。

【覆土・堆積状況】明黄褐色土と黄褐色土の2層で構成される。自然堆積とみられる。

【壁・底面】外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

【その他の付属施設】なし。

遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状、覆土などから縄文時代中期と考えられる。

### SK28土坑

遺構（第23図、写真図版16）

【位置・検出状況】IVC 5 c～5 e グリッド。Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径143×107cm、底部径56×32cm、平面形は楕円形である。深さは、56cmである。

〔覆土・堆積状況〕 黒褐色土・黒色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は、緩く湾曲している。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

(阿部)

#### SK29土坑

遺構 (第23図、写真図版16)

〔位置・検出状況〕 ⅢC 9fグリッド。Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕 規模は、開口部径85×55cm、底部径43×13cm、平面形は楕円形である。深さは、29cmである。

〔覆土・堆積状況〕 暗褐色土で構成される。

〔壁・底面〕 壁・底面はⅢ層を掘り込んでつくられている。底面は、緩く湾曲している。

〔その他の付属施設〕なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

#### (6) 焼土遺構 (第24図、写真図版17)

2基検出した。いずれも3区の谷部での検出である。焼土遺構の周囲では、柱穴や壁など住居跡としての痕跡は確認できていない。そのため、単独の遺構と認識し、焼土遺構として報告する。

(阿部)

#### SN01焼土遺構

遺構 (第24図、写真図版17)

〔位置・検出状況〕 IV E 5 bグリッド。Ⅱ層黒褐色土中でにぶい赤褐色土として検出された。同一検出面で南東側に黒色土の広がりを検出しているが、遺構にはならなかった。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕 径33×14cmの不整な楕円形を呈する。南東側に長さ80cmほどの長さで、部分的に石組を伴う。

〔被熱土〕 にぶい赤褐色の焼土で、厚さは3cmほどである。

〔所属施設〕なし。

遺物

〔出土状況〕 焼土から炭化材が出土している。樹種はアサガ。放射性年代測定では補正年代4040±30の結果が得られている。

時期 出土遺物がなく、時期の詳細は不明だが、年代測定から縄文時代中期と推定される。

#### SN02焼土遺構

遺構（第24図、写真図版17）

【位置・検出状況】 IV D 4 b グリッド。III層で黒褐色土の広がりのなかにある焼土を確認した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】 黒褐色土の広がりは、径50×40cm、確認された焼土の広がりは二箇所で、それぞれの焼土の広がりは、径10×9cm、径17×15cmである。

【被熱土】 明黄褐色土の焼土で、焼土の厚さは、4cmと13cmほどである。

【所属施設】なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物がなく、時期の詳細は不明である。

#### (7) 土器埋設遺構

土器埋設遺構は、IV区尾根上から2基検出されている。どちらも単独で検出されており、屋外にあつたと思われる。当初、4基を登録して調査したが、掘り方が確認されず、除外したもののが2基あるため、欠番が生じている。

(八重畑)

#### SZ02土器埋設遺構

遺構（第24図、写真図版17）

【位置・検出状況】 III B 7 g・7 h グリッド。SI01の壁を検出している際に、埋設土器の一部が出土し、その周辺をさらに慎重に掘り下げたところ、掘り方とみられる明黄褐色土の広がりを確認した。SI01の壁の調査と同時に検出されたため、掘り方の東半分は失われている。検出面はIV層である。

【重複関係】 SI01を切る。

【掘り方の規模・平面形・覆土】 開口部は径28×(24)cmを測り、円形を呈するものと思われる。覆土は明黄褐色土などの3層が堆積している。

【埋設方法】 正立した状態で埋設している。

【土器内部の様子】 明黄褐色土。

【所属施設】なし。

遺物（第31・34図、写真図版24）

【土器】 繩文土器（46）。深鉢形土器で底部～胴部下半部である。

時期 遺構の新旧関係と遺物からみて、縄文時代中期末葉と思われる。

#### SZ04土器埋設遺構

遺構（第24図、写真図版17）

【位置・検出状況】 III B 7 g グリッド。IV区北斜面の上層の堆積が不明瞭な箇所に、サブレンチを入れたところ、埋設土器の一部が出土した。その後、周辺を慎重に掘り下げ、掘り方とみられる明黄褐色土の広がりを確認した。このため、サブレンチ部分の東半分の壁は失われている。

【重複関係】なし。

【掘り方の規模・平面形・覆土】 開口部は径60×(53)cmを測る。円形を呈すると思われる。覆土は明

黄褐色土の1層である。

〔埋設方法〕口縁部が上を向いた状態で、斜位に埋設している。

〔土器内部の様子〕黄褐色土。

〔所属施設〕なし。

遺物（第31・34図、写真図版24）

〔土器〕縄文土器（47）。深鉢形土器の底部～胴部上半部である。

時期 詳細な時期は不明だが、遺物からみて、縄文時代中期と思われる。

#### （8）溝跡（第25～27図、写真図版18・19）

溝状を呈する遺構で7条検出された。検出された地点から2つに分けることができる。ひとつは、3区の谷部で確認された6条の溝跡で、旧地形である谷部に沿って形成されており、調査時にも湧水を確認している。もうひとつは、2区の斜面地で確認された溝跡で、傾斜に直交して形成されており、人工的に設けられた可能性が高い。いずれの溝跡も時期を明確にできない。

（阿部）

##### SD01溝跡

遺構（第25図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕IV C 5 eグリッド～IV D 6 cグリッド。Ⅲ層で黒色土の細長い広がりとして検出された。東側が調査区域外にかかる。東から西に向かう傾斜地において、谷部の地形に沿って等高線に直交するように形成されている。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕開口部の長さ（34）m、幅130～230cm。斜面上方の東側から斜面下方の西側に緩く蛇行しながら下りている。東側の斜面下方で溝跡は収束すると思われるが、終点は確認できていない。

〔覆土・堆積状況〕径10cm大の亜角礫を20%含む黒色土から構成される。

〔壁・底面〕Ⅲ層を掘り込んでいる。壁は外傾し、底面はほぼ平坦である。底面は湧水がある。

〔付属施設〕なし。

遺物（第31・44図、写真図版31）

〔出土状況〕覆土から土器（21.9g）・磨石が出上している。

〔石器〕磨石（177・178）。

時期 縄文土器片は出土しているが、時期の詳細は不明である。

##### SD02溝跡

遺構（第25図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕IV D 6 d～IV D 4 hグリッド。Ⅲ層で黒褐色土の細長い広がりとして検出された。西から東に向かう傾斜地において、斜面に沿って形成されている。

〔重複関係〕東側でSD03と重複するが、SD03を切っている。

〔規模・平面形〕開口部の長さ（14）m、幅50～90cm、深さ20cmである。南西から北東方向に向かつて緩く蛇行しながら下っている。溝跡が始まる斜面上方において始点は確認されていない。

〔覆土・堆積状況〕黒褐色土で構成される。

【壁・底面】 壁・底面はⅢ層を掘り込んでいる。壁は外傾し、底面は緩く湾曲する。

【付属施設】 なし。

遺物（第31・34図、写真図版24）

【出土状況】 覆土から土器（55.8g）が出土している。

【土器】 縄文土器（45）。

時期 縄文土器が出土しているが、時期の詳細は不明である。

#### SD03溝跡

遺構（第25図、写真図版18）

【位置・検出状況】 IV D 5 d～IV D 4 hグリッド。Ⅲ層で黒褐色土の細長い広がりとして検出された。西から東に向かう傾斜地において、斜面に沿って形成されている。

【重複関係】 西側でSD02と重複するが、SD02に切られている。

【規模・平面形】 開口部の長さ（15.2）m、幅70～130cm、深さ20cmである。南西から北東方向に向かって緩く蛇行しながら下っている。溝跡が始まる斜面上方ににおいて始点は確認されていない。

【覆土・堆積状況】 径10cm大の亜角礫を50%含む黒褐色土で構成される。

【壁・底面】 壁・底面はⅢ層を掘り込んでいる。壁は外傾する。底面は緩く湾曲する。

【付属施設】 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### SD04溝跡

遺構（第25図、写真図版18）

【位置・検出状況】 IV D 4 d～IV D 4 fグリッド。Ⅲ層で黒褐色土の細長い広がりとして検出された。西から東に向かう傾斜地において、斜面に沿って形成されている。IV D 5 c付近で、東側と西側に別れるが、同一の遺構と判断している。北側でSD05と隣接している。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 開口部の長さ（25.5）m、幅70～130cm、深さ50cmである。西から東方向に向かって緩く蛇行しながら下っている。溝跡が始まる斜面上方ににおいて始点は確認されていない。

【覆土・堆積状況】 径5cm大の亜角礫を10%含む黒褐色土で構成される。

【壁・底面】 壁・底面はⅢ層を掘り込んでいる。壁は外傾する。底面は緩く湾曲する。

【付属施設】 なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### SD05溝跡

遺構（第25図、写真図版18）

【位置・検出状況】 IV D 4 d～IV D 4 gグリッド。Ⅲ層で黒褐色土の細長い広がりとして検出された。西から東に向かう傾斜地において、斜面に沿って形成されている。IV D 5 c付近で、東側と西側に別れるが、同一の遺構と判断している。南側でSD04と隣接している。

【重複関係】 なし。

[規模・平面形] 開口部の長さ (26.0) m、幅100~140cm、深さ70cmである。西から東方向に向かって緩く蛇行しながら下っている。溝跡が始まる斜面上方において始点は確認されていない。

[覆土・堆積状況] 径5cm大の亜角礫を10%含む黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅢ層を掘り込んでいる。壁は外傾する。底面は緩く湾曲する。

[付属施設] なし。

遺物 なし。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### SD06溝跡

遺構 (第25図)

[位置・検出状況] IV C 5 eグリッド。Ⅲ層で黒色土の細長い広がりとして検出した。東側が調査区域外にかかる。東から西に傾く斜面において、等高線に直交して形成されている。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長さ (280) cm、幅110cmで、北東-南西方向に長軸をもつ。深さは、30cmほどである。

[覆土・堆積状況] 黒色土で構成される単層である。

[壁・底面] 壁・底面ともⅢ層を掘り込んでいる。床面は調査時に湧水が確認された。壁は外傾する。底面は湾曲する。

[付属施設] なし。

遺物 (第31・47図、写真図版34)

[出土状況] 覆土から陶磁器が出上している。

[陶磁器] 陶磁器 (211)。

時期 19C代の碗が出土しているが、詳細は不明である。

#### SD09溝跡

遺構 (第27図、写真図版19)

[位置・検出状況] VE 5 g ~ VE 10グリッド。Ⅲ層で、黒色土の細長い広がりとして検出した。南西から北東に向かって低くなる斜面で、等高線に沿って形成されている。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長さ23.7m、幅0.6~1.2mで、北西-南東方向に長軸を持つ直線的な溝跡である。深さは、10~20cmである。

[覆土・堆積状況] 黒色土・暗褐色土からなる。溝跡の中央やや北側のベルトC-C' (VE 6 hグリッド) 付近で、覆土中に礫群の廃棄がみられた。礫群は、径10~20cm大の亜角礫から構成され、5×1.5mほどの範囲で広がっていた。その部分の斜面上方は広がっている。礫群のなかに石器は含まれていない。

[壁・底面] 壁・底面ともⅢ層を掘り込んでいる。壁は外傾する。底面は西から東に緩く傾斜する。

[付属施設] なし。

遺物 (写真図版34)

[出土状況] 覆土から陶磁器が出上している。

[陶磁器] 陶磁器片 (212)。

時期 詳細は不明だが、比較的新しい可能性がある。

#### (9) 炭窯跡（第28図、写真図版20・21）

調査区南側で炭窯跡が2基検出された。緩やかな南斜面で、少し位置を移動して2基の炭窯がつくなされている。新しい炭窯が古い炭窯より大きい。炭窯の形態から、現代の炭窯と判断される。

（阿部）

##### SW01炭窯跡

遺構（第28図、写真図版20・21）

[位置・検出状況] ⅧG 5 hグリッド。Ⅲ層で褐色土の広がりとして検出された。旧試掘のトレンチNo 36で確認されていた炭窯跡である。

[重複関係] 南側にSW02が位置するが、SW02を切ってつくられている。

[規模・平面形] 規模は、開口部の径309×228cm、底部の径285×201cmで、楕円形を呈している。

[覆土・堆積状況] 褐色土・明赤褐色土・赤褐色土から構成される。上屋の崩落土が主体である。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は74.5cmである。底面は、ほぼ平坦で硬く締まる。

[焚口・排煙口・煙道] 焚口は斜面下位南側、煙道は斜面上位北側に設けられている。焚口には、焼土が形成されていた。煙道は、レンガと鉄板を組み合わせて、窯部分との境をつくっている。

[その他の付属施設] なし。

遺物（第31・40・47図、写真図版28・34）

[出土状況] 煙道部分を構成する部品として、レンガ・鉄板が出土し、炭窯北側から土管が横転した状態で出土している。炭窯内ではないが、周辺から鉄板・鋸なども出土しており、炭窯と関連した遺物である可能性がある。

[土製品] レンガ（144・145・146・147）、土管（148）。

[鉄製品] 鉄板（231）。

時期 炭窯の形態と聞き取り調査から、戦後の1950年代に使用された炭窯と考えられる。

##### SW02炭窯跡

遺構（第28図、写真図版21）

[位置・検出状況] ⅧG 6 hグリッド。SW01炭窯跡の精査中に掘り方の確認のため床下を掘り下げたところ、SW02炭窯跡を確認した。

[重複関係] SW01に切られている。

[規模・平面形] 開口部の径197×168cm、底部の径194×197cmで、楕円形を呈している。

[覆土・堆積状況] 暗褐色土・にぶい褐色土から構成される。上屋の崩落土が主体である。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は103.5cmである。底面はほぼ平坦で硬く締まる。

[焚口・排煙口・煙道] 焚口は斜面下位南側に設けられ、排煙口・煙道は斜面上位北側に設けられている。焚口部分には焼土が形成されており、煙道部分は、レンガ等を組み合わせてつくられている。

遺物 なし。

時期 炭窯の形態と聞き取り調査から、戦後の1950年代に使用された炭窯と考えられる。

第3表 積穴住居跡観察表(譯文)

写真 No.	遺跡名	位置	検出剖面	床面	平面形	床板(m)	幅高(cm)	切の変形 (cm)	柱穴 (cm)	壁上・壁下の剥離 (柱穴・柱頭)	付属施設 (柱・軒)	遺物	備考	時期
10 3	S101	ⅢB7h, 9h	N	N	円形?	4.39×(2.26)	55.8	床板凹	(33) 66	16	14 床頭土、褐色土、明黄褐色	SK08→S101 →SK07	土器・石器	中間後期
11 4	S102	NC4 b, 5c	II	III	円形?	5.54×(3.26)	126.3	床板凹	61×31	4	9 黒褐色土、(柱) 黄褐色土、床頭土	なし	土器・石器	中間後期?
12 5	S103	ⅢB8h, 9h	N	N	円形?	(3.29)×(2.48)	31.8	石圓凹	54×(22)	0	11 黄褐色土、褐色土、明黄褐色	S106→S103 SK17と接	土器・石器	中間後期
12 8	S106	ⅢB8g, 9h	N	N	円形?	(2.36)×(2.43)	46.9	不明	—	—	4 黄褐色土、黑色土、明黄褐色	S109→S103	土器・瓦	小量存在

第4表 積穴住居跡観察表(古代)

写真 No.	遺跡名	位置	検出剖面	床面	平面形	床板(m)	幅高(cm)	カマド位置	煙道	主動方位	火柱跡	壁上・壁下の剥離状況 (柱・軒)	付属施設 (柱・軒)	遺物	備考	時期
13 6	S104	ⅢD10g, N11g	V	V	万形?	3.19×(1.35)	41.1	西壁南寄り	切り妻式	N-86°-W	2 不明	SK44と接	なし	SK44と接	なし	古代
14 6,7	S105	ND2t	III	IV	万形?	3.71×(1.45)	67.5	西壁北寄り	切り妻式	N-58°-W	不明 黒褐色土、褐色土、黃褐色	SK10, 12, 16と接	なし	土器	土器・石器	9C中葉
15 8	SK101	ⅢB7h, 8i	II?	IV	円形?	(3.40)×(3.04)	23.8	7 床頭土、床頭土、褐色土	—	—	SK101→S101	土器・石器	—	—	—	
15 8	SK102	ⅢB8j, ⅢC9a	IV	IV	?	(1.80)×(-)	12.1	10 床頭土、床頭土、褐色土	—	—	SK10, 12, 16と接	土器・石器	—	—	—	

第5表 積穴状遺構観察表

開深No.	遺跡名	位置	検出剖面	床面	平面形	壁面(m)	壁高(cm)	柱穴	柱	壁土の剥離状況 (柱・軒)	付属施設 (柱・軒)	遺物	備考	時期	
15 8	SK101	ⅢB7h, 8i	II?	IV	円形?	(3.40)×(3.04)	23.8	7 床頭土、床頭土、褐色土	—	—	SK101→S101	土器・石器	—	—	—
15 8	SK102	ⅢB8j, ⅢC9a	IV	IV	?	(1.80)×(-)	12.1	10 床頭土、床頭土、褐色土	—	—	SK10, 12, 16と接	土器・石器	—	—	—
15 8	SK103	ⅢC9b	IV	IV	?	(1.80)×(-)	12.1	10 床頭土、床頭土、褐色土	—	—	SK10, 12, 16と接	土器・石器	—	—	—

第6表 陥し穴状遺構観察表

開深 No.	写真 No.	遺跡名	位置	検出剖面	平面形	壁面(m)	壁高(cm)	底盤(m)	底盤の (柱・軒)	壁土の剥離状況 (柱・軒)	付属施設 (柱・軒)	性質	付属施設	備考	時期
16 9	SK02	WE6 a	IV	長方形	157×94	126.6	72.98	褐色土 黒褐色土	—	—	—	—	—	—	—
16 9	SK14	ND11 g	IV	溝形	223×44	149×22	55.6	58.681	褐色土 黄色土	—	—	—	—	—	—
16 9	SK20	ND11.31	III	溝形	192×117	138×46	107.4	55.534	黑色土 明黄褐色土 褐色土	—	—	—	—	—	—
17 10	SK22	VE8 h, 9b	III	溝形	237×76	289×11	128.7	52.883	黑色土 褐色土 明黄褐色土	—	—	—	—	—	—
17 10	SK25	WE4 b, 5a	III	柱円形	210×142	83×31	136.5	53.945	黑色土 褐色土 黃褐色土	—	—	—	—	—	—
17 10	SK30	VE3 f, 3e	III	溝状	245×27	228×17	45.6	52.522	褐色土	—	—	—	—	—	—

第7表 土壌観察表

開拓 箇所	号 令	通称名	位置	検出面	平面形	塊状(㎝)	開口部 形状	地盤	深さ (m)	表面の 状況	裏面の 状況	性質	竹属 風景	備考	時期
30	11	SK01	W G 2.6h	III	円形	213×194	(67)×(35)	120.0	47.0	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	SK01→SK01	土	なし	不明
18	11	SK02	W G 6.8	III	楕円形?	67×70	(140)×160	30.0	47.2	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	SK02→SK01	土	なし	不明
19	11	SK03	V E 2.6b	V	円形?	180×190	(240)×160	70.0	67.2	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	SK03→SK05	土	なし	不明
19	11	SK05	V E 2.6b	V	不規形?	300×200	(250)×130	110.0	67.0	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	SK05→SK05	土	なし	不明
19	11	SK06	V E 2.6b	V	不規形?	250×190	(240)×160	130.0	67.5	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	SK06→SK05	土	なし	不明
19	11,12	SK07	III B 2.8a	V	円形?	100×100	162×139	95.0	85.8	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S01→S007	石	なし	中期米葉 穀
20	12	SK08	III B 2.8b	V	円形?	110×100	114×111	96.8	86.744	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S008→S01	石	なし	中期中後 穀
20	12	SK09	III B 2.8b	V	円形?	150×143	118×116	96.4	85.965	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S009→S01	石	なし	中期中後 穀
20	12	SK10	III B 2.8j	V	円形?	190×183	142×122	106.1	81.897	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S010→S01	石	なし	中期中後 穀
20	13	SK11	III B 2.8a	V	椭円形	128×97	112×72	105.6	86.941	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S011→S01	石	なし	中期中後 穀
20	13	SK12	III B 2.8a	V	椭円形	148×127	130×90	54.1	85.215	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S012→S01	石	なし	中期中後 穀
21	13	SK13	III B 2.8a	V	不規形?	104×58	91×40	30.5	85.195	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S013→S01	石	なし	中期中後 穀
21	13,14	SK15	III B 2.8g	V	円形?	140×100	94×80	106.4	87.571	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S015→S01	石	なし	中期中後 穀
21	14	SK16	III B 2.8j	V	円形?	145×133	145×132	93.7	85.231	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S016→S01	石	なし	中期中後 穀
21	14	SK17	III B 2.8j	V	円形?	131×124	142×134	85.1	85.846	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S017→S01	石	なし	中期中後 穀
21	14	SK18	III B 2.8j	V	円形?	153×141	146×126	81.0	86.413	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S018→S01	石	なし	中期中後 穀
22	15	SK19	III B 2.8b	V	円形?	108×52	58×51	46.5	86.380	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S019→S01	石	なし	中期中後 穀
22	15	SK21	ND 4.4j	III	波状?	408×52	378×19	56.1	56.149	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S021→S01	石	なし	中期中後 穀
22	15	SK23	ND 5.6j	III	円形?	102×98	89×81	21.2	56.176	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S023→S01	石	なし	中期中後 穀
22	15	SK24	NE 2.8.4b	III	椭円形?	151×96	(84)×40	26.6	55.023	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S024→S01	石	なし	中期中後 穀
23	16	SK25	III B 7.6	V	椭円形	41×120	20×116	36.1	87.730	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S025→S01	石	なし	中期中後 穀
22	16	SK27	III B 7.8	V	円形?	123×109	95×93	36.0	86.013	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S027→S01	石	なし	中期中後 穀
23	16	SK28	NC 5.5e	V	円形?	143×107	56×32	56.3	69.376	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S028→S01	石	なし	中期中後 穀
23	16	SK29	NC 5.9f	V	円形?	85×55	43×13	29.8	78.823	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	S029→S01	石	なし	中期中後 穀

第8表 土器埋設遺構観察表

開拓 箇所	号 令	写真 No.	図 No.	運搬名	位置	検出器	埋り方の塊状(㎝)	埋込 深度(㎝)	表面形	状況	裏面の 状況	埋設状況	埋設土器の状況	埋設土器の内面	重複埋設(①+②)	備考	出土遺物	備考	時期
24	17	SN02	WE 5 b	II	不整地	33×11	3	平底	圓形	圓形	圓形	正立	底部 削除下	底部 削除上	ST01→ST02	なし	小町	中期米葉 穀	
24	17	SN02	WE 5 b	III	円形?	107×9	4	円形?	圓形?	圓形	正立	底部 削除上半	底部 削除下	ST01→ST02	なし	小町	中期米葉 穀		
21	17	SN04	WE 7.8	III	円形?	69×53	32.9	円形?	圓形?	圓形	正立	底部 削除上半	底部 削除下	ST02→SW01	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀		

第9表 旗雲窓遺構観察表

開拓 箇所	号 令	写真 No.	運搬名	位置	検出器	埋り方の塊状(㎝)	埋込 深度(㎝)	表面形	状況	裏面の 状況	埋設状況	埋設土器の状況	埋設土器の内面	重複埋設(①+②)	備考	出土遺物	備考	時期
24	17	SW01	WE 5.5b	III	圓形?	380×20	74.5	46.465	48.297	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	正立	底部 削除上半	底部 削除下	SW02→SW01	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀
21	17	SW02	WE 5.5b	III	圓形?	197×68	194×47	102.5	2.162	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	正立	底部 削除上半	底部 削除下	SW02→SW01	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀
28	21	SW02	WE 7.8	III	圓形?	197×68	194×47	102.5	2.162	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	正立	底部 削除上半	底部 削除下	SW02→SW01	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀

第10表 旗雲窓遺構観察表

開拓 箇所	号 令	写真 No.	運搬名	位置	検出器	埋り方の塊状(㎝)	埋込 深度(㎝)	表面形	状況	裏面の 状況	埋設状況	埋設土器の状況	埋設土器の内面	重複埋設(①+②)	備考	出土遺物	備考	時期
28	20,21	SW01	WE 5.5b	III	圓形?	380×20	74.5	46.465	48.297	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	正立	底部 削除上半	底部 削除下	SW02→SW01	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀
28	21	SW02	WE 5.5b	III	圓形?	197×68	194×47	102.5	2.162	暗褐色 地盤	砂質粘土 地盤	正立	底部 削除上半	底部 削除下	SW02→SW01	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀

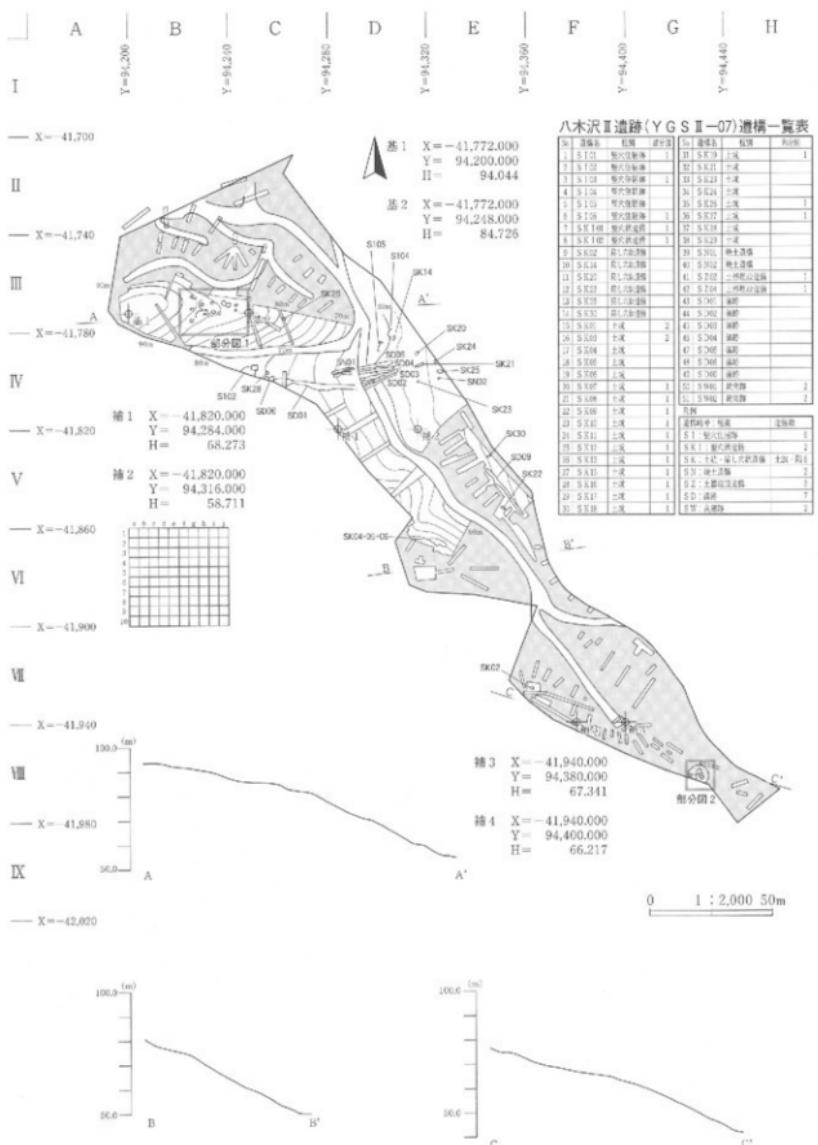
(数値) : 残存値

開拓 箇所	号 令	写真 No.	運搬名	位置	検出器	埋り方の塊状(㎝)	埋込 深度(㎝)	表面形	状況	裏面の 状況	埋設状況	埋設土器の状況	埋設土器の内面	重複埋設(①+②)	備考	出土遺物	備考	時期
24	17	SN01	WE 5 b	II	不整地	33×11	3	平底	圓形?	圓形	正立	底部 削除下	底部 削除上	ST01→ST02	なし	小町	中期米葉 穀	
24	17	SN02	WE 5 b	III	円形?	107×9	4	円形?	圓形?	圓形	正立	底部 削除上半	底部 削除下	ST01→ST02	なし	小町	中期米葉 穀	

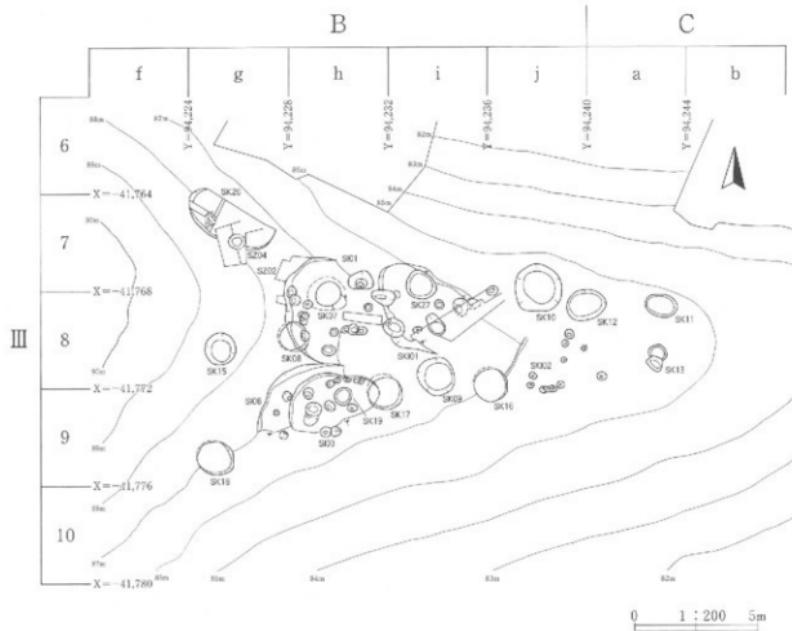
(数値) : 残存値

開拓 箇所	号 令	写真 No.	運搬名	位置	検出器	埋り方の塊状(㎝)	埋込 深度(㎝)	表面形	状況	裏面の 状況	埋設状況	埋設土器の状況	埋設土器の内面	重複埋設(①+②)	備考	出土遺物	備考	時期
24	17	SN02	WE 7.8	III	円形?	69×53	32.9	円形?	圓形?	圓形	正立	底部 削除上半	底部 削除下	ST01→ST02	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀	
21	17	SN04	WE 7.8	III	円形?	69×53	32.9	円形?	圓形?	圓形	正立	底部 削除上半	底部 削除下	ST02→SW01	なし	中期米葉 穀	中期米葉 穀	

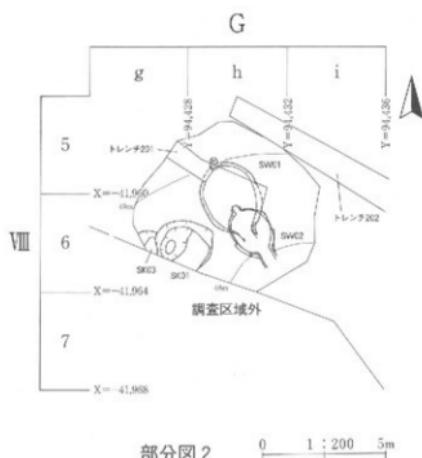
(数値) : 残存値



第8図 遺構配置図(1):全体図

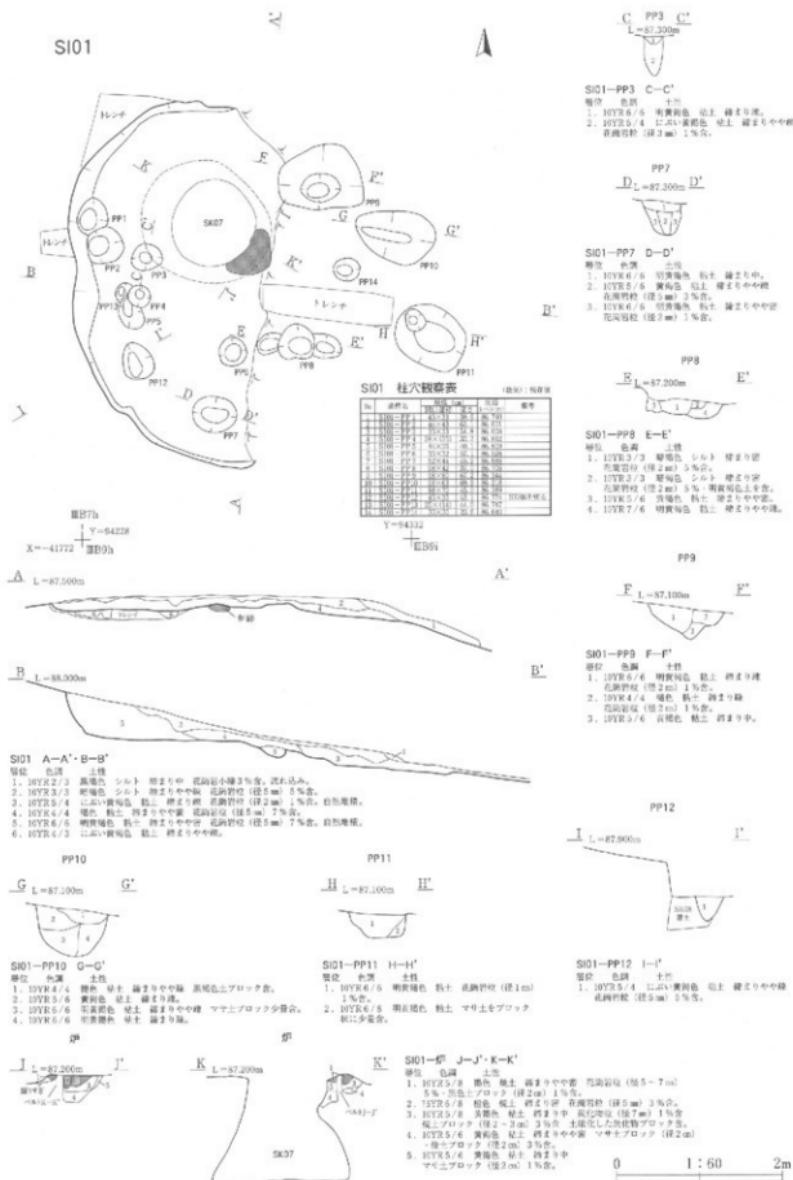


部分図1

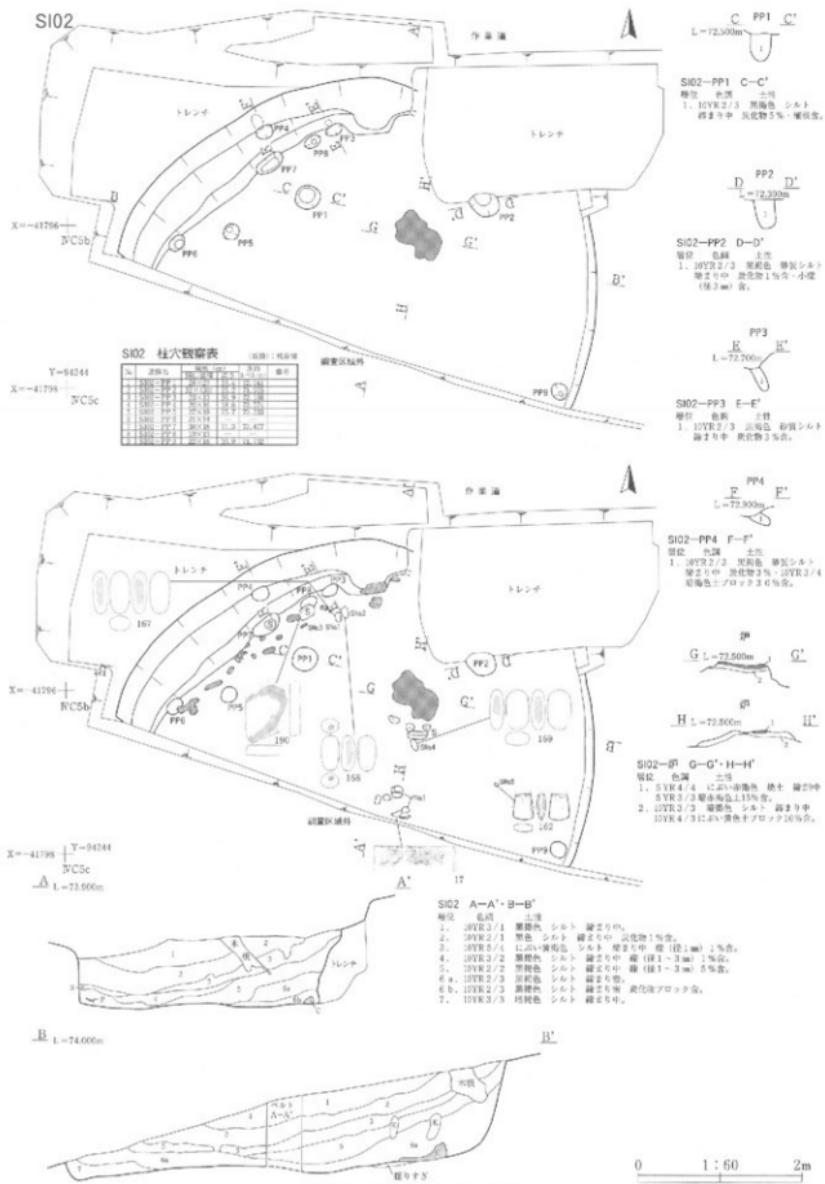


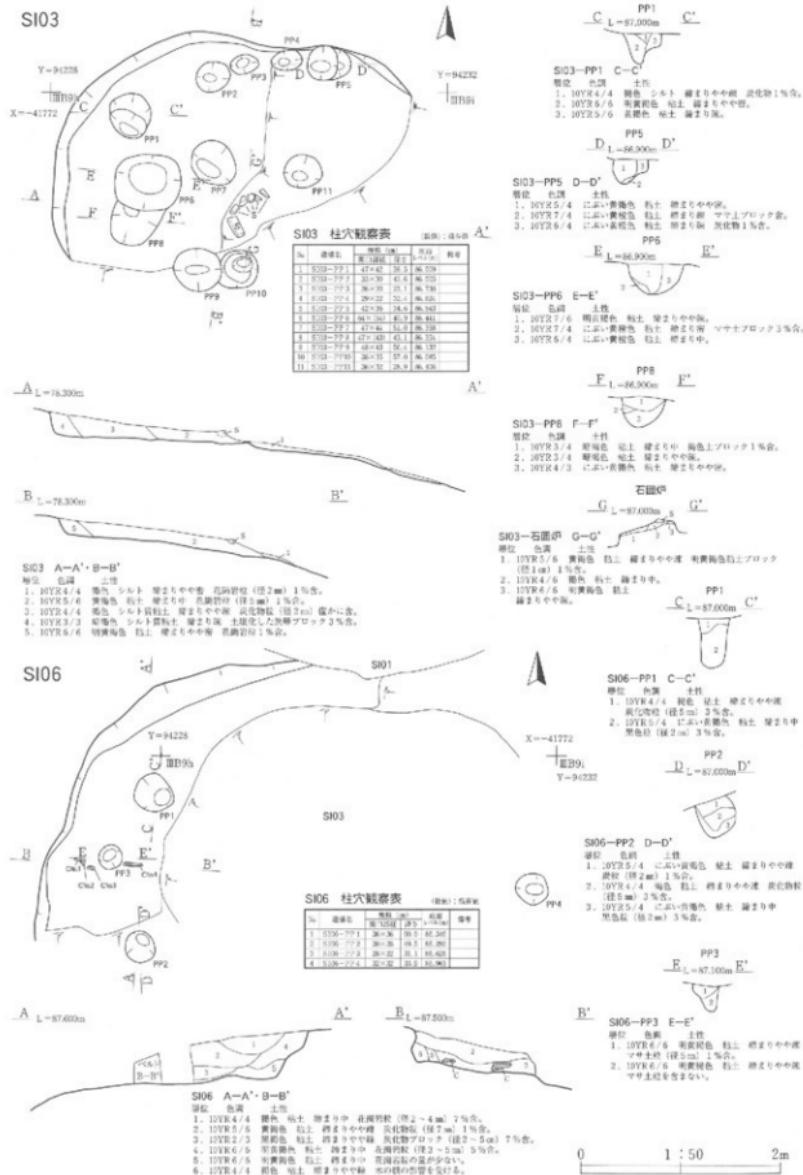
第9図 遺構配置図(2):部分図

部分図1 遺構一覧表			部分図2 遺構一覧表		
No.	遺構名	種別	No.	遺構名	種別
1	SK01	壁穴(生土跡)	1	SK01	土坑
2	SK02	壁穴(生土跡)	1	SK03	土坑
3	SK03	壁穴(生土跡)	1	SW01	灰窓跡
4	SK04	壁穴(生土跡)	2	SW02	灰窓跡
5	SK05	壁穴(生土跡)			
6	SK06	壁穴(生土跡)			
7	SK10	壁穴(鉄通路)			
8	SK102	壁穴(鉄通路)			
9	SK07	土坑			
10	SK08	土坑			
11	SK09	土坑			
12	SK10	土坑			
13	SK11	土坑			
14	SK12	土坑			
15	SK13	土坑			
16	SK15	土坑			
17	SK16	土坑			
18	SK17	土坑			
19	SK18	土坑			
20	SK19	土坑			
21	SK20	土坑			
22	SK20	土坑			
23	SK21	土坑			
24	SK22	土坑			
25	SK23	土坑			
26	SK24	土坑			
27	SK25	土坑			
28	SK26	土坑			
29	SK27	土坑			
30	SK28	土坑			
31	SK29	土坑			
32	SK30	土坑			
33	SK31	土坑			
34	SK32	土坑			
35	SK33	土坑			
36	SK34	土坑			
37	SK35	土坑			
38	SK36	土坑			
39	SK37	土坑			
40	SK38	土坑			
41	SK39	土坑(鉄通路)			
42	SK40	土坑(鉄通路)			



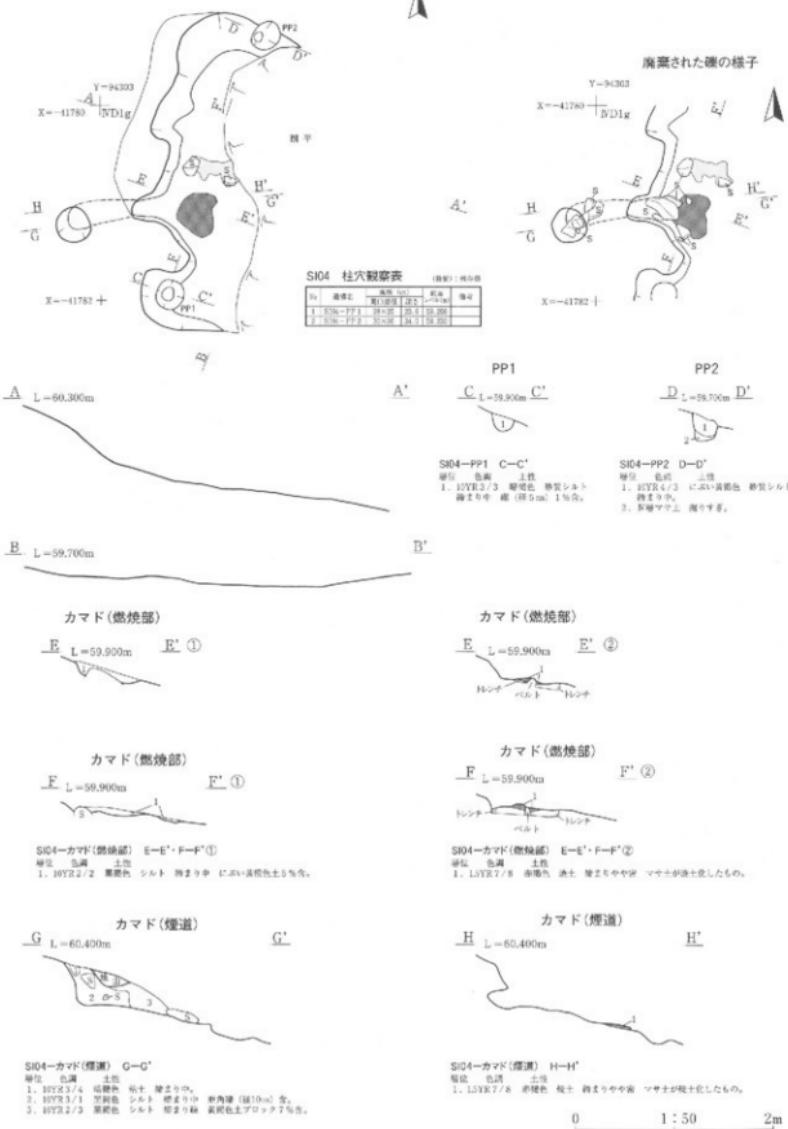
第10図 穴住居跡 (1) : SI01



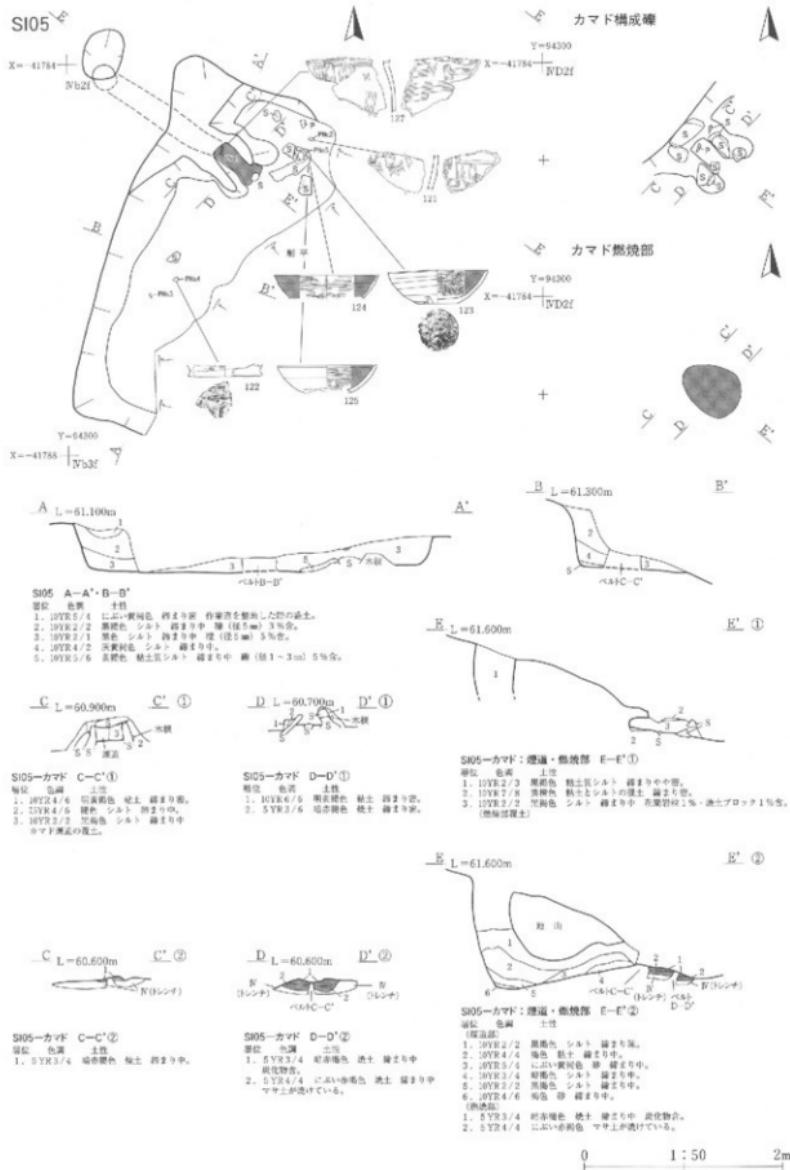


第12図 穴住居跡 (3) : SI03・06

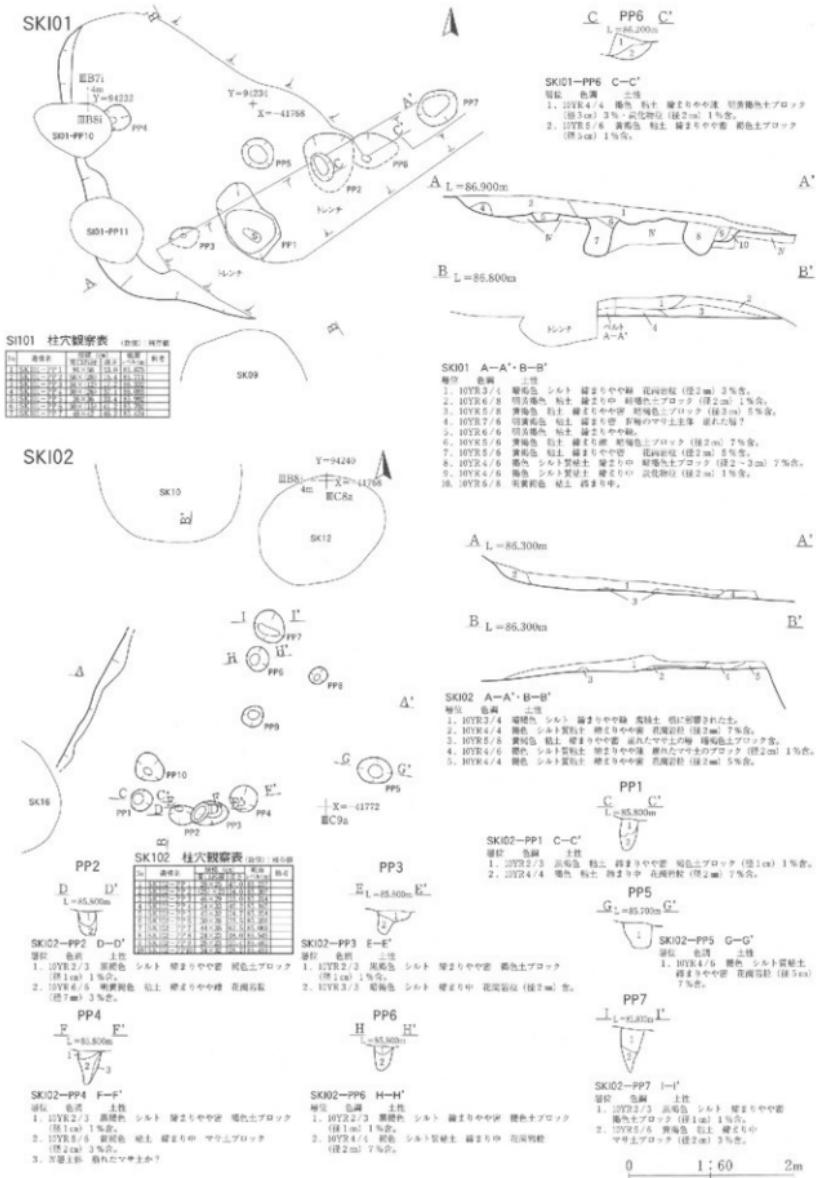
SI04



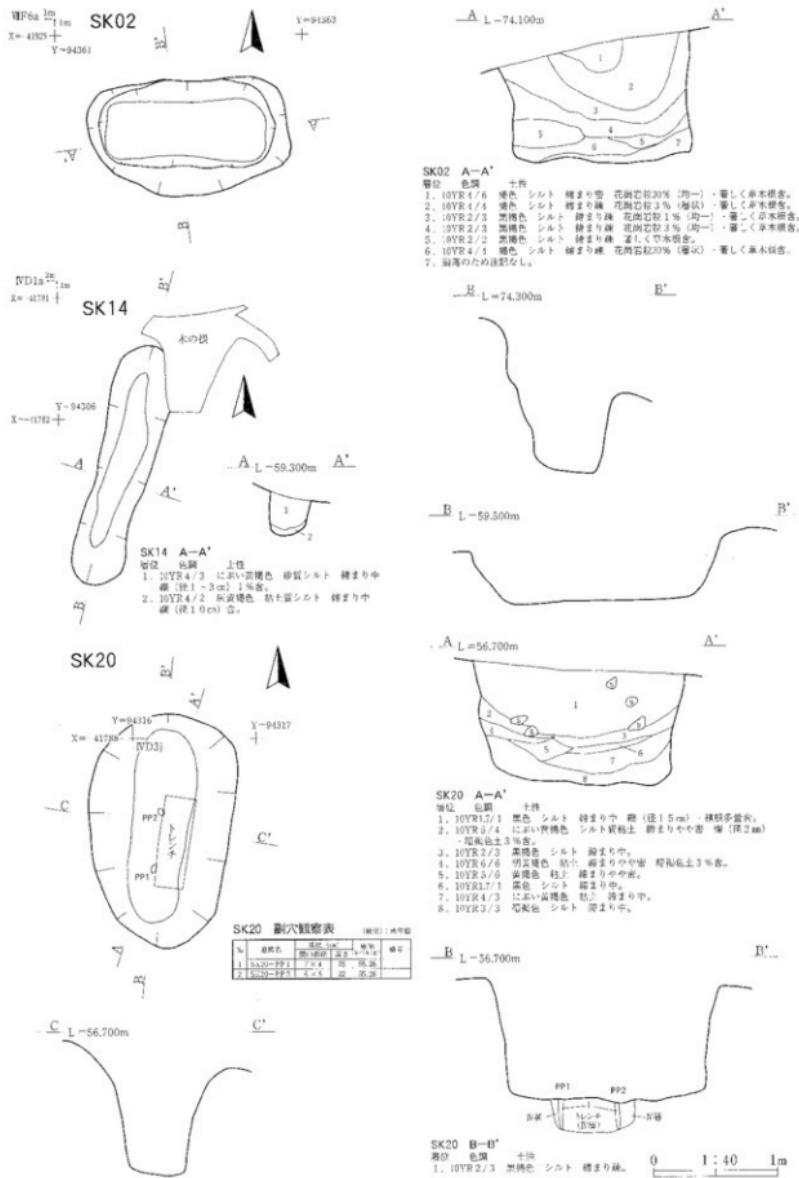
第13図 壁穴住居跡 (4) : SI04



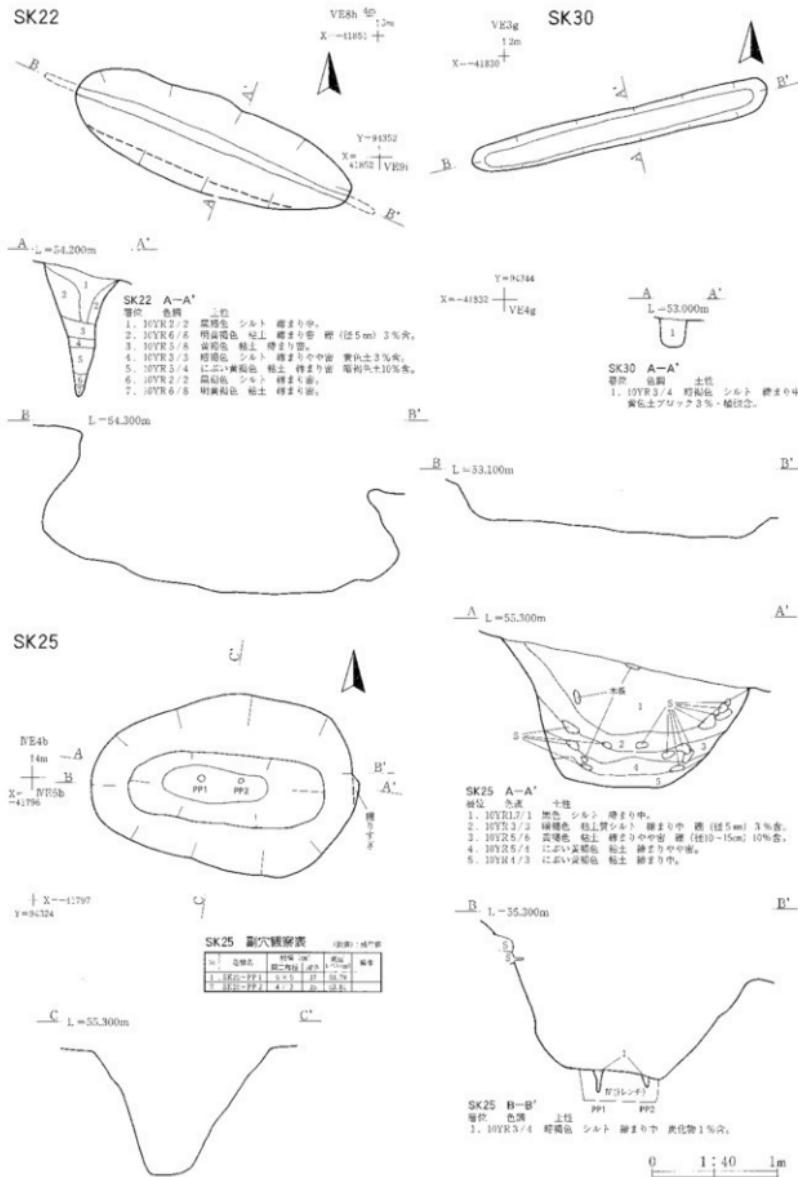
第14図 穴住居跡 (5) : SI05



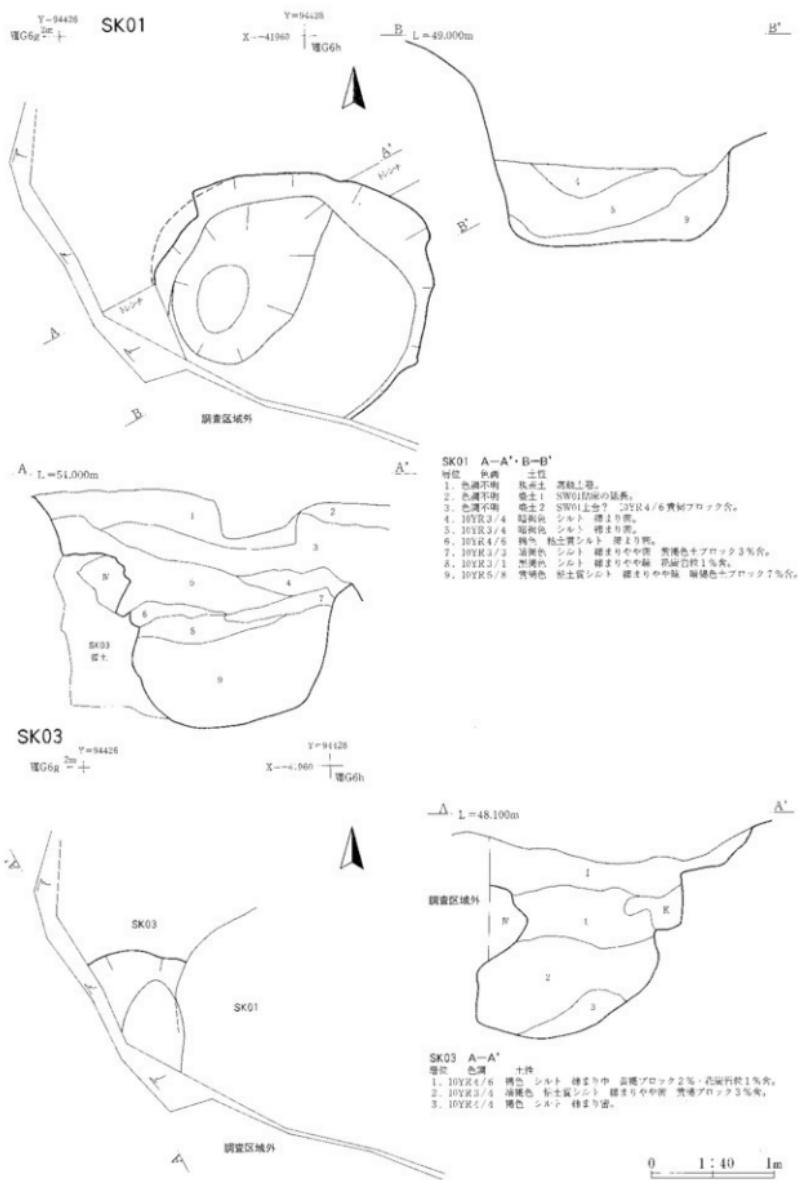
第15図 竪穴状遺構：SKI01・02



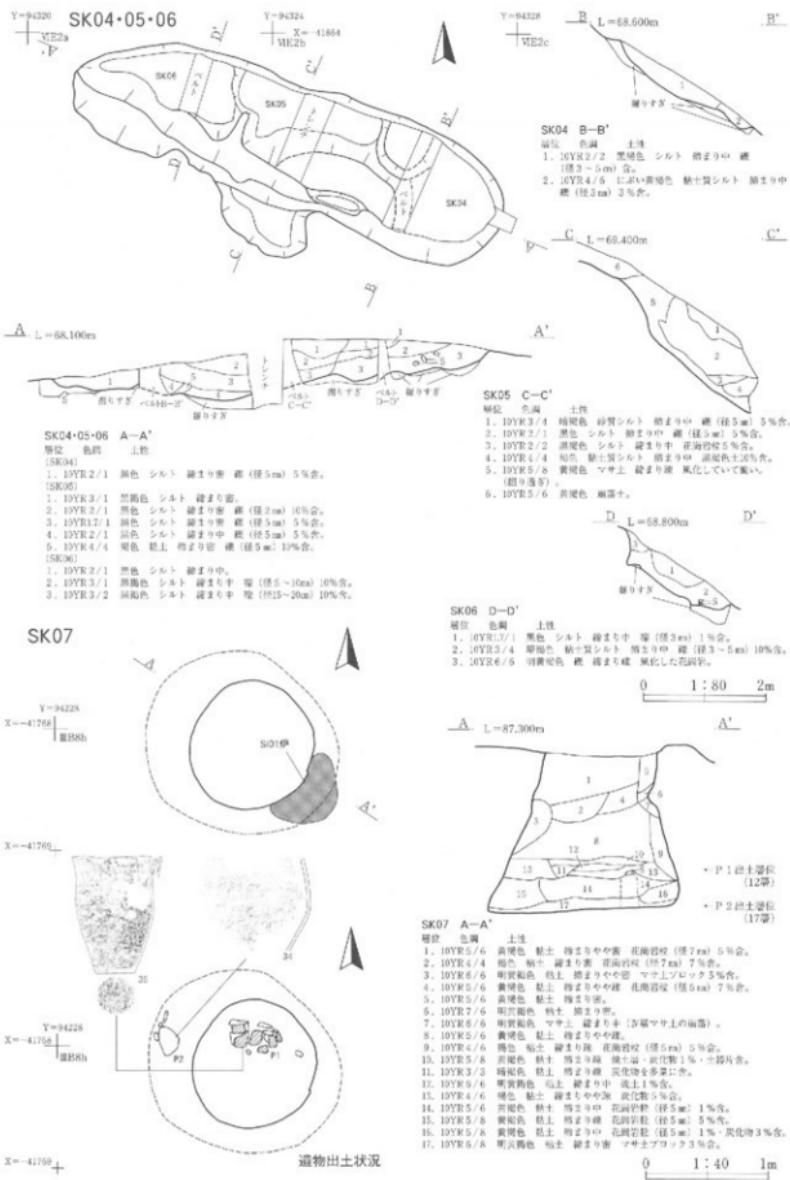
第16図 陥し穴状遺構 (1) : SK02・14・20



第17図 詰し穴状遺構 (2) : SK22・25・30

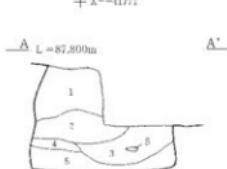
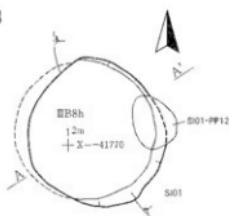


第18図 土坑(1)：SK01・03



第19図 土坑(2)：SK04～07

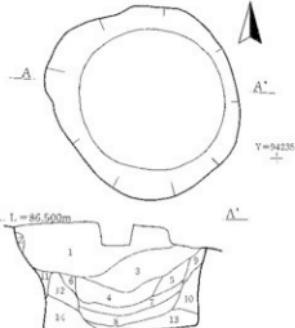
SK08



SK08 A-A'

- 層位 色調 上性  
1. H0Y2.7/6 黄褐色地 シルト 細まり密 密化物 (H10zz) 1%合。  
2. H0Y2.8/6 黄褐色地 シルト 細まり密。  
3. H0Y4.4/6 桃色 地 シルト 細まり密 密化物 (H5.5~10mm) 5%合。  
4. H0Y2.2/3 黄褐色地 シルト 細まり密。  
5. H0Y2.8/4 黄褐色地 シルト 細まり密。

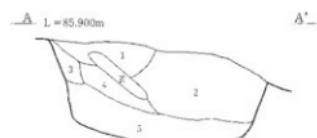
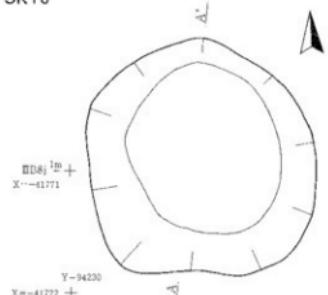
SK09



SK09 A-A'

- 層位 色調 上性  
1. H0Y5/6 黄褐色 地土 細まりやや密 花崗岩塊 (径7mm) 5%・炭化物 1%合。  
2. H0Y6/8 黄褐色地 粘土 細まりやや密 マットプロック (径2cm) 5%合。  
3. H0Y6/6 黄褐色地 粘土 細まり中 密化物 1%合。  
4. H0Y4.4/6 桃色 地 シルト 細まり密 黄褐色チップ (径1~2cm) 3%合。  
5. H0Y6/6 黄褐色 地土 細まり中 密化物 1%合。  
6. H0Y5/6 黄褐色 地土 細まり中。  
7. H0Y6/6 黄褐色 地土 細まり中 黄褐色チップ (径1cm) 3%合。  
8. H0Y3.4/4 黄褐色 地土 細まりやや密 亜鉛鉱 (径7mm) 1%・炭化物 7%合。  
9. H0Y6/6 黄褐色 地土 細まりやや密 花崗岩塊 (径5mm) 7%合。  
10. H0Y5/8 黄褐色 地土 細まりやや密 亜鉛鉱 (径2cm) 5%合。  
11. H0Y6/8 黄褐色地 粘土 細まりやや密 花崗岩塊 (径2cm) 5%合。  
12. H0Y5/6 黄褐色 地土 細まりやや密 亜鉛鉱 (径1cm) 3%合。  
13. H0Y5/6 黄褐色 地土 細まりやや密 花崗岩塊 (径5mm) 3%合。  
14. H0Y6/6 黄褐色 地土 細まりやや密 花崗岩塊 (径3mm) 1%・炭化物 1%合。

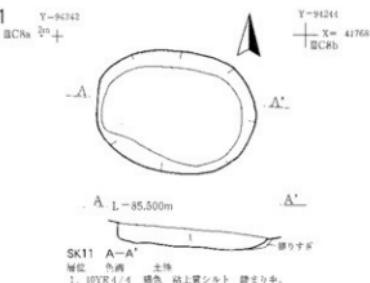
SK10



SK10 A-A'

- 層位 色調 上性  
1. H0Y3.4/6 黄褐色 地土 シルト 細まり中 黄褐色地土チップ (径3cm) 1%合。  
2. H0Y2.8/6 黄褐色 地土 細まりやや密 花崗岩チップ (径5mm) 3%合。  
3. H0Y5/8 黄褐色 地土 細まりやや密 花崗岩チップ (径3cm) 1%合。  
4. H0Y5/4 にじみ黄褐色 地上 細よりやや密 花崗岩チップ (径2cm) 1%合。  
5. H0Y2.6/8 明黄褐色 地土 細まり密 マットプロック (径3cm) 3%合。

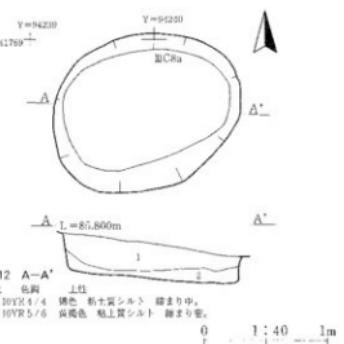
SK11



SK11 A-A'

- 層位 色調 土性  
1. H0Y4.4/4 桃色 地上黄シルト 細まり中。

SK12

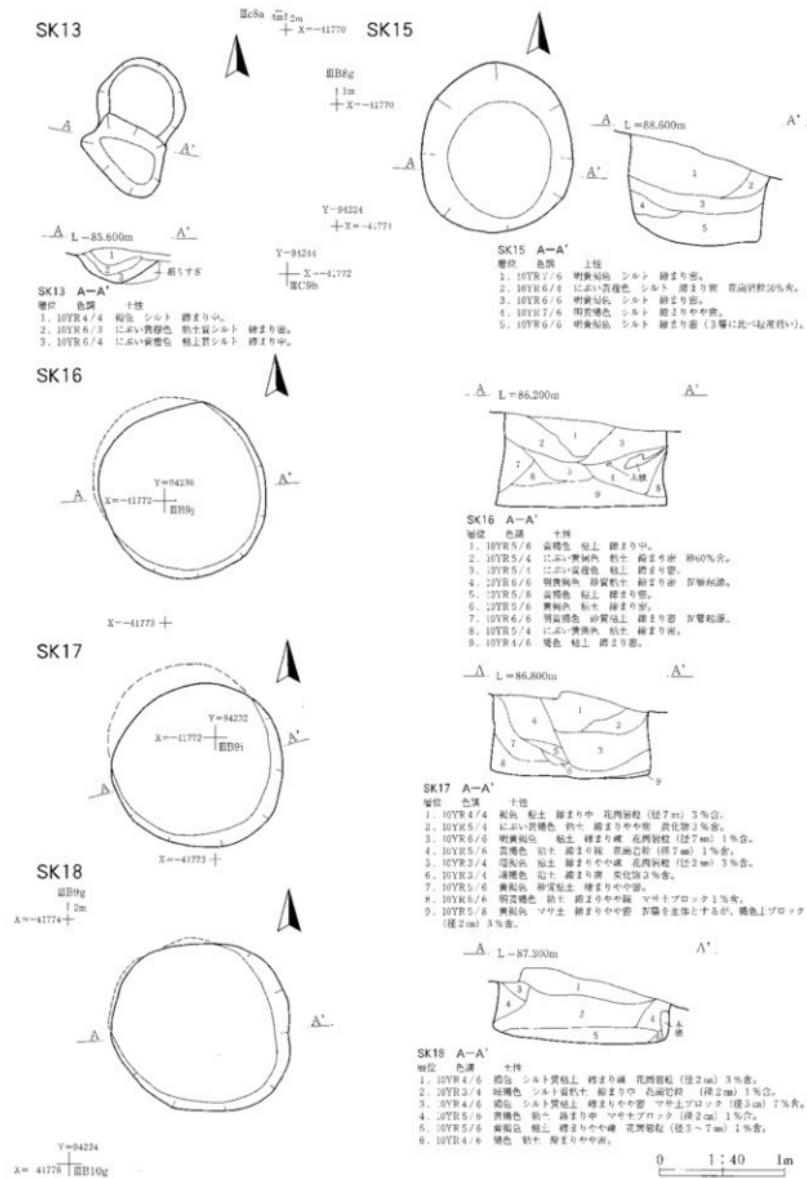


SK12 A-A'

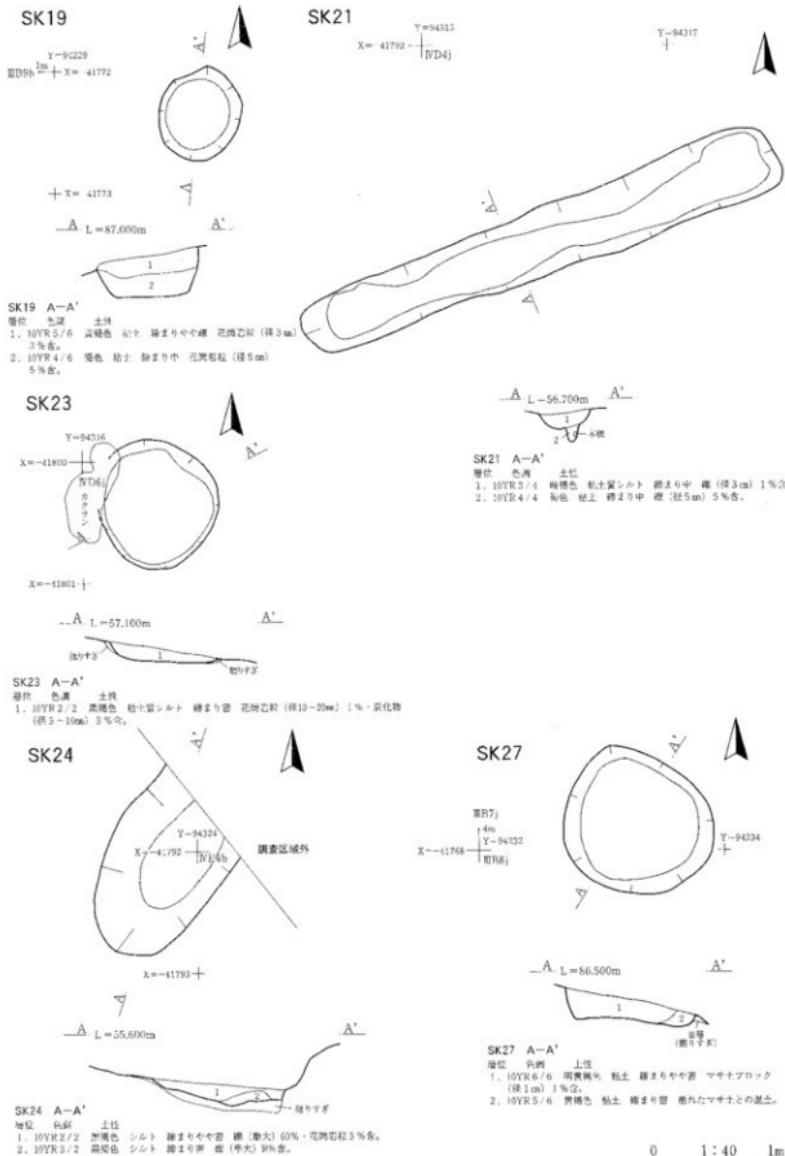
- 層位 色調 上性  
1. H0Y4.4/4 桃色 粘土質シルト 細まり中。  
2. H0Y5/6 黄褐色 地上黄シルト 細まり密。

0 1:40 1m

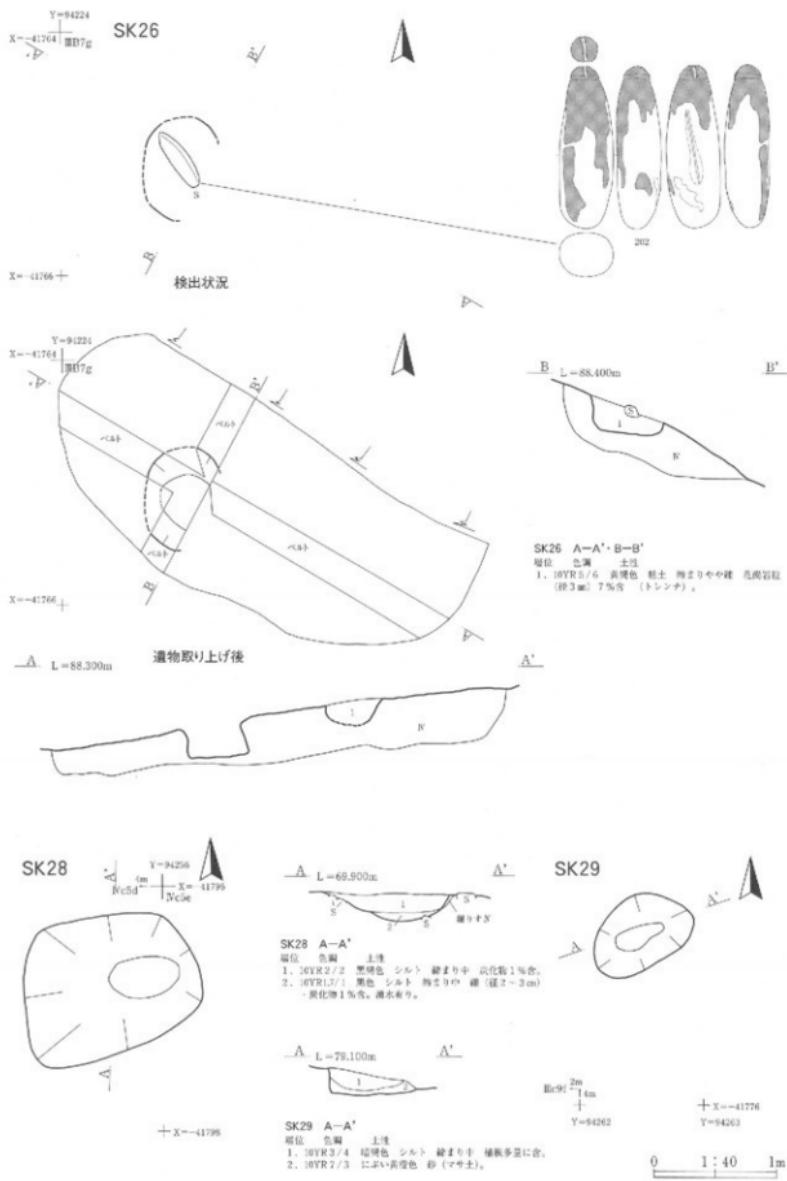
第20図 土坑 (3) : SK08~12



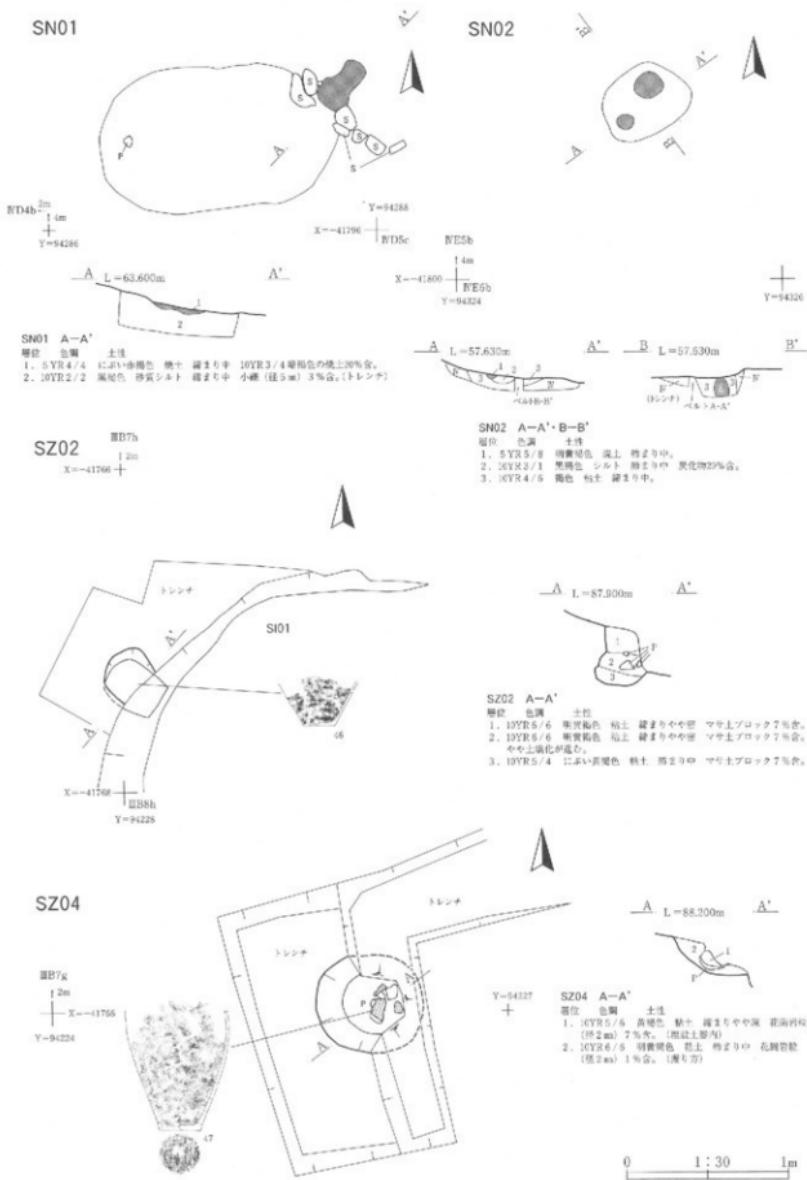
第21図 土坑 (4) : SK13・15~18



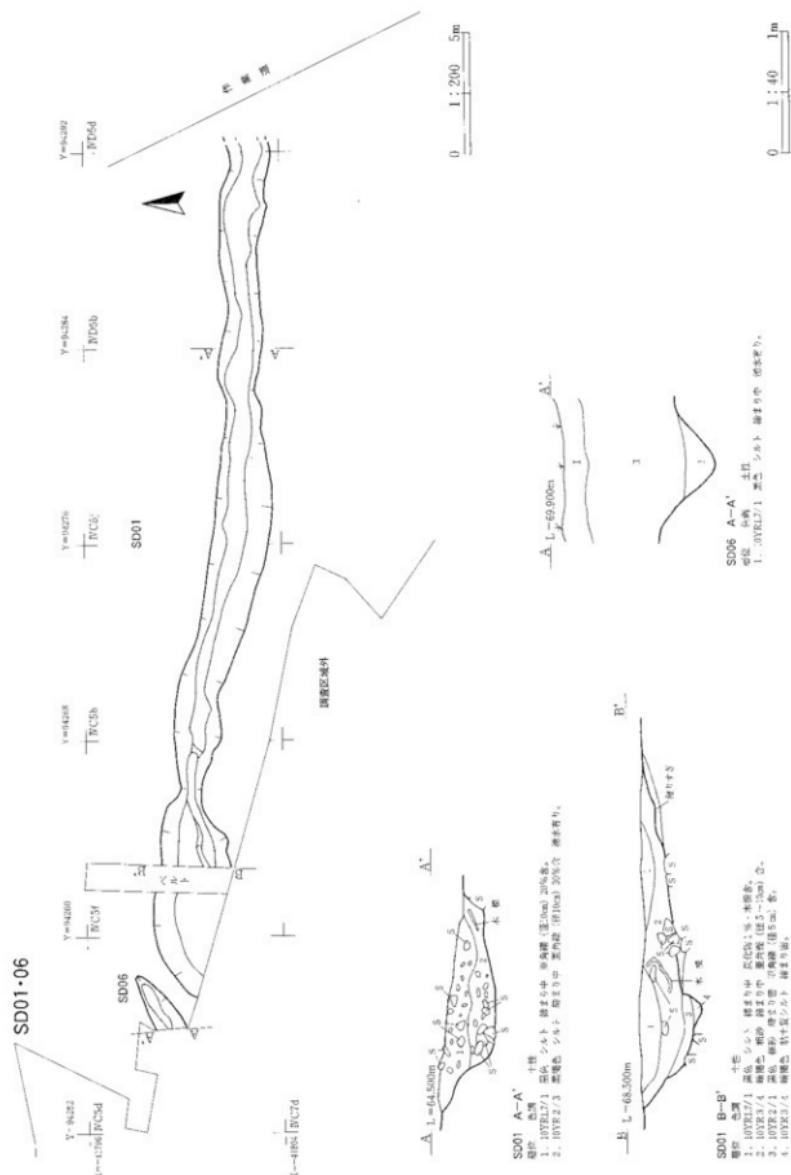
第22図 土坑 (5) : SK19・21・23・24・27



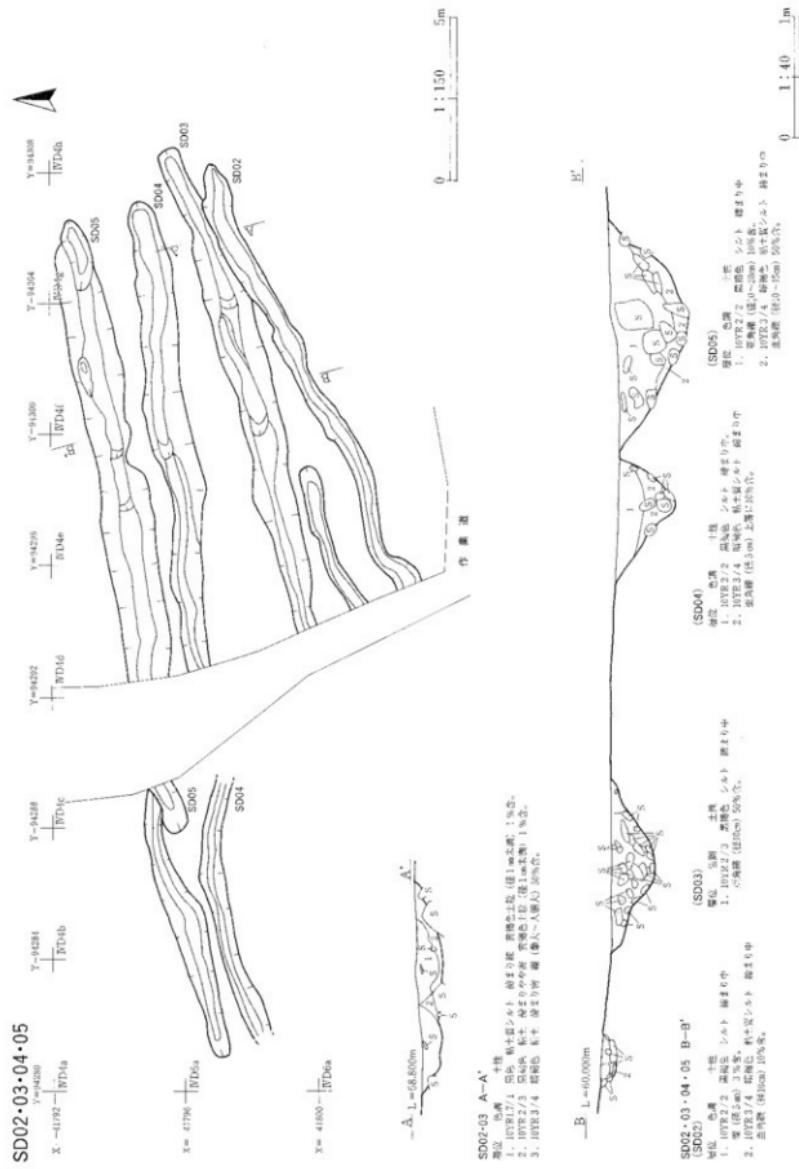
第23図 土坑 (6) : SK26・28・29



第24図 烧土遺構: SN01・02、土器埋設構造: SZ02・04

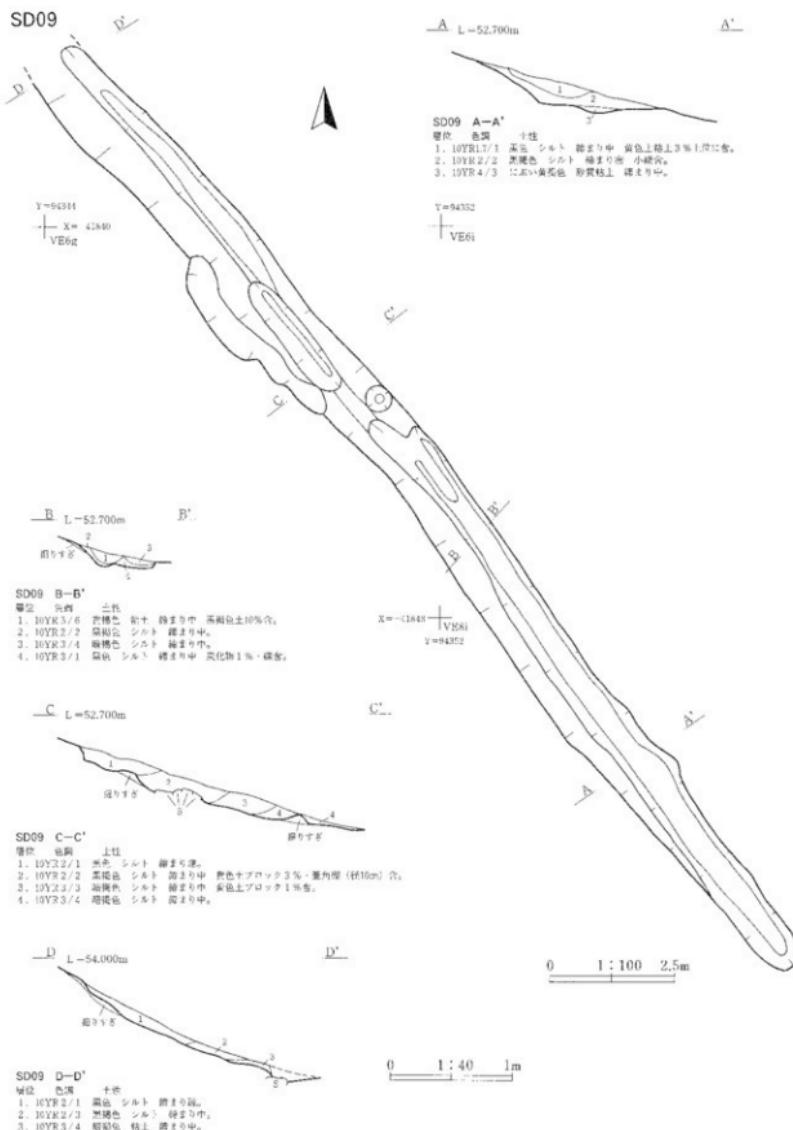


第25図 溝跡 (1) : SD01・06

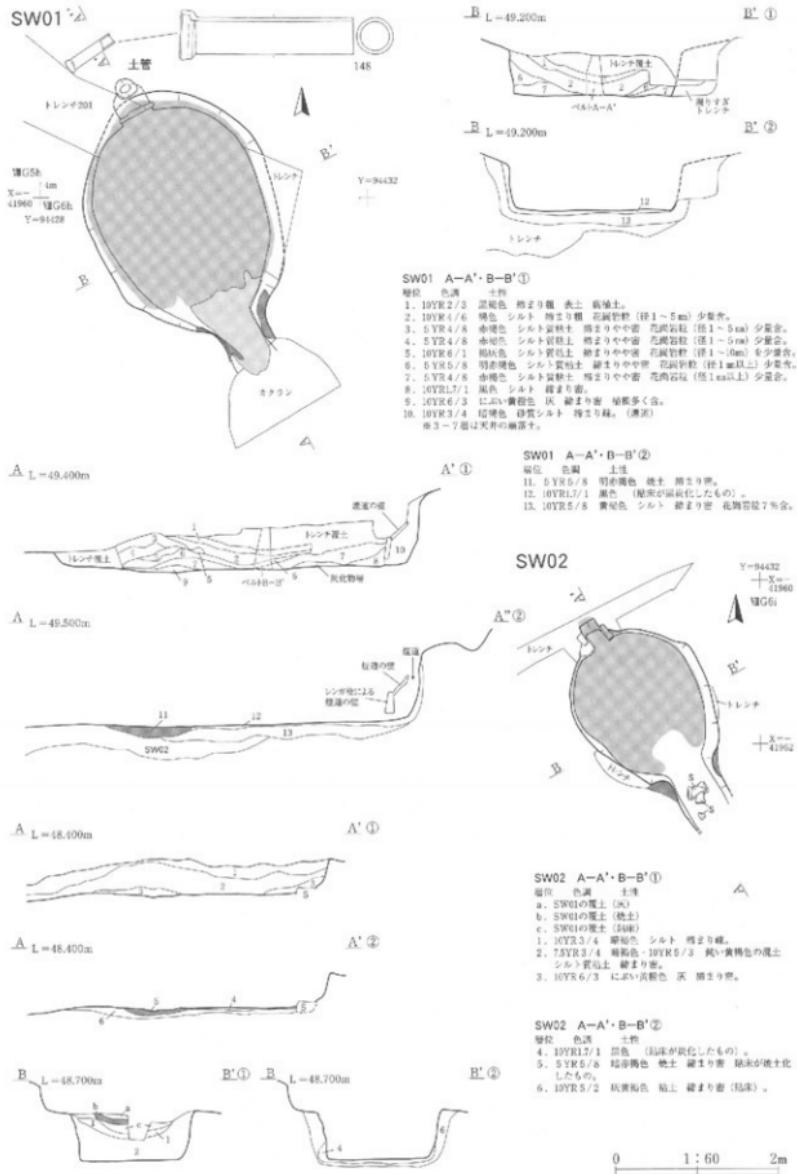


第26図 満跡 (2) : SD02~05

1 検出遺構



第27図 溝跡(3): SD09



## 2 出 土 遺 物

### (1) 出土遺物の概要 (第29~47図、写真図版22~34)

出土遺物は、土器、土製品、石器、石製品、陶磁器、鉄製品、ガラス製品、炭化材、炭化種実などがある。いずれも量は少ない。総量は大コンテナ (40×30×30cm) 5箱分である。以下、遺物の種別ごとに詳述する。

(阿部)

### (2) 土器 (第29~39図、写真図版22~28)

土器は、重量計測を行った後に接合を行い、口径・器高・底径の計測値のうち1箇所以上計測可能なものを立体土器として登録・図化し、掲載した。破片資料はすべて実見し、以下の基準で選別した。掲載資料は、遺物の残存状況が良くないため、部位に関係なく大きさ径3cm以上のものを選んでいる。底部破片は全て掲載した。掲載した土器はすべて図・写真・観察表を掲載した。個々の土器の文様などの特徴は、第8表土器観察表に記載している。

(八重畠)

縄文土器・弥生土器

#### ① 観察項目

以下の項目について、観察を行った。

- ・計測値（器高・口径・底径）※立体土器のみ
  - ・器形：口縁部：平縁・波状縁他
  - ・色調：土色軸に照合する。
  - ・内面調整：ミガキ・ナデの有無と方向
  - ・その他：成形の痕跡（輪積痕）、使用の痕跡（補修孔・煮炊の痕跡・アスファルト・朱の付着）など。
- ・器種：深鉢・浅鉢・ミニチュア土器など
  - ・文様：各部位の縄文原体と施文方法
  - ・胎土：繊維・礫などの混入物
  - ・煤の付着の有無

#### ② 分類

以上の観察結果から、出土した土器を以下のように分類した。分類の基準としては、器形・文様要素・胎土・器種などがあげられるが、本遺跡では破片資料が大多数を占めることから、主に文様要素と胎土からみた分類となっている。既存の土器型式と比定できるものは、< >内に記述している。時期的には縄文時代前期・中期、弥生時代後期の土器が出土している。総重量は53,155.5gである。

#### I群：縄文時代前期 (10)

10は胎土に繊維を多く含む土器で、棒状工具による深い沈線を横位に施し、その上下に縦位の浅い沈線を隙間無く充填する。横位沈線の直下にはLRを横位に短く施文している。

#### II群：縄文時代中期

##### 1類 中葉<大木8a式>

口縁部に細い粘土紐で横位に波状文を描出するもの。(33)

33は胎土に石英を多く含む。口縁部にLRを横位に施した後、粘土紐による波状文を貼付する。

##### 2類 中葉<大木8b式>

a種 口縁部に横位の隆帯または隆沈線をもつもの。(20・28・50・56・87・91・109・113)

20・28は細い粘土紐を貼り付け、断面が三角形を呈する隆帯である。20は横位に2条、縦位に1条隆帯を垂下させる。28は横位に1条、縦位には隆帯ではなく沈線を施してい

る。56・87・91・109・113は横位の太い隆帯を持ち、その下部には縄文を施文する。87は隆帯上に深い沈線を沿わせ、沈線の末端に円形状にアクセントをつける。113は太い沈線によって文様帶を区画している。50は横位の隆沈線をもつ土器である。

b種 口縁部に平行沈線で文様帶を区画するもの。(80・94)

80は口縁部が内湾する器形で、地文縄文LRをもち、横位の平行沈線で文様帶を区画する。その区画内に平行沈線で波状文を描出する。94は横位の平行沈線を1条巡らし、その上部は無文、その下部は縄文RLRを施す。

c種 口縁部文様帶が無文なもの。(25)

無文の口縁部破片であるが、外反する器形から大波状(2波)口縁をもつ深鉢と思われる。

d種 胴部に継・横位の隆沈線をもつもの(24・32・37・38・63・68・86)

これらはすべて隆線の両脇に沈線を沿わせるものである。37・63・68・86は継位に1~2条の隆沈線を施し、その両脇には地文縄文が施される。24・32も同様であるが、継位のほか、横位にも隆沈線を施す。38は横位の隆沈線の沈線部分に刺突文をもつ。

3類 後葉<大木9式>

a種 口縁部から沈線で匂字文を垂下させ、その区画内を縄文で充填するもの。(58・110)

58・110とも区画内はLR縄文で、胎土に細縞を多く含む。

b種 胴部に継位に2条1単位の沈線を垂下させ、その外側に縄文を施すもの。(8・22・26・27・30・48・55・69)

この中で地文縄文に2種類の原体が用いられている。8・26・30・48・55・69はLR縄文、22・27はRLR縄文を用いる。22は底部まで残存する破片で、文様は底部付近まで施される。底面は仕上げにミガキが施されている。

4類 末葉<大木10式>

a種 口縁部から胴部に沈線で文様(S字状もしくはC字状)を描き、その区画内に縄文を充填したもの。(13・65・89・97)

89は口縁部でS字状の一部とみられる沈線の区画内に縄文RLRを充填する。13・97は胴部破片で沈線の区画内に縄文RLを充填する。65は沈線によって匂状と一状を描き、その区画内に縄文LRが充填されている。この意味では3類a種と類似するが、波状口縁の頂部にノの字状の貼付文という新しい要素を持つため、この項に分類した。

b種 口縁部から胴部にかけて沈線で文様を描き、その区画外に縄文を施すもの。「ノ」・「L」字状無文体を描出する破片と思われる。(3・9・49・81・90・98・101・112)

98は口縁部破片で、口縁部は無文帶で、その下に横位に1条沈線を施し、そこから継位に2本沈線を垂下させる。その区画の外側に縄文LRを施文する。101は胴部破片で2本沈線を垂下させ、その外側は縄文RLを施文する。90はL字状に沈線を施し、その外側に縄文LRを施す。その他の3・9・49・81・112は、沈線の脛曲部に粘土紐の貼付文を貼付する。

c種 口縁部に円形刺突文を施すもの。(78・92)

78は薄手の土器で口縁部がくの字状に外反する。口縁部に円形刺突文を横位に1列施文し、その下に沈線を横位に1条、継位に2条施す。継位の沈線間は無文であるが、その外側には縄文LRが施文される。92は波状口縁の頂部とみられるが、表面に円形刺突を不規則に施文する。裏面には粘土紐の貼付文がみられる。

d種 口縁部に列点文を施すもの。(15・60・74・95・102)

15は口縁部に2列の列点文を施し、その下部にLRとみられる縄文を施す。74・95は15と同様であるが、口縁部とその下の縄文帯を横位沈線で区画する点で異なる。102は口縁部に1列の列点文を施し、口字状に沈線を施し、その区画内に縄文RLで充填する。60は102と同様であるが、区画内の縄文が口縁部と同じ列点文に置き換わる。

e種 口縁部は無文帯でその下に刺突を伴った沈線または隆脊をもつもの。(23・67)

23は、くの字状に内湾する器形で、横位の隆帯を施し、その隆帯上に刺突文を施す。隆帯より上部は無文帯で、下部は縄文LRを施す。1箇所貫通孔が穿たれる。67は口縁部が無文帯でその下に横位の隆沈線を施し、その沈線部分に刺突文を施している。

f種 口縁部は無文帯でその下に横位の沈線をめぐらせ、胴部に縄文を施すもの。(5・7・11・19・62・73・77・79・83・93・99・111)

この土器群で、横位沈線の下の縄文にLR・RLの2種類の原体がみられる。LRは5・7・11・19・111で、19が原体を横に回転している以外、すべて縦に回転させている。また111は口縁部の裏面にノの字状の貼付文をもつ。RLの原体を持つのは62・77・79・83・93・99である。これらはすべて原体を縦回転させる。83は口縁部裏面に粘土紐の貼付文をもつ。

5類 縄文のみの施文するもの。(1・2・4・6・12・14・16・17・21・29・31・34・35・36・39・40・41・42・43・46・47・51・52・53・57・64・66・70・71・72・73・75・82・84・85・96・100・103・104・105・106・108)

文様が縄文のみのものを一括した。この中で縄文原体の種類を観察したところ、8種類が確認された。LR、RL、LR+結節、RL+結節、LR（0段多条）、RL（0段多条）、RLR、単軸絡条体第1種（L）である。ここでは、おおかたの器形が分かるまで復元された土器（35・42・47・57・70・100）について、器形の特徴も含めてふれる。

35・42・100は胴部半ばで一旦膨らみ、その後はやや外反しながら立ち上がる器形である。すべてLRを縦に施す。35は底部に網代痕（1本超え1本潜り）が残る。

47・70は、底部から胴部半ばにかけて膨らみ、その後は内済して口縁部に至る器形である。47は胴上半部には単軸絡条体第1種のLを、胴下半部にはRLを縦方向に施し、底部には網代痕（1本超え1本潜り）が残る。70はRLを縦方向に施し、2～3cmの間隔で結節縄文が表れる。

57は底部から胴半ばにかけて広がり、その後は直立気味に口縁部に至る器形である。RLを縦方向に施し、底部には網代痕（1本超え1本潜り）が残る。

6類 ミニチュア土器（18・54・76）

3点とも底部のみが残存しており、底面の直径は3～4cmを測る。底面に18は網代痕（1本超え1本潜り）、54はミガキ、76は木葉痕がみられる。

7類 その他 微細なもの及び文様要素が少なく不明なもの。(44・45・88)

III群 弥生時代後期 <天王山式> (59・61)

61は口縁部に横位に3条の平行沈線を施し、その沈線に沿って交互刺突文を施文する。また口縁部は斜位に、胴部は縦位に単軸絡条体第1種を施す。59は胴部破片で、横位の平行沈線を1条、その下部に縦位の単軸絡条体第1種を施す。

### ③ 遺物の出土状況について

#### 豎穴住居跡出土の土器

豎穴住居跡から出土した土器で、図示し得たものは29点である。埋甕・埋甕炉など、時期が確定な土器がなく、ほとんどが覆土中からの破片資料である。その中で量が多かったのは、覆土の堆積が比較的厚かったSI01、02である。ともに大木10式土器が主体である。なお、SI02は尾根からの谷頭に位置することもあって、前期の上器片（10）、及び大木8 b式土器（20）など流れ込みとみられる土器も出土している。その他SI03からは、大木8 b式土器が3点、9式が2点出土している。

また豎穴状造構としたSK101・02からも僅少ではあるが、覆土中から大木8 b・9式土器片が出土している。

#### 土坑出土の土器

土坑から出土したもので図示し得たものは12点である。そのうち9点が縄文のみの施文である。時期がわかるものを挙げると、SK07から大木8 a式の土器片（33）であるが、この造構は明らかにSI01（中期末葉）を切って構築されたものであり、埋没時の流れ込みと考えられる。また、SK09・10から大木8 b式の上器片が出土している（37・38）。

#### 土器埋設造構の上器

2基検出されているが、どちらも縄文のみの施文の粗製土器で、時期は特定できるものではなかった。SZ02はSI01を切って構築されていることから、中期末葉以降であると考えられる。深鉢の底部～胴部下半までが出土しており、器厚が0.6cmと薄手である（46）。また外側に煤の付着が顕著である。SZ04は深鉢の底部～胴部上半までが埋設されており、胴部上半には短軸絡条体第1種、下半にはRLが縦位に施されている（47）。

#### 造構外出土の土器

66点を図示した。弥生時代の土器片が2片出土している以外は、すべて中期大木8 b式から10式に取まる。ほとんどが4区尾根上及び北斜面、南斜面から出土している。3区から出土したのは7点、1区・2区からは出土していない。グリッドで表すと、4区の造構密集地を中心に、ⅢB7 gグリッドからⅢC2 aグリッド付近で多く出土している。出土状況をみると、大木10式の上器片は広く分布しており、前述したグリッドから偏りなく出土するのに対して、大木8 b～9式の土器片は4区尾根上の東側（ⅢB7 i・7 j、ⅢB8 j、ⅢC9 a）から出土する傾向にある。これはSK101・02付近にあたり、この造構の構築年代に関連がある可能性が考えられる。

（八重畠）

#### 引用・参考文献

- 岩手県立博物館 1982 「岩手の土器」
- 丹羽 茂 1981 「大木式土器」『縄文文化の研究 4』雄山閣
- 1989 「中期大木式土器様式」『縄文土器大観3』
- 小田野哲恵 1987 「岩手の弥生式土器編年試論」『岩手県立博物館研究報告』第5号

#### 上師器

8点：総重量913.7g出土している。器種の内訳は壺と甕である。SI05及その周辺から出土している。詳細は第14表を参照されたい。123・124・125は、内黒の壺である。123は略完形で、底面はヘラきりの調整が施されている。124・125は底部を欠き、124は外面も黒色化し、ミガキ調整が施されている。121・127は胴部破片、122は底部破片、126・128・129・130・131は口縁部破片である。調整と器形の特徴をみると、甕の口縁の内外面は横ナデ。胴部の内外面はナデ調整が施されている。非口クロ

で、器形の特徴は口縁部が外傾し、底部が張り出している。杯はロクロ成形で、内面内黒にミガキ調整が施されている。

### (3) 土製品 (第39・40図、写真図版28)

8点: 総重量13,253.0g出土している。内訳は、縄文時代の土製品2点、古代の土製品1点、現代の土製品5点である。現代の土製品は炭窯跡との関連で掲載した。詳細は、第15表を参照されたい。

141の土製品は、欠損品であるため、詳細は不明だが、いわゆる、きのこ形土製品と推測される。傘部分と柄の部分が残存している。文様はない。傘部分の外面より内面の調整が丁寧である。142の土製品は、欠損品で詳細は不明だが、棒状に細長い形態の土製品の端部と推定される。両面・側面とも外面には、径5mm程度の円形の刺突文が施されている。143は、羽口の破片で、詳細は不明だが、端部に溶着部の痕跡が確認できる。148は土管である。長さ64.8cm、径13.5cmである。144~147はレンガである。SW01の渾道と窓を図画する壁面に用いられていた。受熱して赤変したものと、付着物が付いて黒色化したものがある。この状況は、煙道の内壁の状況と一致する。144・146・145・147は、片面に記号が彫られているが、詳細は不明である。145と146は、右側に「R」「O」のアルファベットが確認できることから、同一規格でつくられたものと推測される。

### (4) 石器 (第41~45図、写真図版29~33)

44点、総重量24,335.5g出土している。内訳は、石鏃3点、石錐1点、楔形石器2点、不定形石器4点、礫器1点、磨製石斧3点、磨石22点、凹石2点、石皿1点、台石3点、砥石2点である。器種と石材の関係をみると、石鏃・石錐・楔形石器・不定形石器など剥片石器は頁岩が使われており、磨石は花崗閃緑岩の使用頻度が50%と高く、凹石・石皿・台石類は、流紋岩が用いられている。用途に応じて石材が使い分けられている。以下、器種ごとに概要を述べる。個々の石器の計測値・特徴などは、第16表 石器観察表を参照されたい。石鏃は3点出土している。石材は頁岩(2)・めのう(1)である。2点を図化した。形態で分類すると、凹基無茎鏃2点、平基無茎鏃1点である。153は欠損部位が多く、詳細は不明である。厚さは0.5~0.6cmである。石錐は1点出土している。石材は頁岩である。つまみを有する形で、錐部の先端が欠損している。楔形石器は2点出土している。石材は頁岩である。1点を図化した。相対する2辺に対となる剥離をもつ石器である。方形基調の剥片と縱長基調の剥片を使用しているものがある。不定形石器は4点出土している。石材は頁岩である。3点を図化した。主要剥離面と反対側の長さを持つ一辺に片面より加工し、刃を付けている。157は刃の角度が急斜度である。礫器は1点出土している。石材は蛇紋岩である。片面の一側縁に加工が施され、刃付けされている。磨製石斧は3点出土している。石材は頁岩(1)・蛇紋岩(2)である。いずれも欠損品である。162・164は基部を欠く、163は、磨製石斧の一辺が剥離したものと思われるが、詳細は不明である。表面には擦痕が確認できる。磨石は、破片も含めて22点出土している。石材は、凝灰岩(1)・砂岩(1)・閃緑岩(1)・花崗閃緑岩(11)・花崗斑岩(1)・安山岩(6)・アブライト(1)で、花崗閃緑岩が多く(50%)用いられている。今回の調査では、もっとも多く出土した石器である。15点を図化した。素材としての縛は球状のものや橢円形形状の縛を用いている。使用された部位は、扁平な礫の一側縁または二側縁に使用痕跡がみられるもの、端部の一端または両端に敲打の痕跡があるもの、礫の両面や片面に磨面が形成されているもの、などがある。門石は2点出土している。石材は流紋岩である。1点を図化した。187は、断面が三角形形状の縛を用いて、三面の長軸方向に2~4箇所の複数個所の凹部が速なるように形成されている。凹部の大きさは、径2.5~2.0cm、深さ0.5cmの円錐状であ

る。石皿は1点出土している。石材は流紋岩である。台石は2点出土している。190は欠損品で詳細は不明だが、片面に受熱による痕跡として、赤色化した範囲と黒色化した範囲がある。砥石は2点出土している。石材は砂岩である。1点を圓化した。193は欠損品で詳細は不明だが、中央がわずかに凹み、その部分に向かって、溝状の使用痕がみられる。

#### (5) 石製品 (第46図、写真図版33)

2点：総重量19053.0g出土している。内訳は三角形状の石製品1点、石棒1点である。石材はいずれも砂岩である。詳細は、第17表を参照されたい。201の石製品は、厚みのある三角形状に整形された製品で、一辺が欠損している。202は大形の石棒で、長さ53.9cm、径17.6cm、重量19,000gである。敲打により成形し、先端部に括れをつくり、溝状の刻み目を一条つくっている。

#### (6) 陶磁器 (第47図、写真図版34)

14点：総重量205g出土している。すべては破片である。18・19世紀代の製品を掲載した。詳細は、第21表を参照されたい。211は湯飲み茶碗。213・224は碗の口縁部破片で、218と類似する。217・219は皿の破片。223は瓶または壺の底部破片で、高台付である。218は碗の破片で鉄軸が施されている。

#### (7) 鉄製品 (第47図、写真図版34)

4点：総重量5224.9g出土している。内訳は、鎧1点、板状鉄製品2点、船釘1点である。詳細は、第22表を参照されたい。231・232の鉄板は、炭窯の構造部に利用されていたもので、この鉄板の上にレンガを積んで窯道と炭窯の壁を区画していた。板状のもので、231は一箇所に穿孔がある。233の鎧は、炭窯跡周辺から出土したもので、炭窯との関連性が考えられる。刃部の腐食が著しい。234の鉄製品は幅広の部分が折れている。現在も使われている船釘の形状に類似するものである。

#### (8) ガラス製品 (第47図、写真図版34)

1点：総重量688g出土している。器種はビール瓶である。詳細は、第23表を参照されたい。瓶の下方に「DAINIPPON BREWERY」(大日本麦酒)の銘が記されている。戦後にアサヒビールとサッポロビールに分割されるが、それ以前の独占的なビール会社であった大日本麦酒株式会社で製造していたビール瓶である。現在のビール瓶と比較してみると、外形は肩が張り出し、内部は底面の一部が平坦でなく一方が傾斜し、瓶の接合面が縱方向に確認できる、などの特徴がある。

#### (9) 植物遺存体 (写真図版34)

2点：0.4g出土している。詳細は、第24表を参照されたい。種実2点は、遺構内からの出土で、縱方向に欠損して炭化している。251は、コナラ属一子葉、252はコナラ属コナラ亜族一子葉との分析結果を得ている(101頁)。炭化材の総重量は937.4gである。樹種にはクリ、ケヤキ、アカマツ、ホホノキ、ナラがある。堅穴住居跡出土の炭化材はクリが多く、ケヤキ、アカマツの多くは、炭窯跡からの出土である。また、炭化材6点について放射性炭素年代測定を行っている(101頁)。(阿部)

第11表 出土地點別土器重量表  
堅穴住居跡 (SI)

No.	出土地点	器種	重量(g)
1.	SI01	Q4 壁上層	161.6
2.	SI01	Q1 壁上下層	196.3
3.	SI01	Q1 壁面遺物	116.9
4.	SI01	Q1 壁上層	853.0
5.	SI01	Q1 壁下層	430.1
6.	SI01	Q1 壁上層	385.3
7.	SI01	Q1 壁下層	223.3
8.	SI01	Q2 壁	157.9
9.	SI01	Q1 壁上層	85.0
10.	SI01	Q1 壁下層	294.2
11.	SI01	Q1 壁上層	71.0
12.	SI01	陶瓶	10.0
13.	SI01	陶瓶	1.5
14.	SI01	陶瓶	8.3
15.	SI01	陶瓶	2.2
16.	SI01	陶瓶	1.1
17.	SI01	陶瓶	175.1
18.	SI01	ペルト A' - 上層	172.2
19.	SI01	ペルト A' - 下層	172.0
20.	SI01	ペルト B' - 上層	145.0
21.	SI01	ペルト B' - 下層	452.2
22.	SI01	PP1	24.8
23.	SI01	PP7	49.2
24.	SI01	PP7.8	6.5
25.	SI01	PP7.11	23.8
26.	SI01	PP7.22	13.1
		小計	4396.6
27.	SI02	東窓下 1 層 黒色	36.0
28.	SI02	東窓下 2 層	186.0
29.	SI02	東窓下 6 層	33.9
30.	SI02	東窓下 6 層 b1 - b1	828.7
31.	SI02	東窓下 6 層 黒土	10.1
32.	SI02	西窓下 1 層 黑色	72.0
33.	SI02	西窓下 1 - 2 層	423.8
34.	SI02	西窓下 6 层	20.1
35.	SI02	北窓下 1 层 黒土	268.3
36.	SI02	北窓下 2 层 黒土	58.3
37.	SI02	北窓下 3 层 黒土	87.8
38.	SI02	北窓下 4 层 黒土	229.0
39.	SI02	北窓下 5 层	332.0
40.	SI02	ペルト A' - A" 3 窓	25.0
41.	SI02	ペルト A' - A" 2 窓	384.3
42.	SI02	ペルト A' - A" 1 窓	190.1
43.	SI02	ペルト B' - B" 6 窓	41.4
44.	SI02	東窓下 6 层 黒土	3.3
45.	SI02	1 窓 (3 区 2.20 の北側)	250.8
		小計	460.1
46.	SI03	東窓下 1 - 2 層 黑土	9.8
47.	SI03	Q3 7 窓	35.0
48.	SI03	Q2 7 窓	7.1
49.	SI03	Q2 壁面	18.1
50.	SI03	Q2 壁面	42.6
51.	SI03	壁上 1 层 (ペルト)	395.5
52.	SI03	瓦土 1 窓 (ペルト)	167.6
53.	SI03	西北部 1 - 2 層	11.8
54.	SI03	ペルト A' - A" 3 窓	66.8
55.	SI03	石器類	13.3
		小計	737.6
56.	SI04	北窓下上位	29.0
57.	SI04	カマド周囲土	2.6
58.	SI04	カマド西面土	0.7
59.	SI04	カマド裏土	7.0
		小計	30.3
60.	SI05	底板	9.2
61.	SI05	底板 P - E1	63.1
62.	SI05	底板 P - E2	45.6
63.	SI05	底板 P - E3	12.6
64.	SI05	底板 P - E4	53.5
65.	SI05	底板 P - E5	175.9
66.	SI05	底板 P - E6	84.3
67.	SI05	カマド裏土 P - E1	36.0
68.	SI05	カマド裏土	56.5
69.	SI05	カマド P	150.8
70.	SI05	カマド裏土	188.4
71.	SI05	底板裏土	7.5
72.	SI06	Q4 壁面遺物	2.8
73.	SI06	PP4	4.2
		小計	7.0
		合計	10409.0

堅穴住居跡 (SKI)

No.	出土地点	部位	重量(g)	部位	重量(g)
1.	SK01	Q2	30.4	III D6 c - 7 c	21.0
2.	SK01	Q2 壁上	4.5	III D6 g	36.2
3.	SK01	Q2 壁下	9.3	III D6 f	105.3
4.	SK01	Q1 壁上層	4.8	III D6 f (北剖面)	16.1
		小計	49.0	III D6 i - 7 j	2227.2
5.	SK02	Q4 壁上層	100.3	III D7 a	9.0
6.	SK02	Q3 壁上	87.2	III D7 g	1235.0
7.	SK02	上層	14.0	III D7 h	135.7
8.	SK02	東西壁上	140.0	III D7 i	575.8
9.	SK02	PP8	5.9	III D7 j	33.6
		小計	347.4	III H7 g	341.7
10.	SK02	Q1 壁下層	29.2	III H7 h	11.5
11.	SK02	Q1 壁上層	71.0	III H7 i	583.4
12.	SK02	陶瓶	10.0	III H7 j	335.0
13.	SK02	陶瓶	1.5	III H7 k	91.7
14.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 l	18.6
15.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 m	197.1
16.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 n	1196.3
17.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 o	508.9
18.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 p	901.3
19.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 q	136.8
20.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 r	225.5
21.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 s	185.5
22.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 t	21.4
23.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 u	248.8
24.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 v	42.0
25.	SK02	陶瓶	0.5	III H7 w	239.2
		小計	566.6	合計	19199.4

堅穴 (SK)

No.	出土地点	部位	重量(g)	部位	重量(g)
1.	SK07	南半	200.2	II B6 a	185.7
2.	SK07	南半	61.6	II B6 b	483.8
3.	SK07	南半上	146.0	II B6 c	225.5
4.	SK07	南半下 12 層 P - 12 c	419.5	II B6 d	114.8
5.	SK07	北半上 1 层	39.0	II B6 e	4.7
6.	SK07	北半下 12 層	6.8	II B6 f	483.8
7.	SK07	北半下 12 层 P - 12 c	2547.9	II B6 g	185.5
8.	SK07	北半下 12 层	88.0	II B6 h	21.4
9.	SK07	北半下 12 层 横樋上	2.5	II B6 i	248.8
10.	SK07	北半下 12 层	39.0	II B6 j	42.0
11.	SK07	下層	12.7	II B6 k	239.2
		小計	566.6	合計	19199.4

土器埋設遺構 (SZ)

No.	出土地点	部位	重量(g)	部位	重量(g)
13.	SK08	6 窓	4.2	III D9 g	185.7
14.	SK08	当社屋上位	16.5	III D9 h	4.7
		小計	27.0	III D9 i	483.8
15.	SK09	西半下 12 層	28.6	III D9 j	225.5
16.	SK09	西半下 12 层	28.8	III D9 k	15.7
17.	SK09	北下屋 12 层	4.0	III D10 h	17.0
18.	SK09	北半下 12 层	13.5	III D10 i	17.0
19.	SK09	北半下 7 层	31.0	III D10 j	2.5
		小計	102.9	III D10 k	42.0
20.	SK10	山手上層	44.7		
21.	SK10	西半下 1 层	8.0		
22.	SK10	西半下 2 层	10.0		
		小計	62.7		
23.	SK12	南半下 1 层	34.0	III C1 a	58.3
24.	SK12	北半下 1 层	5.0	III C1 b	386.6
		小計	39.0	III C1 c	355.5
25.	SK13	北半下 1 层	19.7	III C2 b	90.2
		小計	19.7	III C2 c	48.6
26.	SK17	1 層	226.7	III C5 a	66.5
		小計	226.7	III C5 b	287.0
27.	SK18	北 2 窓	85.5	III C5 c	39.1
28.	SK18	北 5 窓	8.4	III C5 d	10.4
29.	SK18	厚壁 7 窓	87.8	III C5 e	4.0
		小計	181.7	III C5 f	1442.7
30.	SK19	1 层	8.4	III C6 b	45.0
		小計	8.4	III C6 c	15.7
31.	SK24	南半下 1 层	3.3	III C9 d	35.7
32.	SK24	北半下 1 层	4.3	III C9 e	17.0
		小計	7.6	III C9 f	5.0
		合計	3243.3	III C9 g	86.2
				III C9 h	7.0
				III C10 d	41.0
				III C10 e	32.3
				合計	3064.0

溝跡 (SD)

No.	出土地点	部位	重量(g)	部位	重量(g)
1.	SD01	半壁下	5.3	IV B1 c	39.1
2.	SD01	半壁下	5.8	IV B1 g	102.0
3.	SD01	ペルト半壁下	5.2	IV B1 h	135.2
4.	SD01	ペルト半壁下	5.6	IV B1 i	69.0
5.	SD02	厚壁下 1 层	21.9	IV B1 j	65.0
6.	SD02	壁土	36.5	IV B1 k	54.1
		小計	55.8	IV B2 g	43.6
		合計	77.7	IV B2 h	106.6

M B

No.	出土地点	部位	重量(g)
1.	IV B1 c	半壁ペルト断面	39.1
2.	IV B1 e	1 層	36.0
3.	IV B1 g	1 层	102.0
4.	IV B1 h	1 层	135.2
5.	IV B1 i	1 层	69.0
6.	IV B1 j	1 层	65.0
7.	IV B1 l	1 层	54.1
8.	IV B1 m	1 层	74.8
9.	IV B2 g	1 层	43.6
10.	IV B2 h	1 层	106.6

## NB

No.	出土地点	層位	重量(g)
11	BC2a	I層	2050.0
12	BC2b	II層	367.0
13	BC2b	N層	59.4
合計			6024.5

## NC

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	BC1a	I層	511.1
2	BC1b	I層	30.3
3	BC1c	I層	98.0
4	BC1d	I層	11.0
5	BC2a	I層	471.1
6	BC2a	II層	65.0
7	BC2a	I層	179.0
8	BC4b	I層	14.8
9	BC4b	II層	10.1
10	BC4c	II層	16.2
11	BC4d	底土	250.0
12	BC5a	Ⅰ層(?) 黒土	601.6
13	BC5b	Ⅰ層(?)	42.4
14	BC5c	Ⅱ層	277.6
15	BC5d	I層	37.5
16	BC5d	Ⅰ層(?) 10cm	194.5
17	BC5e	II層	79.6
18	BC5f	Ⅰ層 黒褐色土	421.0
19	BC5f	Ⅰ層(?) 10cm	166.5
20	BC5g	Ⅰ層 50cm	26.1
21	BC5g	Ⅰ層	31.4
22	BC5h	Ⅰ層 黒褐色土表	86.3
23	BC5i	Ⅰ層 黒褐色土表	59.0
合計			3663.1

## ND

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	ND	I層	11.6
2	ND	II層	48.1
3	ND3	II層	28.3
4	ND4b	II層 F-No.1	1579.1
5	ND4b	II層 F-No.2(No.1の西側)	37.6
6	ND5b	II層 黒土	41.0
合計			1745.7

## NE

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	Ⅰ層	II層	27.7
		合計	27.7
合計			27.7

## NC

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	Ⅰ層 C 4d	南側斜面	13.8
合計			13.8

## 3区

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	3区	低地(?)	7.2
2	3区	(I層 - T220の北側)	9.3
3	3区	I帶 黑土 (トイ付付近)	54.2
4	3区	II帶	2044.7
5	3区	崎居地 (トイ付) 士坎 (?)	72.0
合計			2187.4

## 4区

No.	出土地点	層位	重量(g)
1	4区	Ⅰ層	348.4
2	4区	II層	835.5
3	4区 (S102の本體斜面)	下段 II層	200.1

4区 (S102を切るトレント)

佛土 213.0

4区 (S104付近 クリーニング) 0.8

4区 (S104付近 クリーニング) 16.8

4区 (Ⅰ層付近) 柱上 2.6

4区 (Ⅰ層付近) 北斜面 182.0

4区 (Ⅰ層付近) I層 693.0

4区 (Ⅰ層付近) II層 12.4

4区 (Ⅰ層付近) 斜面 14.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

4区 (Ⅰ層付近) II層 21.0

合計 2535.0

4区 (谷底付近) 表面 3.4

第12表 遺構別出土遺物一覧表（掲載No.)

第13表 土器觀察表（1）縹文・弥生

〈数值〉：推定值 〈数值〉：残存值

地図 No.	地図 No.	出土地点	層位	基盤	計測値 (cm)			文様 (原体) の特徴	埋 立 付 合	出土 時 期	
					岩面	1本	底				
32	22	1	SK09	Q4 地下上層	溝跡	(4.0)	-	口: RL縦	-	N 2 中期	
32	22	2	SK09	Q3 地下上層・下層	溝跡	9.8	-	口: RL縦、横割れ、斜面: 溝代板 (1本)	-	N 3 小中期	
32	22	3	SK09	Q3 地下・下層	溝跡	-	-	口: RL縦、横割れ、斜面: 溝代板 (1本)	●	N 2 人本末	
32	22	4	SK09	Q2 地下・上層	溝跡	-	-	口: RL縦	-	N 2 中期	
32	22	5	SK09	Q2 地下・上層	溝跡	-	-	口: RL縦、横割れ	-	N 2 人本末	
32	22	6	SK01	Q2 地下・上層	溝跡	-	-	口: RL縦	-	N 2 中期	
32	22	7	SK01	Q1 地下・上層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡	●	M 1 人本末	
32	22	8	SK01	ペルトA-1 地下	溝跡	-	-	口: RL縦、LR縦	-	N 2 人本末	
32	22	9	SK02	南東露頭・2層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡、則手式	-	N 3 大木10	
32	22	10	SK02	南東露頭・高砂土	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡、則手式	-	N 3 大木10	
32	22	11	SK02	南西露頭・2層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡、則手式	9	古商周?	
32	22	12	SK02	北東露頭・黒色土	溝跡	(3.0)	9.8	口: RL縦、沈跡、便道跡	-	N 3 人本末	
32	22	13	SK02	北西露頭・黒色土	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡、便道跡 (1本) と1本弱り)	-	N 3 中期	
32	22	14	SK02	北西露頭・2層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡	-	N 3 小中期	
32	22	15	SK02	北西露頭・2層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡	●	N 2 人本末	
32	22	16	SK02	1層	溝跡	-	-	口: RL縦	M 3 中期	M 3 中期	
32	22	17	SK02	漫水6第 - P%6	溝跡	(9.9)	30.3	口: RL縦	M 2 中期	M 2 中期	
33	23	18	SK02	5層	セイタヨリ	(1.2)	-	口: RL縦、沈跡 (1本) とガラ、底面: 溝代板 (1本) と1本弱り)	-	N 2 中期	
33	23	19	SK02	ペルトA-1A-5 層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡	-	N 2 大木10	
33	23	20	SK02	ペルトA-1A-5 層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡	N 4 人本末弱り	N 4 人本末弱り	
33	23	21	SK02	ペルトA-1A-5 層	溝跡	-	-	口: RL縦	●	N 2 中期	
33	23	22	SK02	ペルトA-1A-5 層・B-6 層	溝跡	(5.8)	7.0	口: RL縦、沈跡 (1本) と竹筒状の溝跡、底面: ガラ	-	N 4 人本末	
33	23	23	SK02	ペルトB- B-6 層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡 (1本) とガラ	●	N 4 人本末弱り	
33	23	24	SK03	Q1 上層	溝跡	(5.5)	(5.6)	口: RL縦、沈跡 (1本) とガラ、底面: ガラ	-	N 4 人本末弱り	
33	23	25	SK03	Q1 上層	溝跡	-	-	口: RL縦	-	N 4 人本末弱り	
33	23	26	SK03	覆土2層 (ペルト)	溝跡	-	-	口: RL縦→沈跡	-	M 3 大木9	
33	23	27	SK03	ペルトA-1-3 層	溝跡	-	-	口: RL縦→沈跡	-	N 4 大木9	
33	23	28	石室山内	埴輪	-	-	口: RL縦、沈跡	-	M 2 人本末弱り		
33	23	29	SK105	底面 - P%1	溝跡	-	-	口: RL縦	-	N 3 中期?	
33	23	30	SK101	Q3	溝跡	-	-	口: RL縦→沈跡	-	N 3 大木9	
33	23	31	SK102	Q3 上層	溝跡	-	-	口: RL縦	N 2 中期	N 2 中期	
33	23	32	SK102	Q3 上層	溝跡	-	-	口: RL縦→沈跡	M 7	大木8弱り	
33	23	33	SK07	半牛段 II-13層	溝跡	-	-	口: RL縦→沈跡 (1本) と斜面: 石多め	N 4 人本8弱り	N 4 人本8弱り	
33	23	34	SK07	半牛段 II-13層 - P%6-2	溝跡	-	-	口: RL縦	-	N 3 中期	
33	23	35	SK07	北半牛段 II-13 层 - P%6-1	溝跡	28.6	20.6	9.3	口: RL縦、横割れ、底面: 溝代板 (1本) と本弱り) と斜面: 沢井付付 (1本) と1本弱り)	N 4 中期	
33	24	36	SK07	北半牛段 II-13 层 - P%6-1	溝跡	-	-	口: RL縦、便道跡	-	N 3 中期	
33	24	37	SK09	半牛段 II-13層	溝跡	-	-	口: RL縦→沈跡	-	N 4 人本8弱り	
33	24	38	SK10	半牛段 II-13層	溝跡	-	-	口: RL縦→沈跡 (1本) と斜面: 石多め	N 3 人本8弱り	N 3 人本8弱り	
33	24	39	SK10	内干溝 II-2 层	溝跡	-	-	口: (6段多き) RL縦	N 2 中期		
33	24	40	SK12	半牛段 II-13層	溝跡	-	-	口: (6段多き) RL縦	N 3 中期		
33	24	41	SK13	北半牛段 II-13層	溝跡	-	-	口: 単脚条足1本 RL縦	N 2 中期		
33	24	42	SK17	碧玉 1 等	溝跡	-	-	口: RL縦	N 3 中期		
33	24	43	SK18	北半 2 层	溝跡	-	-	口: RL縦	N 3 中期		
33	24	44	SK21	南半牛段 II-13層	溝跡	-	-	口: RL縦 (一部断続) と底面: ミガラ	N 2 中期		
33	24	45	SK02	漫水	溝跡	(1.8)	-	不明、底面: ミガラ	M 3 中期		
33	24	46	SK02	埋設土器	溝跡	(10.5)	-	不明、RL縦 (一部断続) と底面: ミガラ	M 2 中期		
34	24	47	SK04	埋設土器	溝跡	(30.8)	-	10.0 (半牛段、半脚条足1本) と下部: RL縦、底面: 沢井付付 (1本) と1本弱り)	M 3 中期		
34	24	48	SK06-1	1層	溝跡	-	-	口: RL縦	N 3 人本9		
34	24	49	SK06-1	1層	溝跡	-	-	口: RL縦	N 2 人本10		
34	24	50	SK06-1	1層	溝跡	-	-	口: RL縦、沈跡	M 1 ?		
34	24	51	SK06-1	1層	溝跡	-	-	口: RL縦	N 3 中期		
34	24	52	SK06-1	1層	溝跡	-	-	口: RL縦 (一部断続) と斜面: 石多め	N 2 中期		
34	24	53	SK06-1	1層	溝跡	-	-	口: RL縦	N 4 中期		
34	24	54	SK06-1-2	1層	ナチュラル	(1.2)	(3.4)	不明、底面: ミガラ	M 2 中期		
34	24	55	SK06-1-2	1層	ナチュラル	-	-	口: RL縦	N 2 大木9?		

年 代 No	地 名 No	概 説	出土地点	層位	器種	計量値 (cm)		文様 (原形) の特徴	底の 付着 層	付着 物	船	時期
						身 幅	厚 さ					
35	21	56	II B 6-7	黄土隕石出露(通水路 1)	深鉢	-	-	11: 鎏金・銅・純文?	●	N	3	大木 8b
35	25	57	II B 7	自層	深鉢	(20.75)	-	8.8: 銅・RL紋・銅附(内側): [本鉢と1本並び]	●	N	2	中期
35	28	58	II B 7	自層	深鉢	-	-	12: 沈縁・L型	●	N	4	大木 9
35	25	59	II B 7	自層	深鉢	-	-	13: 鎏金・單耳鉢 (L)	●	N	1	先駆
35	25	60	II B 7	北側面凹面下 1 層	深鉢	-	-	14: 鎏金・銅・純文・RL紋	●	M	2	大木 10
35	25	61	II B 7-1	II A 層	1 層	深鉢	-	15: RL 紋・深面・銅附(1 本追え)	●	N	1	先駆
35	25	62	II B 7-1	9 g	1 层	深鉢	-	16: 無文・沈縁・銅附: [RL 紋]	●	N	3	大木 10
36	26	63	II B 7	1 层	深鉢	-	-	17: RL 紋・銀錐	●	N	2	大木 8b
35	25	64	II B 8 g	1 层	深鉢	-	-	18: RL 紋	●	N	3	中期?
35	25	65	II B 8 h	1 层	深鉢	-	-	19: RL 紋・深面・銅附: RL 紋	●	N	2	大木 10
35	25	66	II B 8 i	1 层	深鉢	-	-	20: RL 紋・銅附: RL 紋	●	N?	4	中期
35	25	67	II B 8 j	1 层	深鉢	-	-	21: 無文・沈縁・割合	●	N	4	大木 10
35	25	68	II B 8 k	1 层	深鉢	-	-	22: RL 紋・銀錐	●	N	4	大木 8b
35	25	69	II B 8 l	1 层	深鉢	-	-	23: RL 紋・沈縁 (銀錐)	●	N	3	大木 9
35	25	70	II B 8 s	自層	深鉢	(20.3)	(14.5)	24: RL 紋・銀錐・銅附(1 本追え)	●	M	2	中期
36	25	71	II B 8 s	1 层	深鉢	-	-	25: RL 紋・銅附	●	N?	4	中期
36	25	72	II D 8 s	1 层	深鉢	-	-	26: RL 紋・銅附: RL 紋	●	N	3	大木 10
36	26	73	II D 9 g: 9 b	自層	深鉢	(38.6)	(28.0)	27: 無文・沈縁・銅附: RL 紋	●	N	3	大木 10
36	26	74	II D 9 b	1 层	深鉢	-	-	28: RL 紋・沈縁・銅附: RL 紋	●	M	2	大木 10
36	26	75	II B 9 i	1 层	深鉢	-	-	29: RL 紋	●	N	3	中期
36	26	76	II B 9 j	1 层	深鉢	-	-	30: 無文・銅附: 木葉底	●	N	2	中期
36	26	77	II B 9 j	1 层	深鉢	-	-	31: 無文・銅附: 銅附: RL 紋	●	N	3	大木 10
36	26	78	II B 9 j	1 层	深鉢	-	-	32: 無文・銅附: 銅附: RL 紋	●	N	2	中期
36	26	79	II B 10 j	1 层	深鉢	-	-	33: 無文・銅附: 銅附: RL 紋	●	N	3	大木 10
36	26	80	II C 7 a	1 层	深鉢	-	-	34: RL 紋・沈縁・銅附: 銀錐・キャリヤー付	●	N?	3	大木 8b
36	26	81	II C 7 a	II a 層	赤鉢	-	-	35: 銅附: 銀錐付	●	N?	4	大木 10
36	26	82	II C 7 a	II 层	深鉢	-	-	36: RL 紋	●	N?	3	中期
36	26	83	II C 8 b	1 层	深鉢	-	-	37: 無文・沈縁・銅附: 銅附: RL 紋・荷葉付 (1 本内側)	●	N?	3	大木 10
36	26	84	II C 9 a	1 层	深鉢	(2.7)	-	38: RL 紋・深面・銅附: 銅附付(1 本外側)	●	M	3	中期
36	26	85	II C 9 a	1 层	深鉢?	(3.2)	-	39: RL 紋・銅附: 木葉底	●	N	3	中期
36	26	86	II C 9 a	1 层	深鉢	-	-	40: RL 紋・銅附	●	M	2	大木 8b
37	26	87	II C 9 b	1 层	深鉢	(2.5)	-	41: 銅附: 銀錐付	●	M	3	大木 8b
36	26	89	II C 9 b	自層	深鉢	(9.8)	-	42: 銅附: 銀錐付: 銅附付 (1 本内側)	●	M	3	中期
36	26	90	II C 9 b	自層	深鉢	-	-	43: 銅附: 銀錐付: 銅附付 (1 本外側)	●	N	3	中期
36	26	91	II C 9 b	自層	深鉢	-	-	44: 銅附: 銀錐付: 銅附付 (1 本内側)	●	M	2	大木 10
36	26	92	II C 9 b	自層	深鉢	-	-	45: 銅附: 銀錐付: 銅附付 (1 本外側)	●	N	3	中期
37	27	93	II B 2 j	1 层	深鉢	-	-	46: 無文・銅附: 銀錐付: RL 紋 (口: 銅附)	●	N	2	大木 8b?
37	27	94	II B 2 j	1 层	深鉢	-	-	47: 一文字・熱打付 (1 本)	●	N	2	大木 8b?
37	27	95	II B 2 j	1 层	深鉢	-	-	48: 沈縁・荷葉・銅・縫文?	●	N?	2	大木 10
37	27	96	II B 2 j	自層	深鉢	-	-	49: RL 紋	●	N	3	中期
37	27	97	II B 2 j	1 层	深鉢	-	-	50: 銅附: 銀錐付による区別: L型	●	N	2	中期?
37	27	98	II C 1 a	1 层	深鉢	-	-	51: 無文・銅附: 銀錐付: 銅附付: RL 紋	●	M	3	大木 10
37	27	99	II C 4 e	須磨内? 黒色土	深鉢	-	-	52: 無文・銅附: 銀錐付: RL 紋 (口: 銅附)	●	M	4	人手 10
37	27	100	II D 1 b	II - Plo 1	深鉢	(28.15)	(26.85)	53: RL 紋	●	M	2	中期
37	27	101	II D 1 b	II - Plo 2	深鉢	-	-	54: 銅附: RL 紋	●	N	3	中期
37	27	102	II D 1 b	II - Plo 2	深鉢	-	-	55: 銅附: 刺鉢: 銅附: RL 紋	●	N	3	中期
37	27	103	II D 1 b	II - Plo 2	深鉢	-	-	56: 銅附: 刺鉢: 銅附: RL 紋	●	N	3	中期
38	27	104	II D 1 b	II - Plo 2	深鉢	-	-	57: 銅附: RL 紋	●	N	4	中期
38	27	105	II D 1 b	II - Plo 2	II - Plo 2	-	-	58: II - Plo 2	●	N?	3	中期
38	27	106	II D 1 b	II - Plo 2	II - Plo 2	-	-	59: II - Plo 2	●	N	4	中期
38	27	107	4 区西側面	1 层	深鉢	-	-	60: 無文・荷葉付による区別: L型	●	M	4	大木 10
38	27	108	4 区西側面	1 层	深鉢	-	-	61: 無文・荷葉付による区別: L型	●	M	4	中期
38	27	109	4 区 S 102	下段 II A 塵面	深鉢	-	-	62: 沈縁・RL 紋	●	N	3	大木 8b
38	27	110	4 区北側面	鉢部	深鉢	-	-	63: 沈縁・RL 紋	●	N	3	大木 10?
38	27	111	T 238	1 层表土	深鉢	-	-	64: 無文・銅・純文? (口内側)	●	N	2	大木 10
38	27	112	T 238	1 层表土	深鉢	-	-	65: 沈縁・荷葉付: RL 紋	●	N	2	大木 8?

104

例題  
無数の名動：山野：山野地、口：口封閉、鼻：鼻閉、眼：眼閉、耳：耳閉

文様、原作側面：原体側面仕版、格子委作：格子条体正唐、早帖筋：早帖筋条体、多幅筋：多幅筋条体、半竹：半竹筋、結束1：結束第1種、結束2：結束第2種、結施：結施繩種。

煤の付着、○：内面付着、●：外間付着、-：付着なし。

内因説。M：ムガキ、N：ナデ、—：なし

胎土、<sup>1</sup> 灰密である。  
<sup>2</sup> 粗糙をもつて、胎土を走行

### 3. 细胞：核酸与蛋白

3. 頭痛・妙経を温かく  
4. 頭痛・砂粒を含む。

第14表 土器観察表（2）土器器

回数	写真	機種	出土地点	層位	器種	計測値(cm)			外周測定	内面測定	成形	施設
						器高	口径	底径				
38	27	121	S106	東面・Phn 2	裏	—	—	—	輪部	—	ナデ	—
38	28	122	S106	東面・Phn 4	裏	(1.8)	—	(11.0)	輪部	—	ナデ	—
38	28	123	S105	東面・Phn 5	裏	5.1	15.0	6.1	輪部	—	ナデ	—
38	28	124	S105	底面・Phn 5	不	(3.7)	(15.6)	—	口・底部	ミガキ	ミガキ	ミガキ
38	28	125	S105	底面・Phn 5 同一?	裏	(4.2)	(14.8)	—	口・底部	ミガキ	ミガキ	ミガキ
38	28	126	S105	カマド内側	裏	—	—	—	口・底部	ミガキ	ミガキ	ミガキ
39	28	127	S105	カマド内側	裏	—	—	—	輪部	—	ナデ	—
39	28	128	S105	カマド内側	裏	—	—	—	口・底部	ミガキ	ミガキ	ミガキ
39	28	129	S105	カマド内側	裏	—	—	—	輪部	—	ナデ	—
39	28	130	S105	セラミック焼成炉	裏	—	—	—	口・底部	ミガキ	ミガキ	ミガキ
39	28	131	直D(古代 時代の遺物)	不明	裏	—	—	—	口・底部	ミガキ	ミガキ	ミガキ

第15表 土製品観察表

回数	写真	機種	出土地点	層位	器種	計測値(cm)			直面(g)	横面(g)	特徴	説明
						長さ	幅	厚さ				
39	28	141	S102	南面1・2層	きのこ形土製品	(4.0)	(4.2)	(2.0)	(16.1)	小裡混入	外縁の調整が施され、金と銅の一部が残る。内面ナデ	古文
39	28	142	III B 7	青磁窯山脚 (瀧原山) (6)	棒状・鉢形	(5.8)	(3.5)	(2.0)	(25.0)	小裡混入	外縁に僅か3mmの斜めが削り取られる。強めの凹凸がある。	古文
39	28	143	T340	日暮窯場I.	羽口	(6.5)	(5.9)	(2.5)	(67.8)	棒混入	口の先端、番垂の付有。詳	古代
40	28	144	SW01	No1	耐火瓦(運送の際便に使用)	(11.1)	10.4	6.3	(1054.9)	棒混入	丸頭に凹部あり、受持穴なし	現代
40	28	145	SW01	No2	耐火瓦(運送の際便に使用)	(9.9)	12.2	6.1	(1153.5)	棒混入	丸頭に文字あり。(R-O)	現代
40	28	146	SW01	No3	耐火瓦(運送の際便に使用)	(23.4)	12.0	6.2	2889.0	不明	丸頭に文字あり。(R-O)	現代
40	28	147	SW01	No4	耐火瓦(運送の際便に使用)	(11.7)	11.5	6.8	(1446.7)	棒混入	丸頭に文字化している。保存有。質古め。文字あり(N)	現代
40	28	148	SW01	北側	土管(既発見されたもの)	64.8	13.5	1.4	6000.0	—	丸頭にN。文字あり	現代
									合計			13253.0

第16表 石器観察表

回数	写真	出土地点	層位	部種	計測値(cm)			重さ(g)	種類	参考	石種	産地
					長さ	幅	厚さ					
41	29	151	SI01	Q3 売土上層	心盤	(3.6)	1.7	0.5	(2.0)	四面研磨、尖頭部、基礎穴掘	A	5
41	29	152	III B 9	I層	石板	(2.8)	1.3	0.4	(8.0)	四面研磨、尖頭部、基礎穴掘	A	5
-	29	153	T339	Ⅱ層 黒土上 「想」-50cm	石板	(1.1)	1.8	0.6	(1.3)	四面研磨、尖頭部、基礎穴掘	B	3
41	29	154	IV C 5	底面・ *表面直	石板	(4.6)	1.7	0.8	(2.6)	つまみあり、疊詰欠損	A	5
41	29	155	SI01	Q1 P1 1 上層	圓錐形石器	3.5	2.6	1.0	8.5	2次の削離	A	5
-	29	156	III B 9	I層	楔形石器	4.3	1.8	0.7	6.6	2次対の削離	A	5
41	29	157	SI01	Q4 P1 12 層(?) (底面)	不定形石器	5.0	7.3	1.2	45.6	刃鋸、両刃、側面加工	A	5
41	29	158	SI02	南面裏土 2層	小形石器	3.7	5.6	1.0	18.4	刃鋸、片面削り跡	A	5
41	29	159	SK17	肉垂土上層	不定形石器	5.1	9.0	1.1	50.4	刃鋸、片面削り	A	5
29	160	IV C 5	II層 黒土上層	不定形石器	2.2	3.8	0.8	5.1	刃鋸加工	A	5	
29	161	T342	—	—	石器	9.0	3.5	2.0	148.0	刃鋸加工	J	6
29	162	SI02	南面裏土下層 SIIe 5	鐵斧石器	(4.8)	3.6	1.6	(46.8)	基盤削除、刃を2刀こぼれあり	J	6	
41	29	163	SI02	南面裏土 6層	鐵斧石器	7.8	4.9	0.6	35.8	刃鋸削り、側面削り、側面削り	A	5
41	29	164	III C 8 a	表土	鐵斧石器	(0.8)	3.9	(1.3)	(63.8)	刃鋸削り、圓錐形	J	6
41	29	165	SI01	Q4 P1 12 層(?) (底面)	心盤	25.2	6.6	5.4	894.0	刃鋸削り、刃を2刀こぼれあり	G	3
29	166	SI02	北面裏土 1層 黒土上	石斧	15.9	9.6	6.2	2369.5	全面削除、刃鋸削り、側面削り	H	2	
29	167	SI02	北面裏土 1層 黒土上	石斧	10.3	7.35	6.5	972.5	全面削除、刃鋸削り	J	4	
29	168	SI02	北面裏土 3層 SIIe 2	石斧	12.0	6.25	5.2	324.4	刃鋸削り	D	5	
30	39	169	SI02	底面 1-7層 SIIe 4	石斧	24.9	8.7	4.95	204.6	全面削除、側面削り	K	2
30	39	170	SI02	ペルト A - 3層	石斧	14.4	6.1	4.4	1167.5	全面削除、側面削り	J	4
31	31	SI02	底面 1-7層 SIIe 5	石斧	16.5	8.4	6.2	1247.7	全面削り? 一端に斜面削り	G	2	
43	31	171	SI02	底面 1-7層 SIIe 6	石斧	11.89	7.9	6.6	606.1	全面削り、側面削り、側面削り欠損	G	2
43	31	172	SK101	Q2 売土上層	石斧	12.0	8.4	6.4	994.4	全面削り、側面削り、斜面削り、側面削り欠損	G	2
44	31	173	SK102	Q2 売土上層	石斧	12.8	9.3	6.4	1126.6	全面削り、側面削り	G	2
44	31	174	SK102	Q2 売土上層	石斧	9.8	6.4	4.9	435.7	全面削り、側面削り	G	2
44	31	175	SK102	Q2 売土上層	石斧	11.2	8.6	5.4	290.0	全面削り	I	2
44	31	176	SK102	Q2 売土上層	石斧	10.5	8.0	5.3	655.4	全面削り	I	2
44	31	177	SK102	Q2 売土上層	石斧	(12.2)	10.0	7.1	(1267.7)	全面削り	I	2
32	31	178	SI02	I層 黑土上	石斧	(11.5)	8.9	6.2	1043.6	全面削り、側面削り、斜面削り	C	5
32	31	179	III B 7 a	1層	石斧	(8.0)	7.6	6.2	505.6	全面削り、斜面削り	G	2
32	31	180	III C 7 a	1層	石斧	10.1	6.6	4.9	494.1	全面削り、斜面削り	G	2
45	32	182	III C 10 g	I層	石斧	16.3	6.7	6.6	1081.4	1回棒・斜面削り、断面三角形	G	2
32	31	183	IV C 5 e	黑土下	石斧	(6.6)	(10.2)	(4.5)	(362.2)	断面三角形? 1回棒・斜面削り	F	2
32	31	184	IV C 5 g	II層-50cm	石斧	(8.2)	(9.0)	(6.8)	(626.9)	全面削り?	T	2
32	31	185	IV C 5	不明	石斧	(7.6)	(6.5)	(5.1)	(413.5)	全面削り?	G	2
45	32	186	SI01	Q3 売土上層	矛?	(11.3)	(2.6)	(1.1)	(50.8)	矛の可能性?	C	5
45	32	187	SK15	II層 売土中层 SIIe 1	四面	12.7	7.6	4.2	444.1	番手・角形、二面に三つの窪み(円形)	D	1
32	31	188	III B 8 I	I層	四面	18.8	7.3	6.4	336.2	番手・角形、二面に三つの窪み(円形)	D	1
32	31	189	IV E	上層	石斧	(10.0)	(9.6)	(7.4)	(745.0)	番手・角形	D	1
45	32	190	SI02	北面裏土 3層 SIIe 3	石斧	(23.4)	(15.5)	3.8	(2004.5)	番手・角形、片面に突出した痕跡あり、側面削り欠損	D	1
45	32	191	SI02	ペルト A - A' 3層	石斧	(45.5)	(9.8)	3.2	(245.4)	画面削り、番手のため研磨不明	C	2
-	33	192	SI05	床面立上 SIIe 1	石斧	12.0	(12.0)	3.0	(301.5)	番手? 斜面削りあり	D	1
45	33	193	SI03	Q2 売土上	石斧	(11.6)	(11.5)	(4.9)	(769.4)	全面削り、番手? 斜面削り	R	2
-	33	194	III B 9 b	I層	(5.3)	(5.5)	(2.2)	(37.6)	殘存状況が悪い詳細不明	E	7	
						合計			24335.5			

第17表 石製品観察表

測定 No.	厚さ mm	地質 No.	出土地点	層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	参考	石材	产地等	
						長さ	幅	厚さ					
46	33	201	SI01	Q2 土上層	三角形状石器品	4.0	(3.9)	2.6	(53.0)	西九三舟形? 一切経欠損	一石製品として得	石	7
46	33	202	SK36	土上層	石棒	33.9	17.6	14.6	(9000.0)	敲打による整形成あり、端部に削みあり	石	E	7
									合計	19033.0			

第18表 石材略号一覧表

*石斜母号一覧	
地質	石材
A	頁岩
B	めのう
C	板岩
D	泥灰岩
E	砂岩
F	閃緑岩
G	化成閃緑岩
H	花崗岩
I	安山岩
J	蛇紋岩
K	アブライト

第19表 産地等略号一覧表

*産地等略号一覧	
地質	産地等
1	北上山地 新4代古無三紀
2	北上山地 中生代白堊紀
3	北上山地 ? 中代古無紀
4	北上山地 (原山地集) 中生代白堊紀
5	北上山地 中生代三疊・ジュラ紀
6	北上山地 古生代オルドス紀
7	北上山地?

第20表 石器・石製品の器種別石材一覧表

No.	地質	石像	心像	楔形	不定形	種類	磨發石斧	地質等				合計 (%)
								閃石	角石	石墨	陶石	
A	頁岩(北上山地)	2	1	2	4	1	—	—	—	—	—	10 (21.74)
B	めのう(北上山地?)	1	—	—	—	—	(33.32)	—	—	—	—	1 (2.17)
C	葉灰岩(北上山地)	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1 (2.17)
D	泥灰岩(北上山地)	—	—	—	—	—	—	1	2	1	2	6 (13.04)
R	砂岩(北上山地?)	—	—	—	—	—	—	(4.55)	(100.00)	(100.00)	(66.67)	— (8.70)
F	閃緑岩(北上山地)	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1 (2.17)
G	花崗閃綠岩(北上山地)	—	—	—	—	—	—	11	—	1	—	12 (26.09)
H	花崗岩(北上山地)	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1 (2.17)
T	安山岩(北上山地?)	—	—	—	—	—	—	6	—	—	—	6 (13.04)
J	蛇紋岩(北上山地)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (6.52)
K	アブライト(北上山地)	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1 (2.17)
合計	(%)	3	1	2	4	1	—	3	22	2	1	3 (4.35)
	(%)	(6.52)	(2.17)	(4.35)	(8.70)	(2.17)	(6.52)	(47.83)	(4.35)	(2.17)	(6.52)	(4.35) (4.35)(100.00)

第21表 陶磁器観察表

測定 No.	厚さ %	地質 %	呂上地質	層位	基盤	計測値(cm)			重量(g)	产地	焼成	特徴	(数値): 残存値
						器高	口径	底径					
47	31	211	SD06	荒木1号馬場上	灰	—	—	—	(26.9)	不明	19C	—	—
	34	212	SD09	荒木1号馬場上	灰	—	—	—	(0.9)	不明	不明	不・小弱	—
47	34	213	N.C.5.1	日暮黑色土-60cm	灰	—	—	—	(4.6)	渦戸	18C後半	—	—
	34	214	ND.4.4.b	P1崩倒	灰土	—	—	—	(9.1)	不明	不明	突然痕あり	—
—	34	215	ND.5-6.5	貢土の上層秋吉野	灰	—	—	—	(2.6)	東北	19C	—	—
	31	216	3.1C	表様	前	—	—	—	(5.1)	不明	19C	—	—
47	34	217	3.1号道路	IIa層三重土	皿	—	—	—	(11)	不明	18C後半	粒目輪はり	—
	34	218	3.1号典道上	小弱	灰	—	—	—	(22.1)	不明	18C後半	無輪	—
47	34	219	T229	瓦土	灰	—	—	—	(21.1)	不明	18C後半	—	—
—	34	220	T230崩倒	表土	灰	—	—	—	(21.8)	不明?	不明	無輪	—
	34	221	T231	瓦土	灰	—	—	—	(3.7)	不明	19C	—	—
—	34	222	T332	1番	窓?	—	—	—	(11.2)	不明	19C	無輪	—
47	34	223	T335	1番表土	灰・土?	(1.7)	—	—	(7.9)	(60.6)	不明	輪明いか?	凸円柱・内面に強あり
47	34	224	T347	黒色土	灰	—	—	—	(4.3)	不明	不明	無輪	—

第22表 鉄製品観察表

回数 No.	写真 Photo	件数 No.	出土地点 Excavation site	層位 Stratum	器種 Type	長さ Length	幅 Width	厚さ Thickness	計面積(cm) Surface area (cm)	重量(g) Weight (g)	(数値) : 残存値 Residual value (number)	
											持重 Load	持荷 Holding power
47	34	531	SW01	神戸口	鉄版	57.5	8.5	1.0	3109.0			
47	34	232	SW01周辺	表土 (1層)	鉄板	44.2	7.05	0.9	1711.6	片山鍋丸長方形、錫板状	現代	現代
47	34	233	SW01周辺	表土 (1層)	板	(30.2)	4.2	0.2	(64.8)	先達鉄欠鋲	現代	現代
47	34	234	丁番地1	粘土	板	13.1	1.8	0.5	39.5	堅面長方形、部が折れ曲っている	現代?	現代?

第23表 ガラス製品観察表

回数 No.	写真 Photo	件数 No.	出土地点 Excavation site	層位 Stratum	器種 Type	計測値(cm) Measurement (cm)			重量(g) Weight (g)	(数値) : 残存値 Residual value (number)		
						長さ Length	幅 Width	厚さ Thickness		持重 Load	持荷 Holding power	
47	34	241	ND7 g	3区裏段落1	表土 黒色土中	ビードル	28.6	7.9	0.5	686.8	大日本製陶㈱ 明治39(1906)～昭和24(1949)の 製品 三足、高台、内底が斜く。	現代

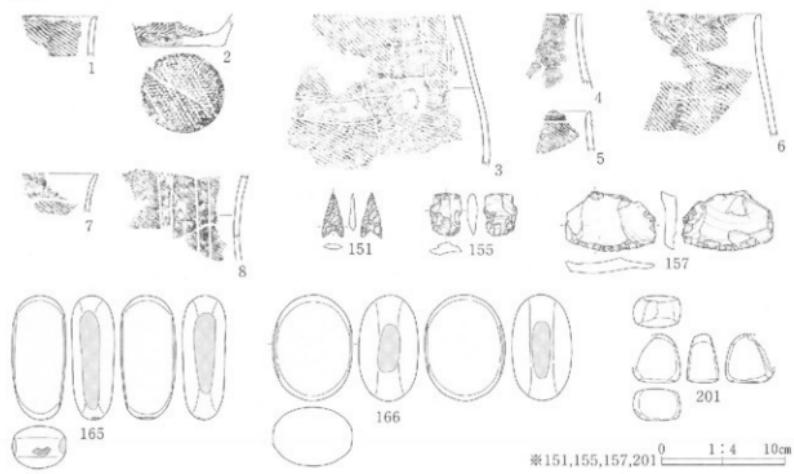
第24表 炭化種実観察表

写真 No.	持重 Load	出土地点 Excavation site	層位 Stratum	種別 Type	測定 Measurement		形状 Shape	(数値) : 残存値 Residual value (number)		
					長さ Length	幅 Width	高さ Height	持重 Load	持荷 Holding power	
34	251	S101	Q4 表土下層	コテツ質 了層				0.1	破片(半分)	炭化している
34	252	SK08	3~4層	コナラ質ニラ葉茎~了層				0.3	破片(半分)	炭化している
								合計	0.4	

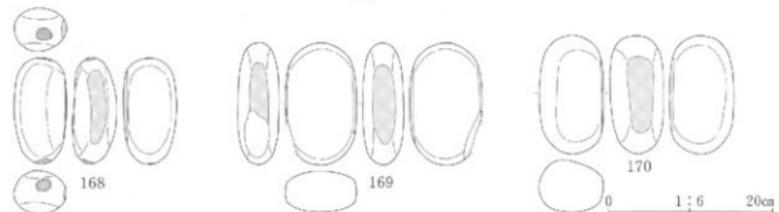
第25表 炭化物観察表

No.	写真 Photo	持重 Load	出土地点 Excavation site	層位 Stratum	種別 Type	計測名 Measurement		重量(g) Weight (g)	備考 Remarks	
						長さ Length	幅 Width		持重 Load	持荷 Holding power
1	S102		北西壁上1.3m	炭化材No.1	クリ (ヤマツ木風)			15.5		
2	S102		北西壁土2層	炭化材No.2	ケヤキ、クリ			16.6	C14 (試料No.802)	
3	S102		北西壁土3層	炭化材No.3	クリ			24.3		
4	S102		壁上6層	炭化材No.4	ナラ			13.4		
5	S102		壁上6層	炭化材No.5	ケヤキ			12.2		
6	S102-PP1		北壁壁上1層		クリ			9.2		
7	S102-PP2		南1板土1層		クリ			0.1		
8	S102-PP3		内1板土1層	質	クリ			1.1		
9	S102-PP4		内1板土1層	質	ケヤキ			1.9		
10	S102-PP5		北壁上1層	質	ケヤキ			1.5		
						小計		95.8		
11	SK08		覆土1層(ベルト)		スギノキ			0.2		
						小計		0.2		
12	SK06		Q4 上層	炭化物	ナラ			26.4		
13	SK06			炭化物 No.1	クリ			1.6		
14	SK06			炭化物 No.2	ケヤキ			16.4		
15	SK06			炭化物 No.3	クリ			1.5		
16	SK06			炭化物 No.4	ケヤキ			41.0	C14 (試料No.83)	
						小計		86.9		
17	SK02		Q3 上層		アカマツ			0.9		
						小計		0.9		
18	SK07		南北下層	炭化物	ケヤキ			18.8		
19	SK07		南北覆土12層		アカマツ			6.6		
20	SK07		北半壁上12層	板土	クリ			7.7		
21	SK07		北半壁上14層中	板土	スギノキ			1.1		
22	SK07		北半壁土1層	板土	クリ			0.1		
23	SK07		化1裏土1層	炭化物No.1	クリ			8.5	C14 (試料No.16)	
24	SK07		北半壁土17層	炭化物No.2	ケヤキ			6.0		
						小計		48.8		
25	SK08		南北壁上1層	質	ケヤキ			3.0		
26	SK08		5層	炭化物	ケヤキ			4.2	C14 (試料No.821)	
						小計		7.2		
27	SN01		覆土 地上土の炭化材		クリ			6.5	C14 (試料No.922)	
						小計		6.5		
28	SW01		底面土 草材		ケヤキ			179.0		
29	SW01		底面 草材		ケヤキ			123.2		
30	SW01		底面 草(樹木用?)		ナラ			55.3		
						小計		357.5		
31	SW02		地1 柴1付近		アカマツ			279.3		
32	SW02		床面土 (小穴) 炭化物		アカマツ			26.9		
						小計		306.2		
33	TB6 g		1層 ベルト除土		スギノキ			8.5		
34	TB6 7		1層		ケヤキ			1.8		
35	TG09		1層 黒帯地		アカマツ			17.1		
						小計		27.4		
						合計		937.4		

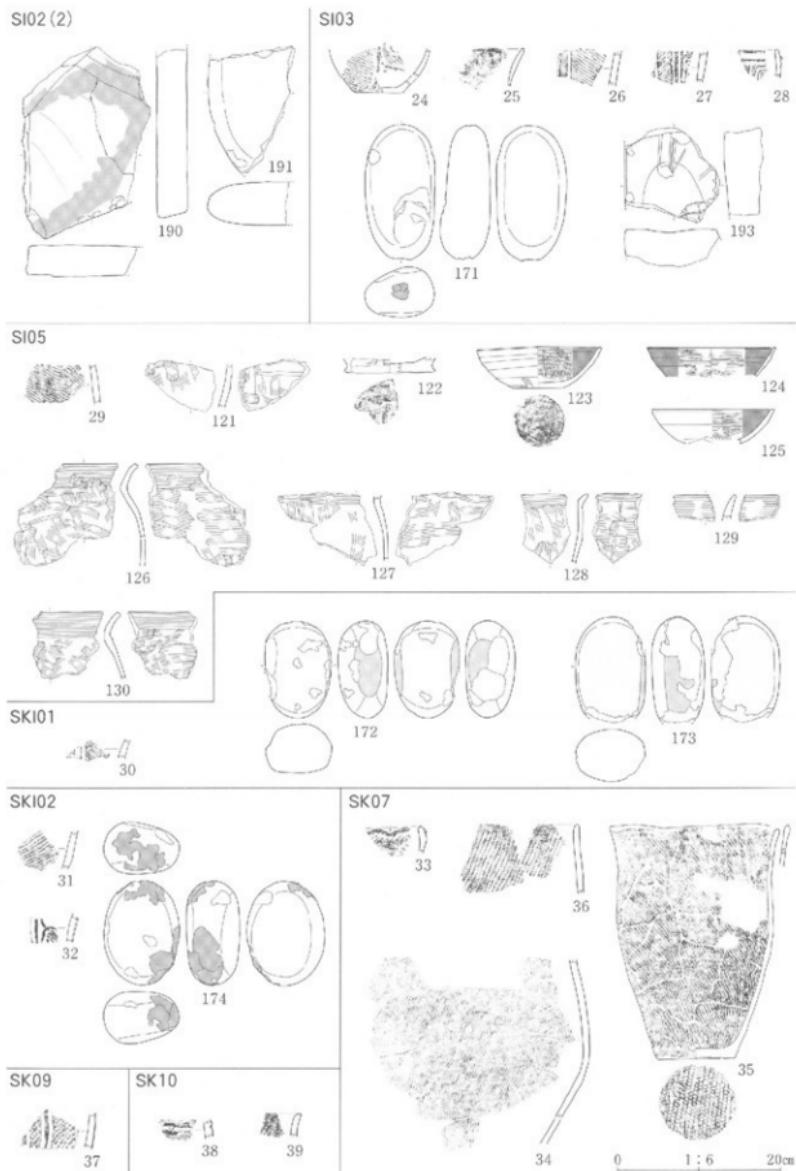
SI01



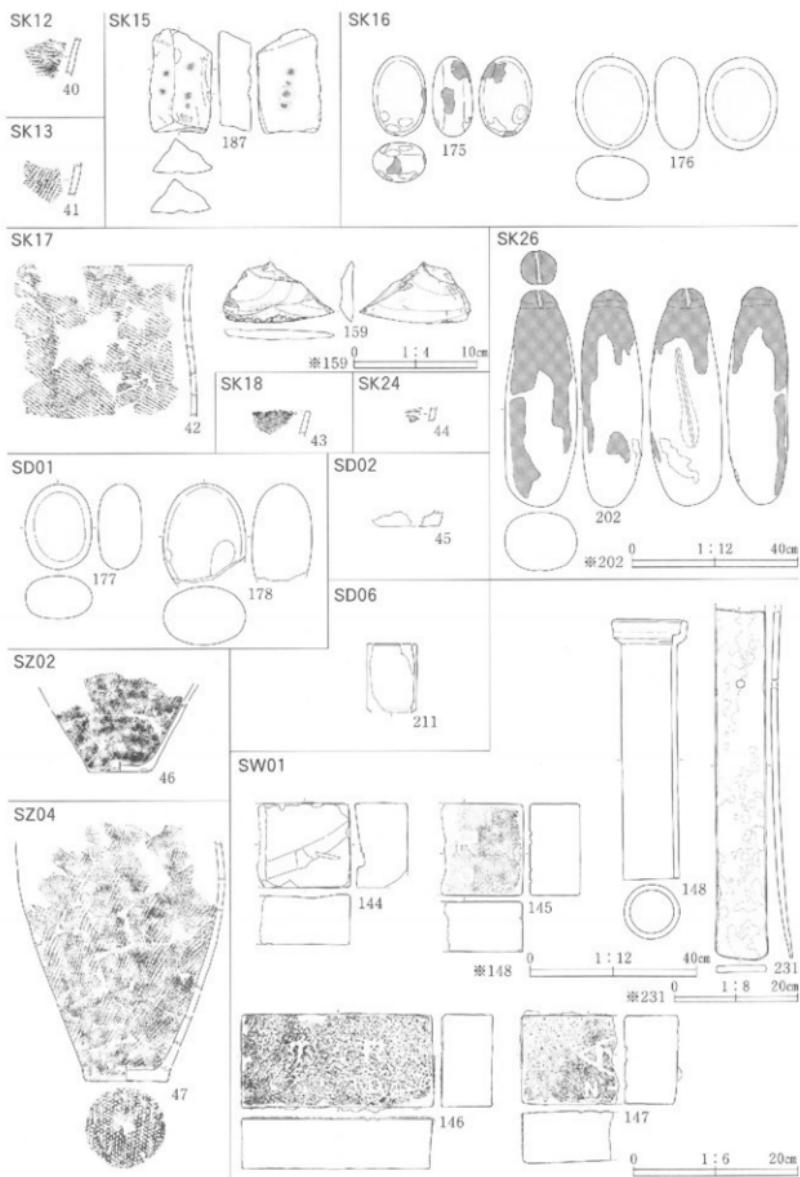
SI02(1)



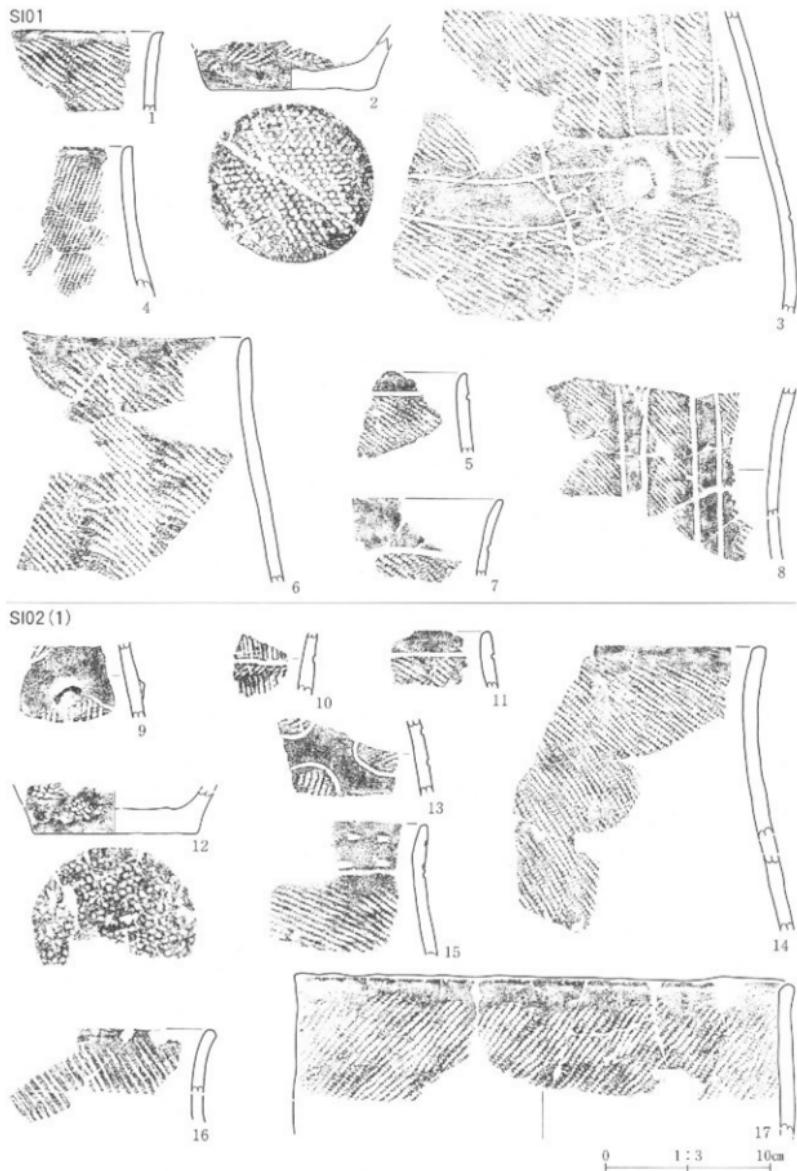
第29図 遺構別出土遺物集成図 (1) 上器:1/6、上製品:1/4、剥片石器:1/4、鍛石器:1/6



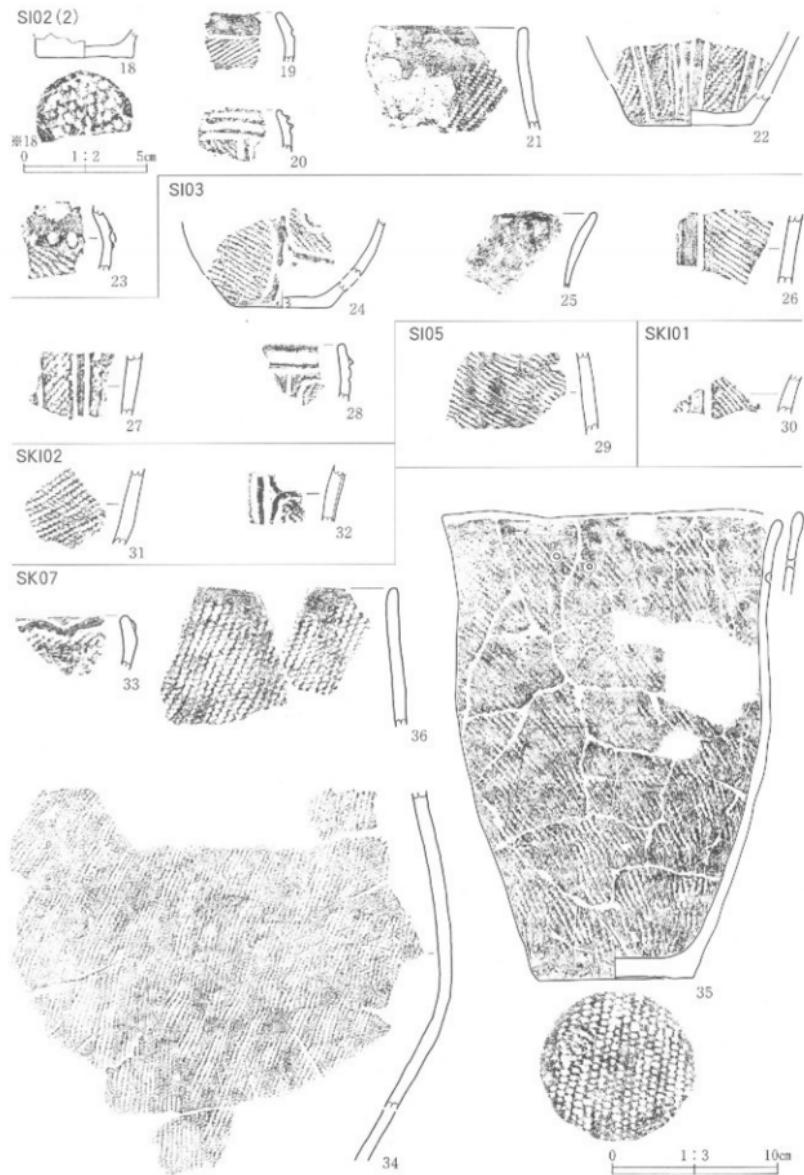
第30図 遺構別出土遺物集成図 (2)



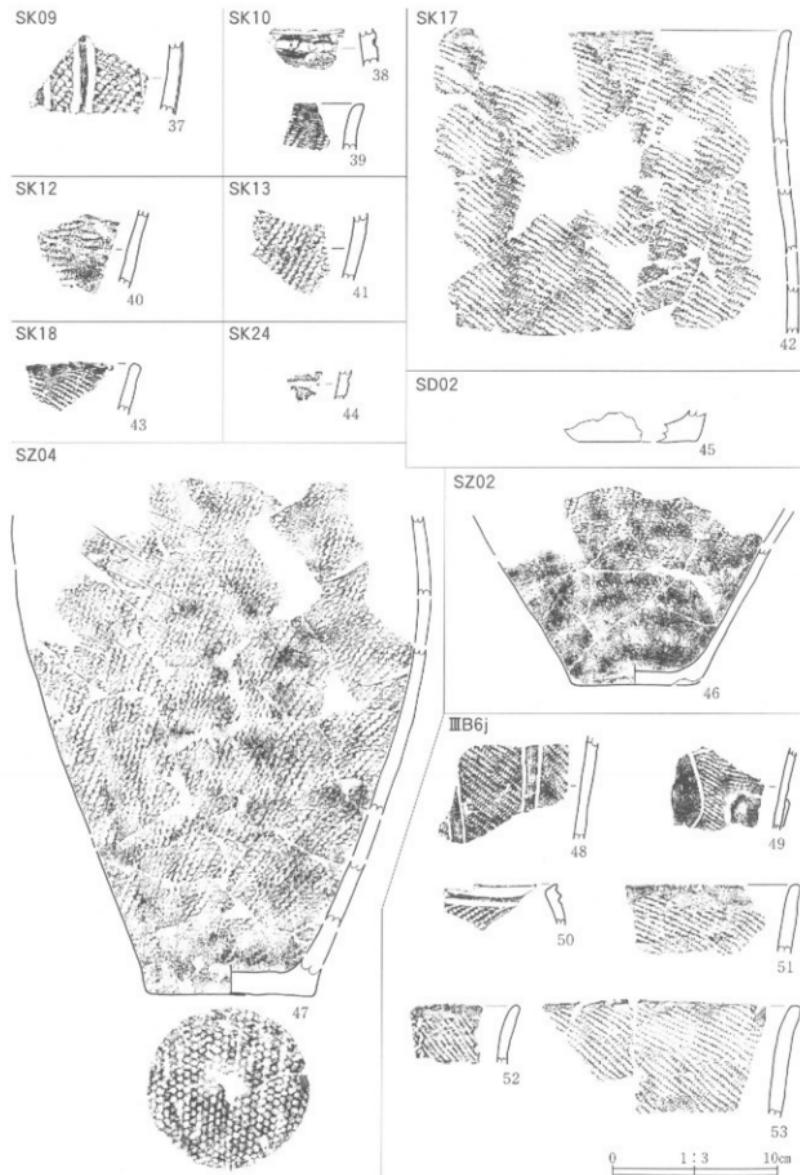
第31図 遺構別出土遺物集成図（3） 土器1/6、土製品1/4、銅片石器1/4、磁石器1/6



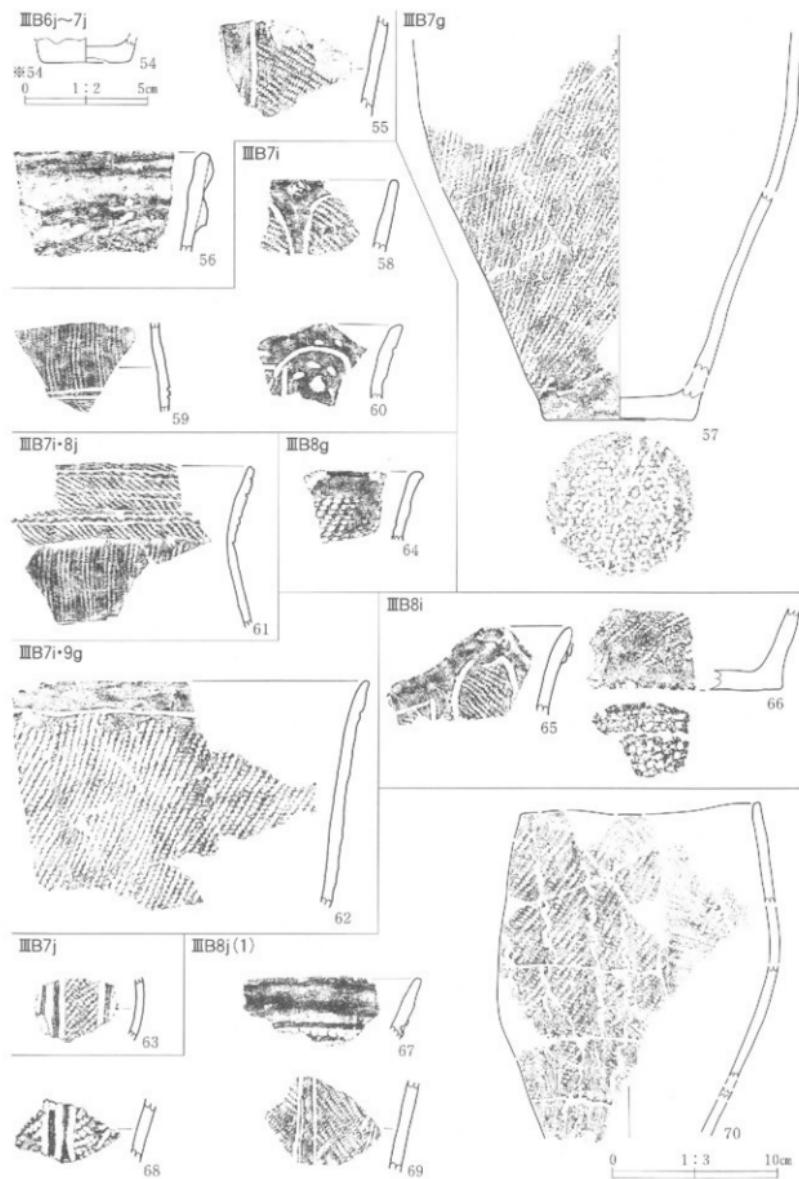
第32図 土器 (1)



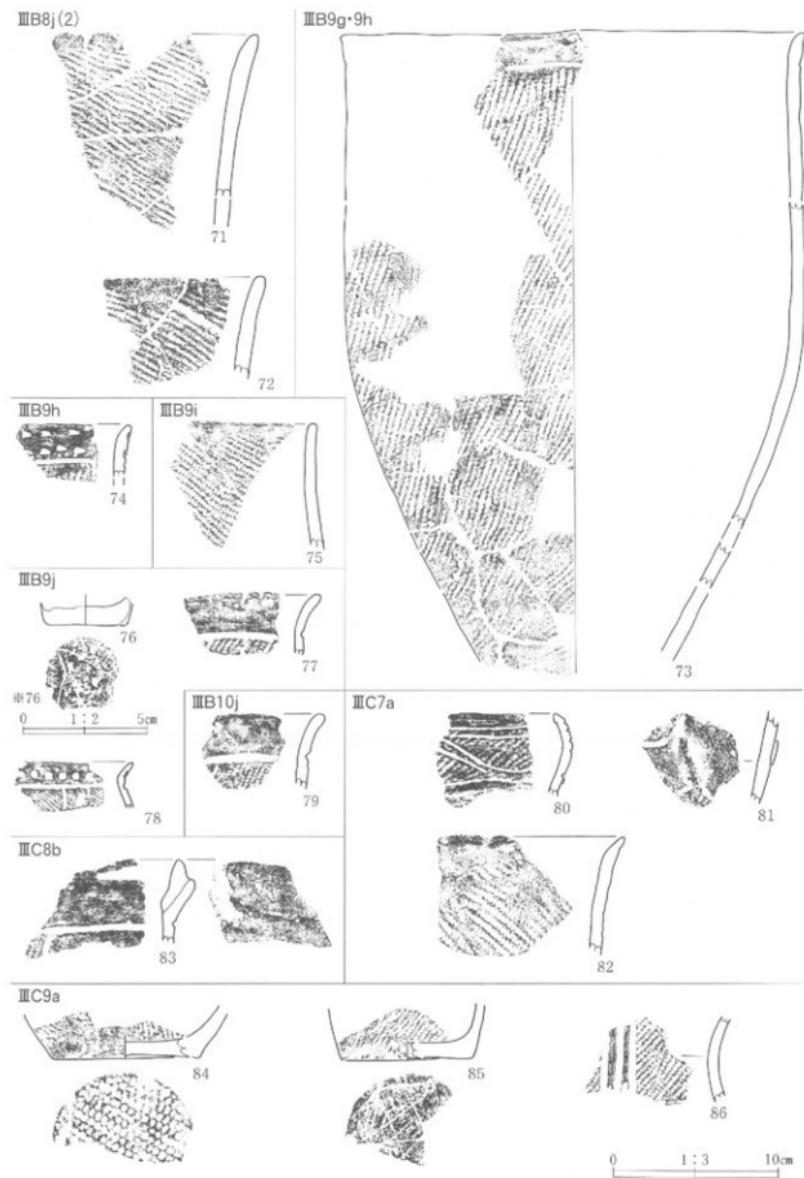
第33図 土器 (2)



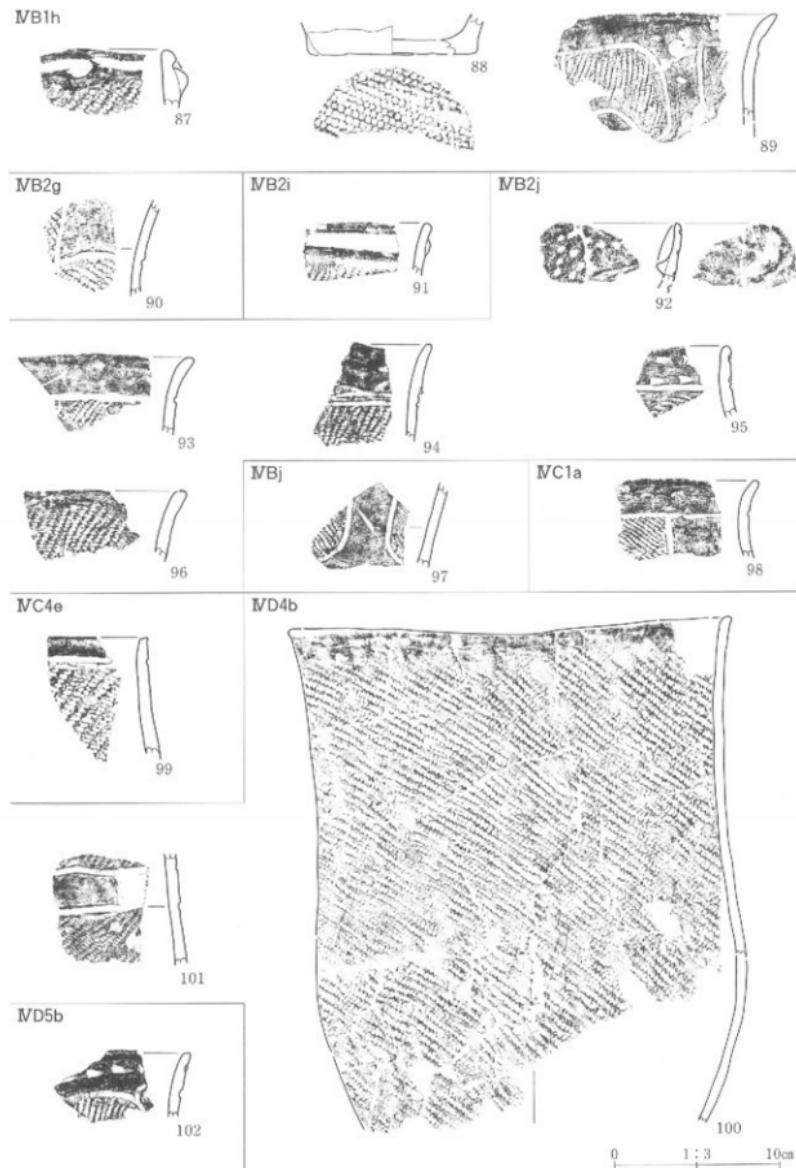
第34図 土器 (3)



第35図 土器 (4)



第36図 土器 (5)



第37図 土器 (6)

N C (3区谷頭)



4区 南斜面



4区(SiO2の南側斜面)



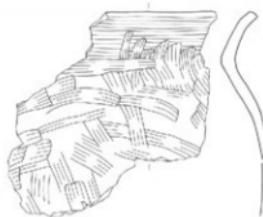
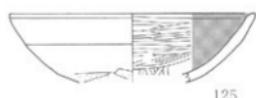
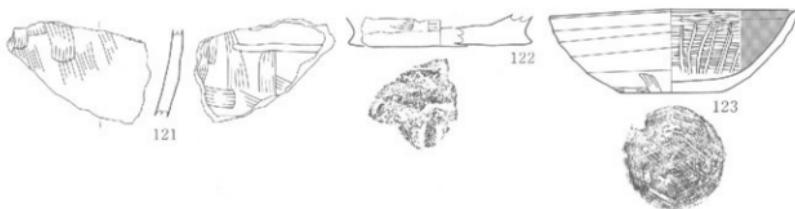
T238



T270



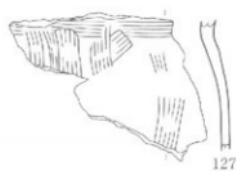
SiO5(1)



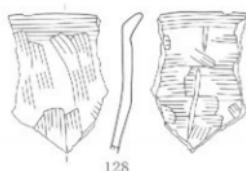
0 1 : 3 10cm

第38図 土器 (7)

SI05 (2)



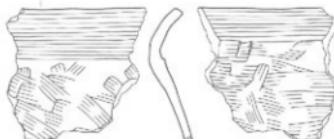
127



128

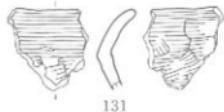


129



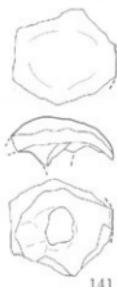
130

III(古代住居の斜面下)

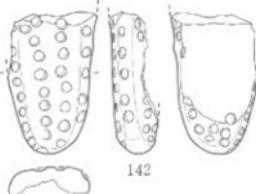


131

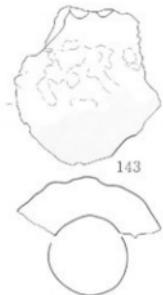
0 1 : 3 10cm



141



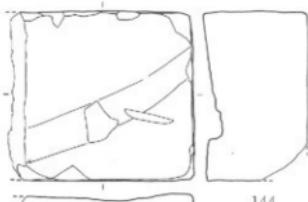
142



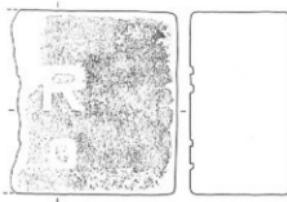
143

0 1 : 2 10cm

第39図 土器 (8)・土製品 (1)



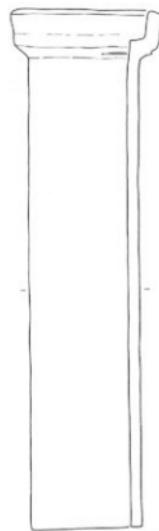
144



145



146



148



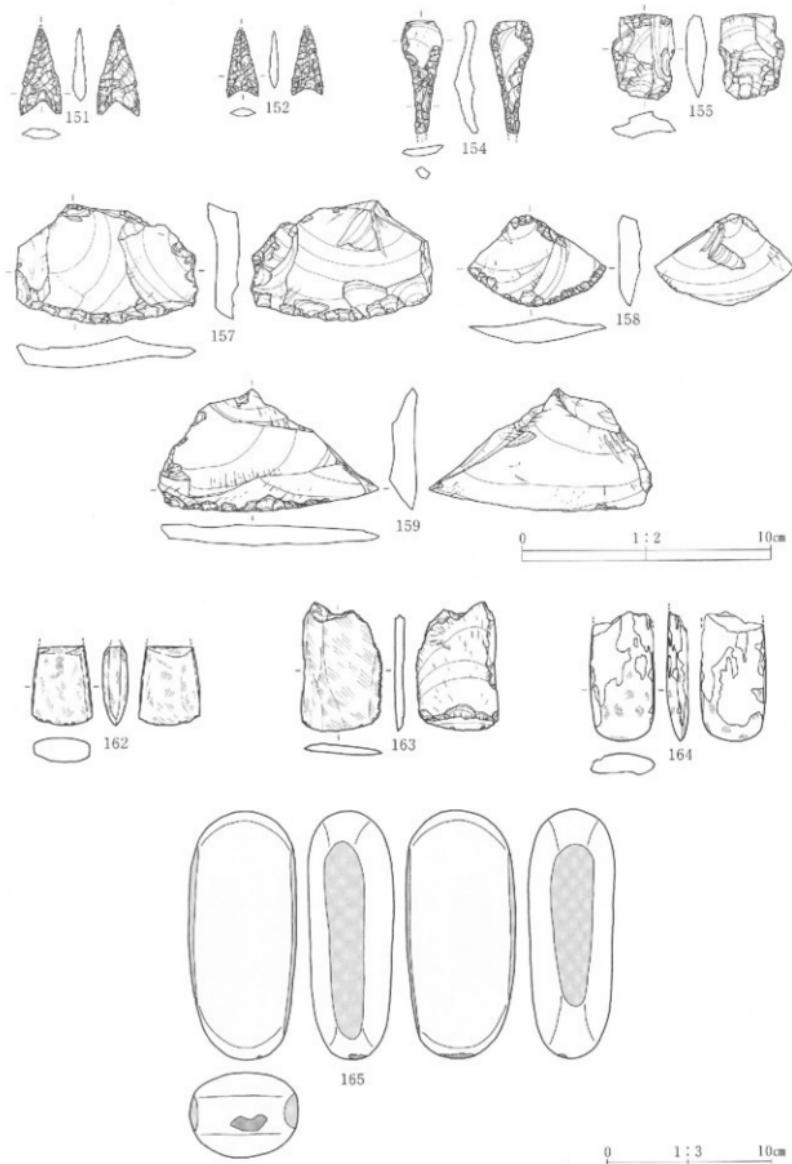
147



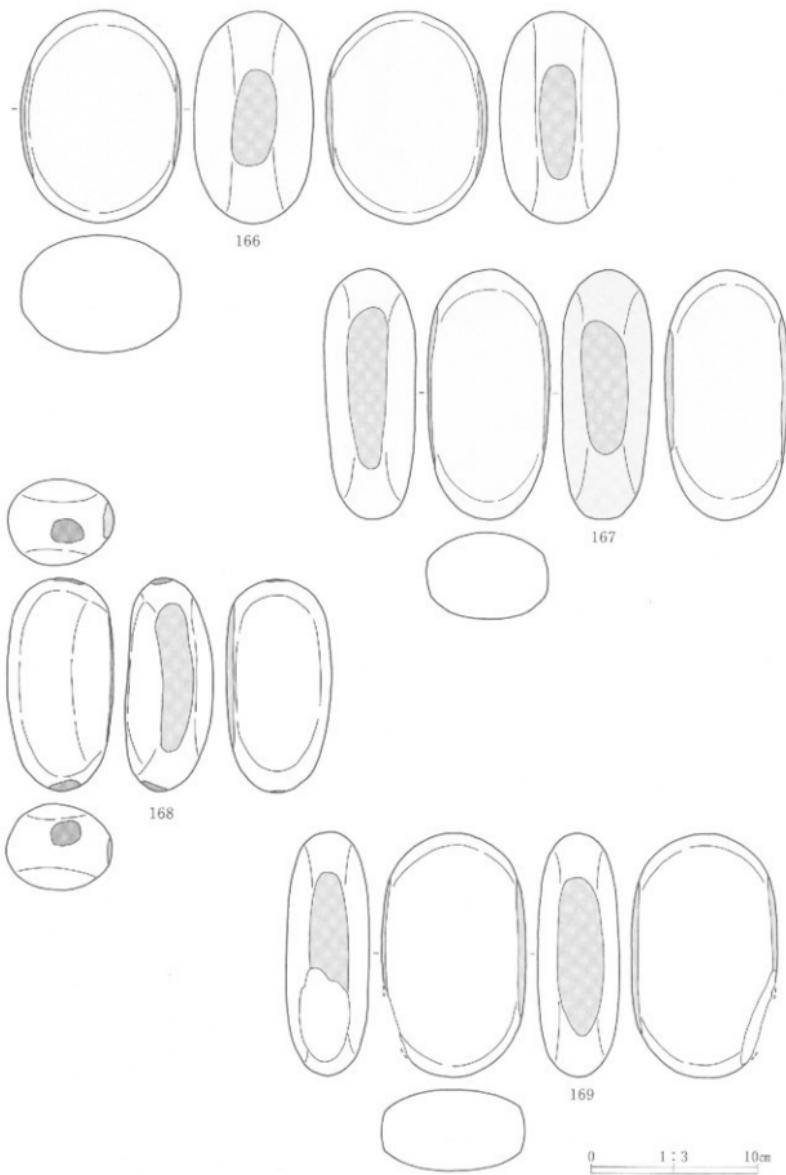
0 1 : 3 10cm

0 1 : 6 20cm

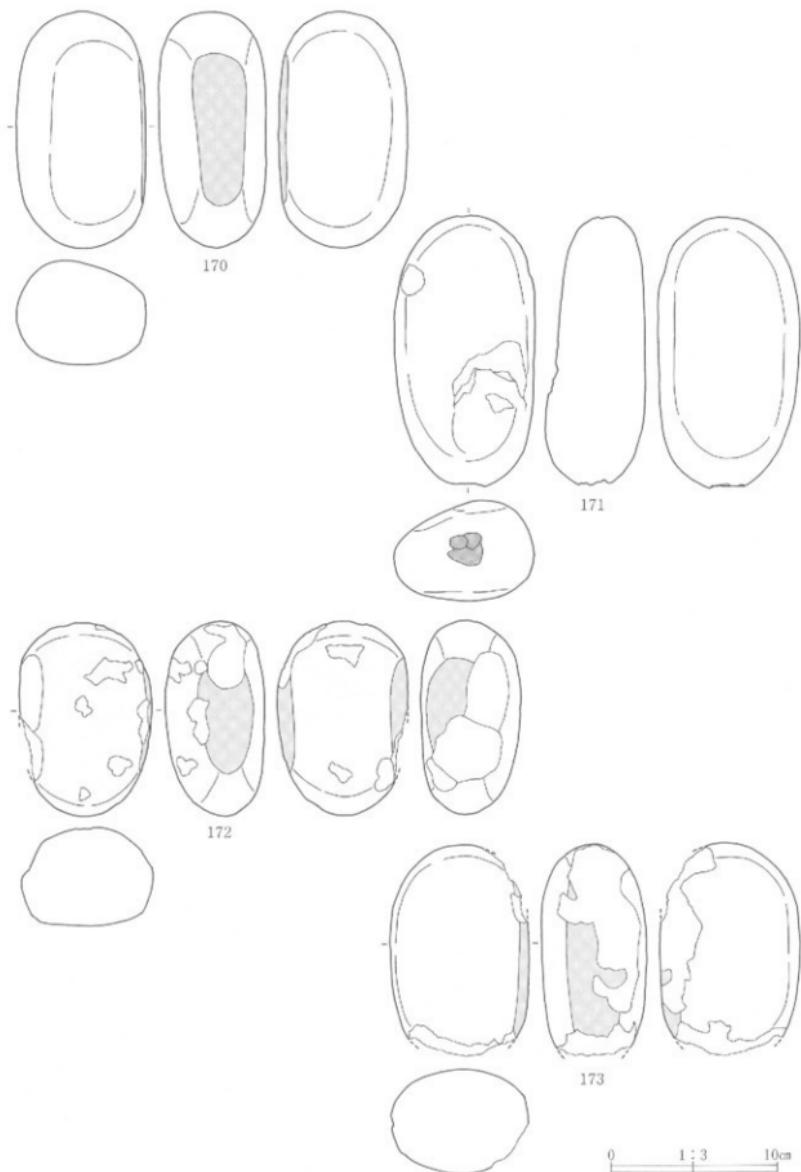
第40図 土製品 (2)



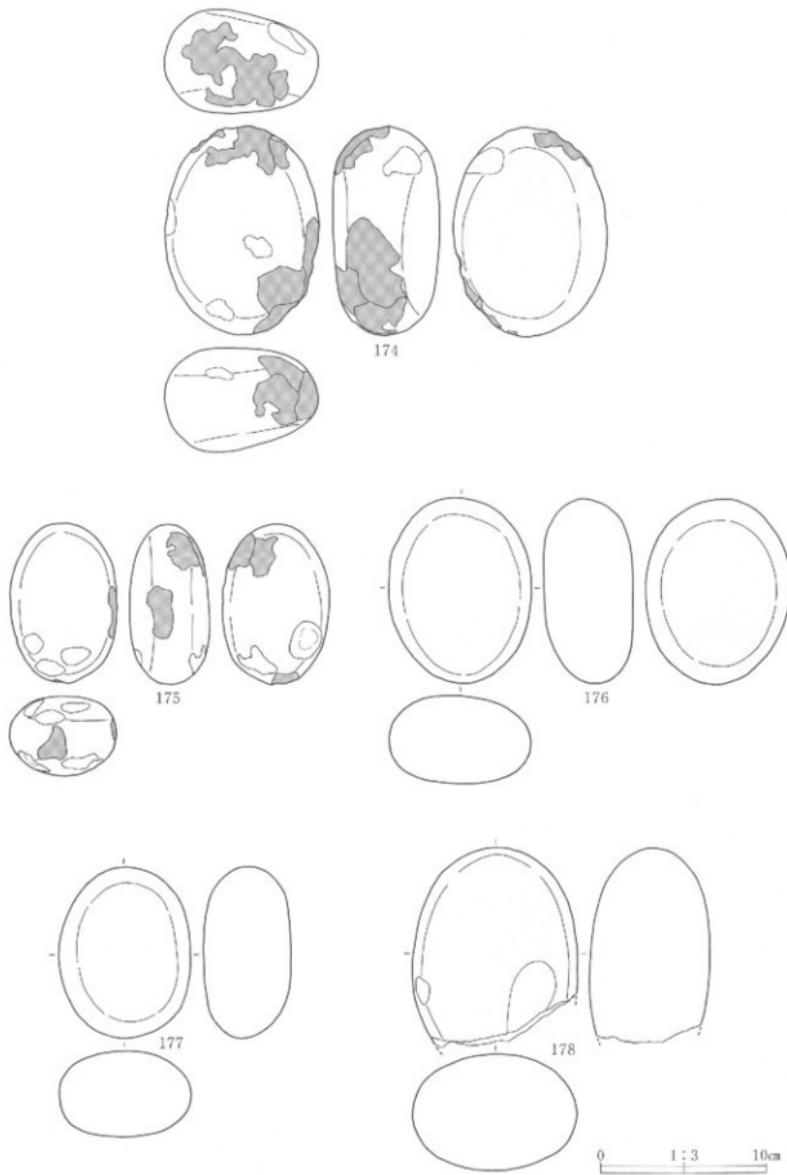
第41図 石器 (1)



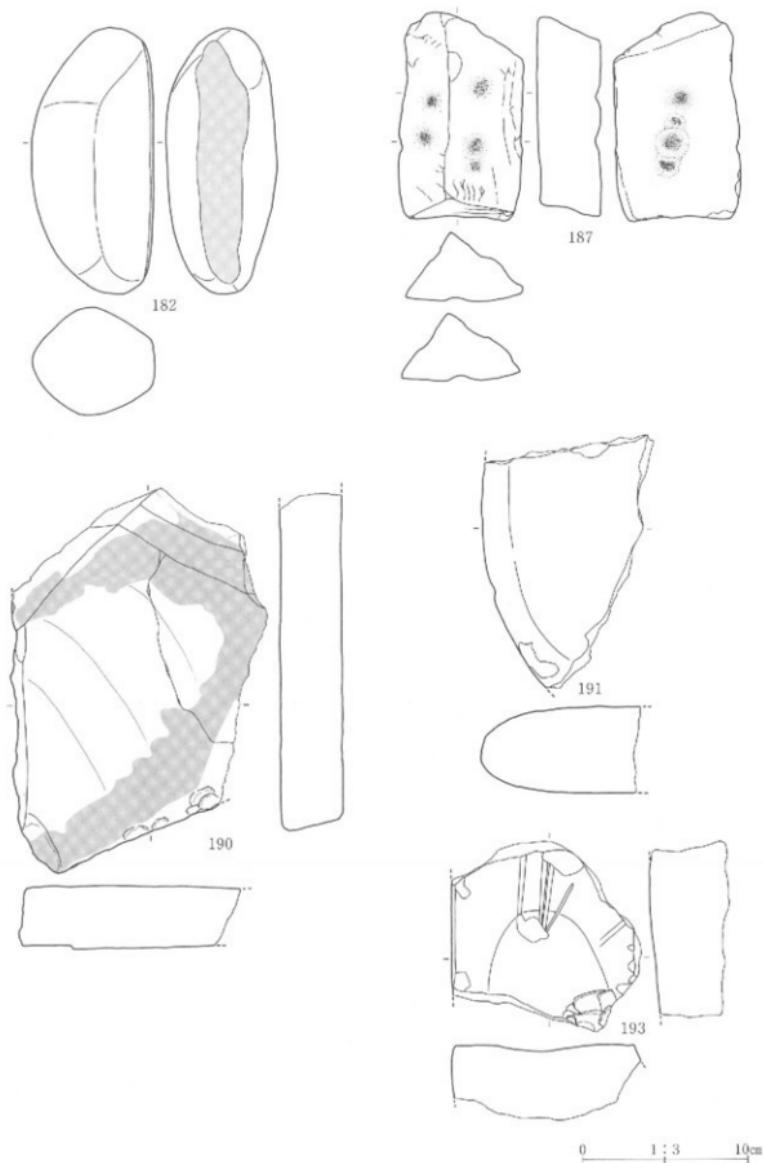
第42図 石器 (2)



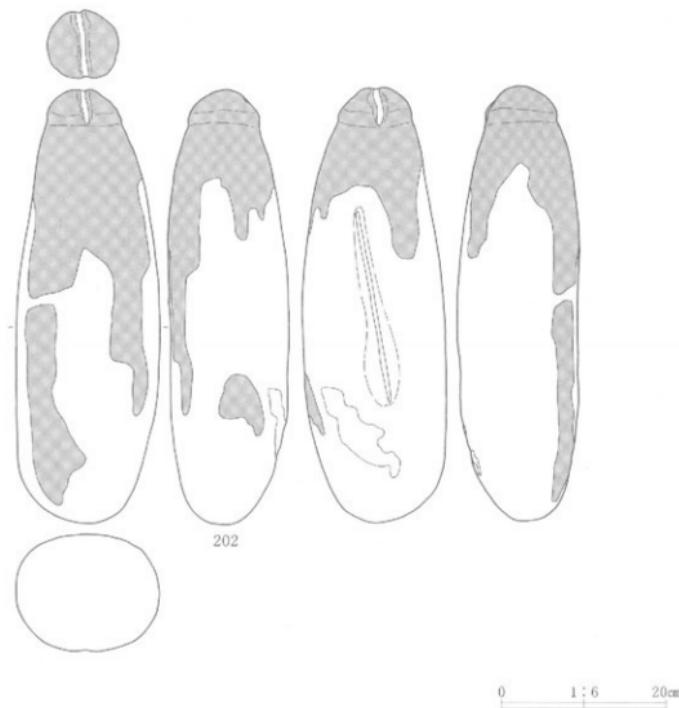
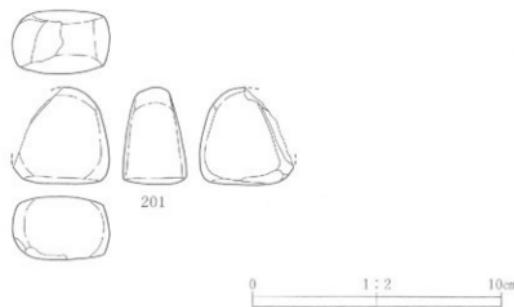
第43図 石器 (3)



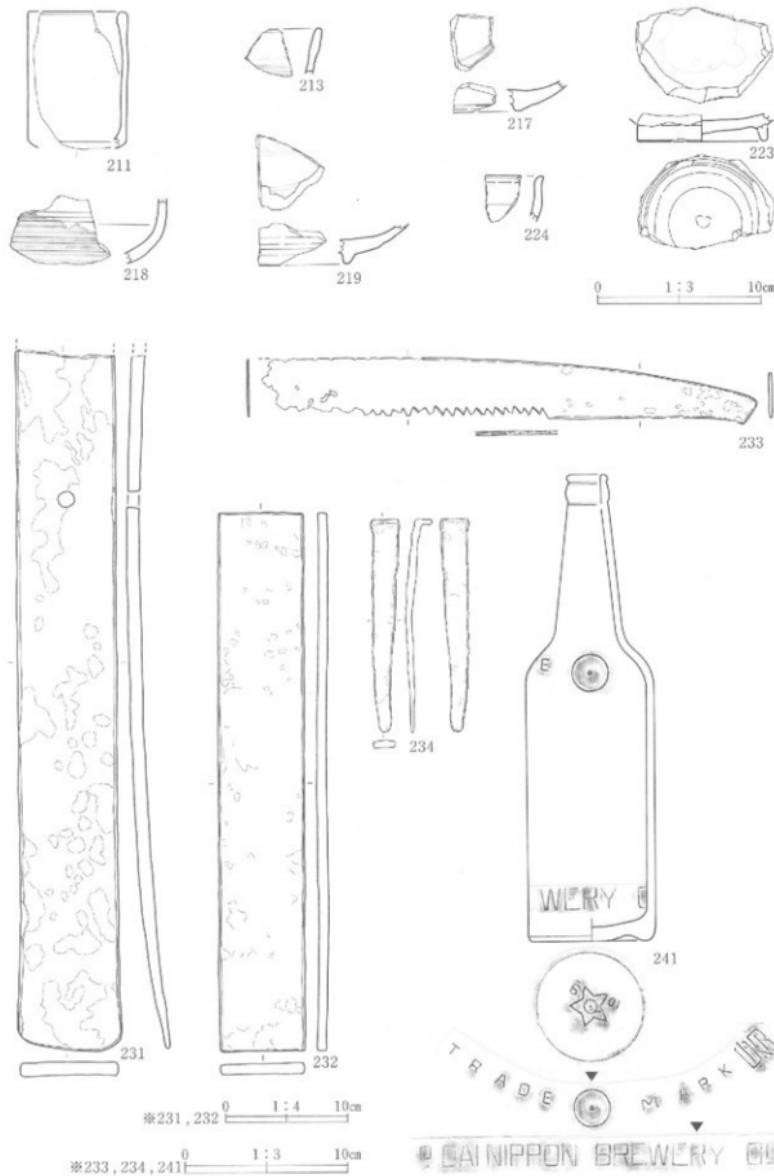
第44図 石器 (4)



第45図 石器 (5)



第46図 石製品



第47図 陶磁器・鉄製品・ガラス製品

## V 八木沢ラントノ沢I遺跡

### 1 検出遺構

#### (1) 検出遺構の概要 (第48図～50図)

今回の調査で検出された遺構は、陥し穴状遺構1基、土坑1基である。調査区は東側の尾根から西側の谷部までの急斜面の中腹に位置し、狭い範囲でありながら、標高34～45mとその比高は11mを測る。表土及びⅢ層が厚く堆積しており、遺構はその下部から検出された。遺物は出土していないため時期の詳細は不明である。

#### (2) 陥し穴状遺構

##### SK01陥し穴状遺構

###### 遺構 (第50図、写真図版35)

[位置・検出状況] IA 8 iグリッド。トレンチを掘削中にⅢ層～Ⅳ層で黒褐色土の広がりを確認した。  
[重複関係] なし。

[規模・平面形] 開口部の長径は343cm、短径は17～69cm、底部の長径は314cm、短径は6～44cm、深さは112cmを測る。平面形は溝状で、中央部が最も細く、両端部に向かって丸く広がる形状である。

[覆土・堆積状況] 中央部は暗褐色土1層の堆積であるが、端部は黒褐色土、暗褐色土を主体に6層に細分される。堆積状況は不明である。

[壁・底面] 壁はやや外傾して立ち上がる。底面は凹凸を持ち、全体的に地形に沿って、北に向って低くなる。  
[その他の付属施設] なし。

###### 遺物 なし。

時期 時期を判断できる遺物は出土していないが、遺構の形状から縄文時代と推測される。

#### (3) 土坑

##### SK02土坑

###### 遺構 (第50図、写真図版35)

[位置・検出状況] II A 4 i～4 hグリッド。Ⅲ層～Ⅳ層で黒褐色土の広がりとして検出した。土坑の覆土と検出面の土層の識別が難しかったため、ベルト沿いにトレント状に掘り下げ、壁・底部の確認を行った。  
[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径156×143cm、底部径148×80cm、平面形は梢円形である。深さは、19cmである。

[覆土・堆積状況] 黒褐色土・にぶい黄褐色土で構成される。

[壁・底面] 壁・底面はⅣ層を掘り込んでつくられている。壁はほぼ直立立ち上がり、底面は東から西に緩く傾斜する。

[その他の付属施設] なし。

###### 遺物

[出土状況] 覆土1層から炭化材2点(1.9g)が出土している。

[炭化材] 樹種はホホノキとの鑑定を受けている。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明である。

第26表 陥し穴状遺構調査表

試験番号	呼称	位置	形状	規模(cm)			施設のレベル(m)	施設の傾斜状況(上位→下位)	重複開発(前→後)	性格	付属施設	報告者	時期	
				横幅	奥行き	深さ								
50	35	SK01	TAS1	田～谷場	溝状(縦槽にふくらみあり)	343×60	314×44	112.2	41.488	堀端土、縦築色	なし	縦	なし	縄文

第27表 土坑調査表

試験番号	呼称	位置	規模(cm)			施設のレベル(m)	施設の傾斜状況(上位→下位)	重複開発(前→後)	性格	付属施設	報告者	時期		
			横幅	奥行き	深さ									
50	35	SK02	II A 4 i - 4 h	田～谷場	円形	156×143	148×80	19.5	37.699	走掘土、いぶい黄砂毛土	なし	土	なし	不明

## 2 まとめ

八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡は、八木沢川の東側に接する、小起伏山地上に位置する。今回の調査は、三陸縦貫自動車道宮古道路建設に伴って行われた試掘調査によって遺構の存在が確認された部分について、本調査を実施したものである。調査範囲は、尾根から谷に向かう、急斜面の中腹で、700m<sup>2</sup>の狭小な範囲である。

検出された遺構は、陥し穴状遺構1基、土坑1基である。両遺構とも時期がわかる遺物が出土しておらず、不明な点が多いが、陥し穴状遺構(SK01)に関しては、検出面・形状などから、時期は、縄文時代の可能性があると推測される。今回の調査地点では、竪穴住居跡などは検出されておらず、主に狩猟の場として用いられていた場所であることが判明した。

ここでは陥し穴状遺構であるSK01について検討する。まず立地をみると、丘陵地の尾根から谷に向かう急斜面上に位置する。このような事例は、近隣の八木沢古館遺跡(註1)、木戸井内IV遺跡(註2)などでもみられ、シカや小動物など、狩猟対象の獣の通り道となる箇所を選んで構築されたものと考えられる。

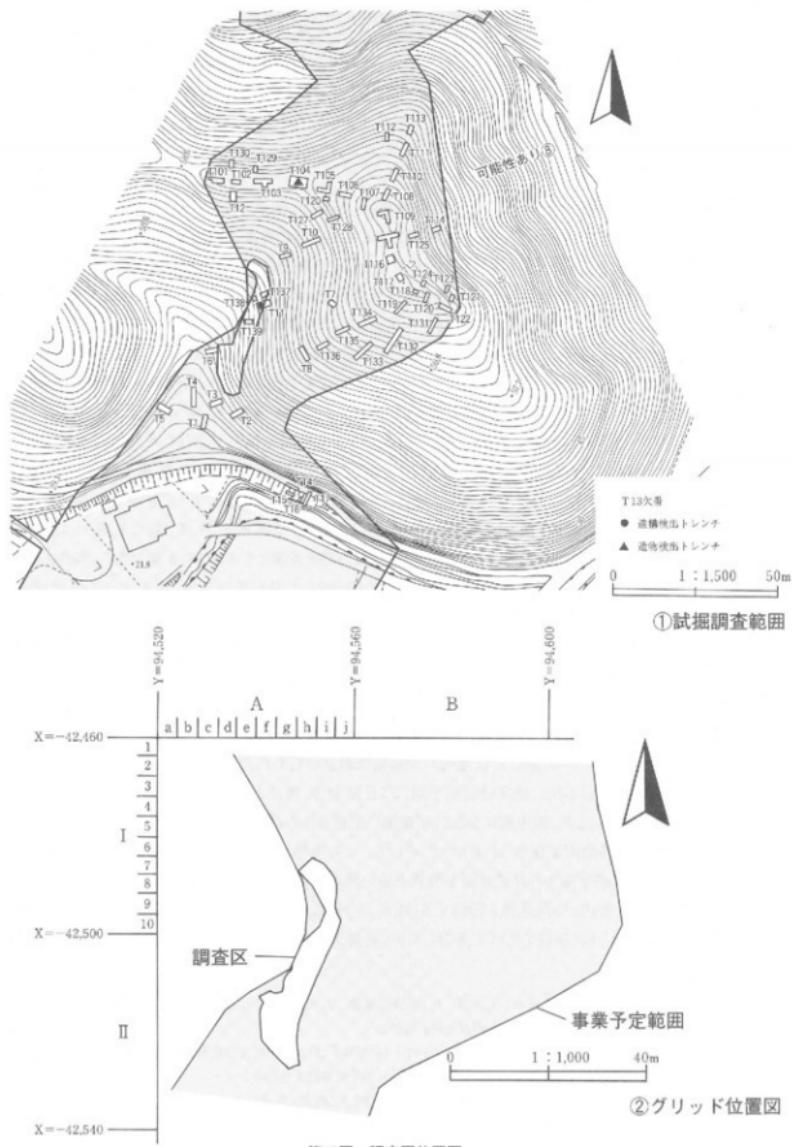
次に形態についてみていくと、平面形は両端部が丸く膨らむ8の字状を呈する。中央部は細くなつており、断面形も細いU字状を呈する。陥し穴状遺構の形態については、多くの研究者によって分類が試みられているが、岩手県の事例を集成した分類案をみると、大きくわけて3種類に分類されている(註3)。第一に溝形のもの、第二に梢円形もしくは長方形のもの、第三に円形もしくは方形を基調とするものの3種である。本遺跡のSK01は第一の溝形の範疇に入るものと思われる。その溝形の細分をした瀬川氏の分類(註4)によると「底部両端が上部開口部両端と同一の長さか、又は短いが、両先端部が広がるタイプ」とされるAⅣ類に近いものである。

前述した八木沢古館遺跡や木戸井内IV遺跡では、本遺跡と立地・形状(溝形)が類似する陥し穴状遺構が検出されているが、その一方、本書で報告している八木沢Ⅱ遺跡、また現在整理中の八木沢駒込Ⅱ遺跡からは、低地の広い平坦面に立地する事例も検出されている。この場合、溝形、梢円形など、さまざまな形態がみられる。この立地や形態の違いについては、関東地方の大規模な調査例や、アイヌ・東北マタギなどの民俗事例などから研究が行われている。陥し穴状遺構の大規模な調査が行われた、東京都多摩ニュータウン遺跡群の分析をした佐藤宏之氏によると、縄文時代前半期には丘陵全体、特に水源近くに配置され、形状は溝形・梢円形が多くみられるという。また、後半期になると、平坦面に配置されるようになり、溝のものは長狭化、円形・梢円形のものは大型化する傾向が認められるという。そして、この遺構としての形態の変化を獣法の変化(獣物がかかるのを待つ消極的手法から狩猟集団が獲物を追い詰めて落とす積極的手法への変化)や、獣種の選別化・個別化といった変化との関連性を指摘する(註5)。今後は、これらの指摘がこの宮古地区にも該当するのか否か、多くの事例とともに範囲を広げて考察していく必要がある。

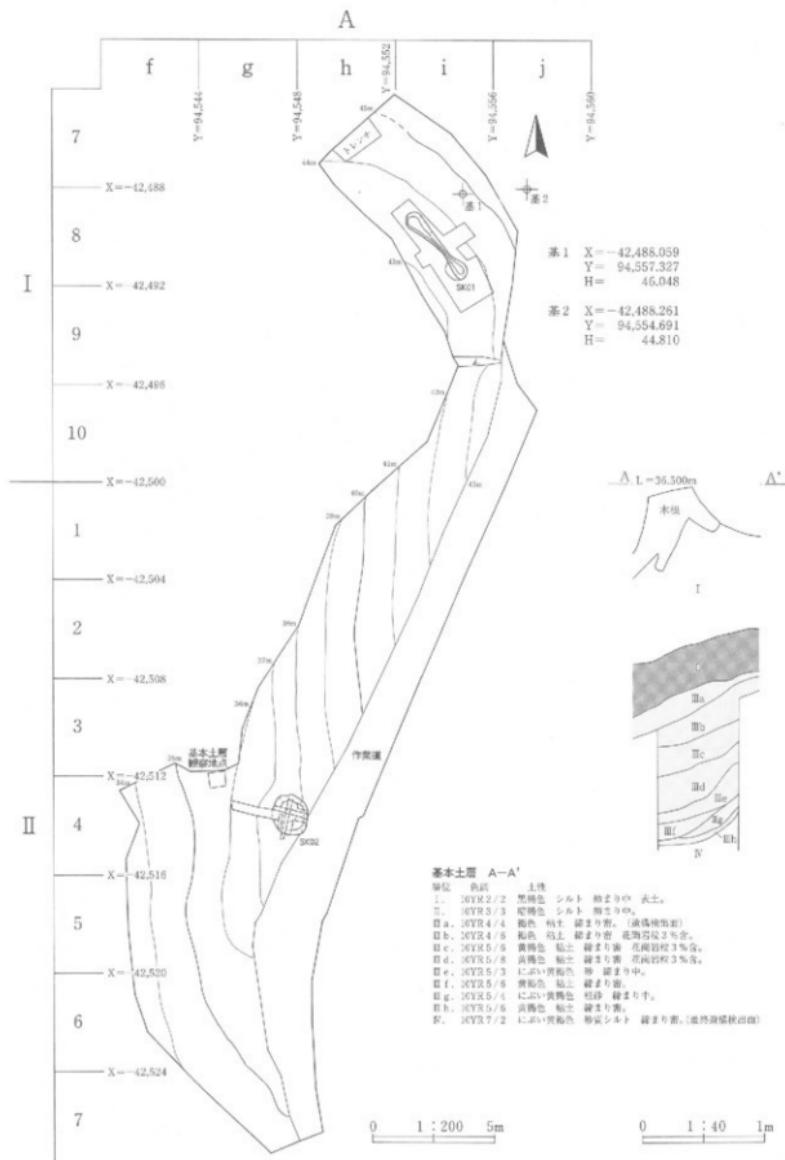
(八重畠)

## 註

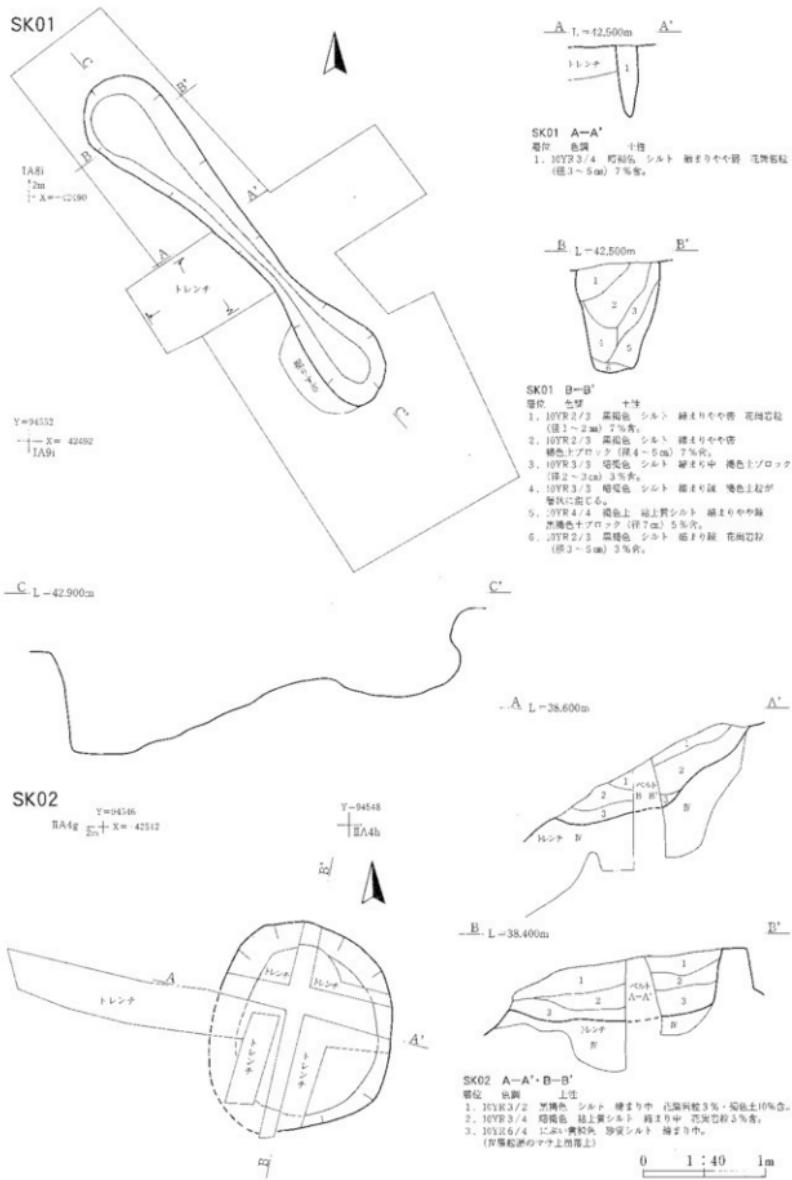
- (1) 岩手県宮古市教育委員会 2006 『八木沢古跡 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡』第67集
- (2) 岩手県宮古市教育委員会 2006 『木戸井内Ⅳ遺跡』第68集
- (3) 田村壯一 1987 『陥し穴状遺構の形態と時期について』『紀要』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- (4) 瀬川司男 1981 『陥し穴状遺構について』『紀要』(財)岩手県埋蔵文化財センター
- (5) 佐藤宏之 1998 『陥し穴の上古考古学—狩猟システムと構造』『縄文式生活構造 土俗考古学からのアプローチ』安斎正人編 同成社



第48図 調査区位置図



第49図 遺構配図



第50図 脊し穴状遺構: SK01、土坑: SK02

## VI 分析・鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

八木沢Ⅱ遺跡は、八木沢川左岸（西岸）の山地緩斜面に立地する。今回の発掘調査により、縄文時代の堅穴住居跡、土坑、土器埋設遺構、古代の堅穴住居跡、現代の炭窯跡等が検出されている。

今回の分析調査では、各遺構から検出された炭化材を対象として、遺構の構築年代に関する資料を得るためのAMS法（加速器質量分析法）による放射性炭素年代測定と、木材利用を明らかにするための樹種同定を実施する。また、住居跡や土坑から出土した種実遺体を対象として、植物利用を明らかにするための種実遺体同定を実施する。

### 1 炭化材の年代測定と樹種同定

#### (1) 試料

試料は、住居跡や土坑等から出土した炭化材6点（No802, 814, 816, 821, 822, 833）である。

#### (2) 分析方法

##### 放射性炭素年代測定

土壤や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化鋼（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3 MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9 SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いてδ<sup>13</sup>Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma: 68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。  
樹種同定

木LI（横断面）・板目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、实体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、各樹種の木材組織については、林（1991）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

#### (3) 結果

##### 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。測定年代は、No802が

4,100±30BP、No814が4,270±40BP、No816が3,960±430BP、No821が4,090±30BP、No822が4,010±30BP、No833が5,170±30BPである。また、測定誤差を $\sigma$ として計算させた曆年校正結果は、No802がcalBC2,840-2,813、No814がcalBC2,911-2,879、No816がcalBC2,466-2,398、No821がcalBC2,630-2,564、No822がcalBC2,536-2,492、No833がcalAD1,677-1,917である。

曆年校正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年）を校正することである。曆年校正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に曆年校正プログラムや曆年校正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。また、<sup>14</sup>C-3は、δ<sup>13</sup>Cの値からみて海洋由来の炭素によって構成されていることから、海洋炭素に由来する校正曲線を用いた曆年校正を行う。リザーバー効果による補正に関しては、地域的な補正を行ったための情報に乏しいため、海洋での一般的な値（曆年校正プログラムのdefault値である約400年）を用い、地域による補正是考慮していない。その他の3点は、北半球の大気中炭素に由来する校正曲線を用いる。

曆年校正は、測定誤差 $\sigma$ 、 $2\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

#### 樹種同定

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、針葉樹1種類（マツ属複雜管束亞属）と広葉樹3種類（アサダ・クリ・ケンボナシ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

##### ・マツ属複雜管束亞属 (*Pinus* subgen. *Diploxyylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晚材部への移行は急～やや緩やかで、晚材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成されるが、水平樹脂道とエビセリウム細胞は破損しており、痕跡が空隙として認められるのみ。分野壁孔は疣状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は單列、1-10細胞高。

##### ・アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科アサダ属

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

##### ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-15細胞高。

##### ・ケンボナシ属 (*Hovenia*) クロウメモドキ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

#### (4) 考 察

炭化材試料のうち、No802,814,816,821,822の5点は、補正年代が3910BP~4270BPであり、特にNo802,821,822の3点は4040BP~4090BPの狭い範囲に集中する。炭化材が出土した遺構は、SI02, SI06, SK07, SK08, SN01であり、住居構築材や燃料材等に由来する可能性があるが、詳細は不明である。SI02, SI06, SK07の3点がクリ、SK08がケンボナシ属、SN01がアサダであった。いずれも冷温帯に分布する落葉広葉樹であり、クリやアサダは重硬で強度が高い材質を有する。ケンボナシ

属は、それほど重硬な木材ではなく、加工も容易であるが、狂いや割れは少なく、強度も比較的高い。

岩手県内における縄文時代中期～後期の調査例をみると、住居跡出土資料などを中心にクリが比較的多く利用される傾向がある（鷲倉, 1983; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1996, 2004; 高橋, 2000など）。また、アサダやケンボナシ属は、大日向II遺跡や御所野遺跡でクリと共に確認された例がある（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 1996）。特に、御所野遺跡ではクリを中心にアサダ、ケンボナシ属、コナラ節、ニレ属、カエデ属等が確認されており、本遺跡の結果とも類似する。

一方、SI03から出土した試料No833は、袖正年代が90BPであり、近現代に相当する年代を示す。樹種は針葉樹の複雑管束亞属（ニヨウマツ類）であった。複雑管束亞属は、針葉樹としては比較的重硬な部類に入るが、加工は容易であり、松脂を多く含むために保存性がある。炭化材の用途などは不明であるが、当該期に燃料として利用されるか薪炭材として利用するために、火を受けて炭化したことが推定される。

## 2 種実遺体の同定

### （1）試 料

試料は、SI-1のO-3フク上層から出土した種実1点（No830）と、SK08の3-4層から出土した種実1点（No831）の計2点である。

### （2）分 析 方 法

種実を双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から種類と部位を同定する。分析後は、種実を容器に戻して返却する。

### （3）結 果

結果を表3に示す。No830はコナラ属（*Quercus*）の子葉に、No831はコナラ属コナラ亜属（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*）の子葉に同定された。2点とも炭化している。以下に形態的特徴を記す。

#### ・コナラ属コナラ亜属（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*） ブナ科

子葉は炭化しており、黒色。完形ならば弾丸形。縦に1周する子葉の合わせ目の線に沿って割れた半分で、長さ1.3cm、径1.1cm程度。頂部はやや尖るが、これは堅果頂部の円錐状突出部の内部を埋めていた部分であることから、成熟個体と考えられる。基部はやや平ら。子葉は硬く緻密で、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には小さな孔（主根）がある。

現在の岩手県に分布するコナラ亜属で比較的大型の果実を持つ種類は、クスギ節クスギ、コナラ節カシワ、ミズナラ、ナラガシワと、コナラ節内の種間雜種が存在する。本遺跡から検出された子葉は、これらのいずれかに由来するものと思われるが、子葉の形態のみから種まで同定することは困難である。

#### ・コナラ属（*Quercus*） ブナ科

子葉は炭化しており、黒色。完形ならば卵状橢円体。縦に1周する子葉の合わせ目の線に沿って割れた半分で、長さ1.2cm、径7mm程度。頂部はやや尖るが、これは堅果頂部の円錐状突出部の内部を埋めていた部分であることから、成熟個体と考えられる。基部はやや平ら。子葉は硬く緻密で、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には小さな孔（主根）がある。

上述のコナラ亜属とした比較的大型の果実を持つ種類とは区別される。ミズナラ、コナラやこれらの種間雜種のいずれかに由来するものと思われるが、子葉の形態のみから種まで同定することは困難である。

## (4) 考 察

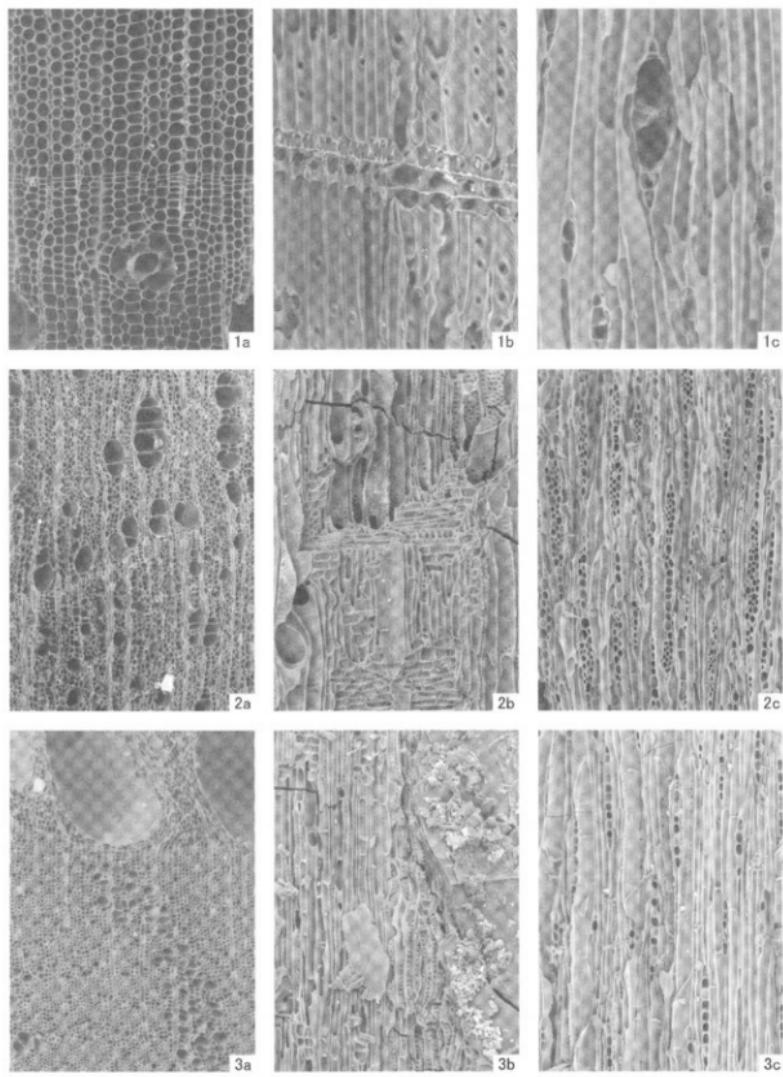
種実遺体が出土した遺構のうち、SK08については、同じ遺構から出土した炭化材を試料とした年代測定の結果、 $4,060 \pm 40$ BPの補正年代が得られている。

コナラ属は、いずれも高木になる広葉樹で、常緑性のアカガシ亜属と落葉性を主とするコナラ亜属とがある。現在の本地域では、コナラ亜属に属するクヌギ節クヌギ、コナラ節カシワ、ミズナラ、コナラやコナラ節内の種間雜種などが分布しているが、常緑性のアカガシ亜属は分布していない。また、No831がコナラ亜属である点を考慮すれば、コナラ属とした試料も落葉性のコナラ亜属の可能性が高い。

コナラ亜属の堅果は、アク抜きすれば内部の子葉が食用可能で、収量も多く長期保存可能であるため、古くから里山で保護・採取利用されており、遺跡からの出土例も多い（渡辺、1975など）。これらの可食部である子葉が遺構内から出土したことから、本遺跡でも周辺に生育していたコナラ亜属の堅果を利用していたことが推定される。各試料の出土状況が不明であるが、今回の試料はいずれも完全に炭化した状態で検出されており、何らかの理由で利用前に火を受けて炭化したことが推定される。

## 引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 頭微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所.
- 石川 広雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 伊東 隆大, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81–181.
- 伊東 隆大, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66–176.
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83–201.
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30–166.
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47–216.
- 中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 花粉分析・炭化材同定・種子同定, 「御所野遺跡1 繩文時代中期の大集落跡」, 一戸町教育委員会, 341–355.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1996, 大日向II遺跡 自然科学分析, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第225集 国道395号線改良工事関連遺跡発掘調査 大日向II遺跡発掘調査報告書 第1次～第5次調査 第1分冊」, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 492–521.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004, 鑑定及び分析, 「一戸町文化財調査報告書第48集 御所野遺跡II」, 一戸町教育委員会, 276–287.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (編), 2006, 針葉樹の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆大・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東 隆大, 1982, 国認木材組織, 地球社, 176p.
- 鶴倉 巴三郎, 1983, 廉木の樹種について, 「一戸町文化財調査報告書第4集 一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」, 建設省岩手工事事務所, 一戸町教育委員会, 337–340.
- 高橋 利彦, 2000, 秋浦II遺跡出土炭化材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第317集秋浦II遺跡発掘調査報告書告白 岩手県北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設工事関連遺跡発掘調査」, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 255–257.
- 渡辺 誠, 1975, 繩文時代の植物食, 雄山閣出版, 187p.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆大・藤井 智之・佐伯 清 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



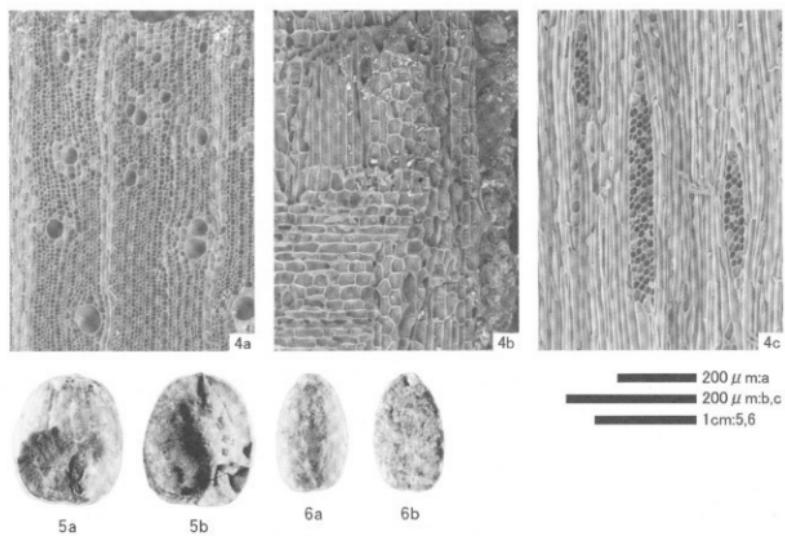
1. マツ属複雑管束亞属 (No.833)

2. アサダ (No.822)

3. クリ (No.814)

a:木口 b:径目 c:板目

第51図 炭化材



4. ケンボナシ属 (No.821) a:木口 b:極目 c:板目

5. コナラ属コナラ亜属 子葉 (No.831)

6. コナラ属 子葉 (No.830)

第52図 炭化材・種実遺体

表1 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

番号	遺傳	位置・層位	試料名	種類	樹種	算正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No	Measurement No
802	SI02	北西覆土3層	炭化材No.2	炭化材	クリ	4,090±40	-25.61±0.49	4,100±30	9821-1	IAAA-71389
814	SI06	覆土3層	炭化材No.2	炭化材	クリ	4,270±40	-25.05±0.49	4,270±40	9821-2	IAAA-71390
816	SK07	北半覆土17層	炭化材No.1	炭化材	クリ	3,910±30	-28.36±0.60	3,960±30	9821-3	IAAA-71391
821	SK08	5層	炭化材	炭化材	ケンボナシ属	4,060±40	-25.73±0.66	4,090±30	9821-4	IAAA-71392
822	SN01	覆土上地土上	炭化材	炭化材	アザダ	4,040±30	-22.97±0.54	4,010±30	9821-5	IAAA-71393
833	SI09	覆土1層	炭化材	マツ属後椎管束亜属		90±30	-29.66±0.53	170±30	9821-6	IAAA-71394

1) 年代値の背後に、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差  $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表2 历年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	历年較正年代 (cal)						相対比	Code No					
		cal	BC	2,847	-	cal	BC	2,845	cal	BP	4,797	-	4,795	0.009
802	4,092±34	cal	BC	2,840	-	cal	BC	2,813	cal	BP	4,790	-	4,763	0.197
		cal	BC	2,692	-	cal	BC	2,690	cal	BP	4,642	-	4,640	0.004
		cal	BC	2,678	-	cal	BC	2,575	cal	BP	4,628	-	4,525	0.789
		cal	BC	2,863	-	cal	BC	2,806	cal	BP	4,813	-	4,756	0.208
		cal	BC	2,579	-	cal	BC	2,717	cal	BP	4,529	-	4,667	0.093
		cal	BC	2,709	-	cal	BC	2,566	cal	BP	4,659	-	4,516	0.654
814	4,268±37	cal	BC	2,523	-	cal	BC	2,496	cal	BP	4,473	-	4,446	0.045
		cal	BC	2,911	-	cal	BC	2,879	cal	BP	4,861	-	4,829	1.000
		cal	BC	3,009	-	cal	BC	2,983	cal	BP	4,959	-	4,933	0.024
		cal	BC	2,935	-	cal	BC	2,860	cal	BP	4,885	-	4,810	0.854
		cal	BC	2,803	-	cal	BC	2,756	cal	BP	4,753	-	4,706	0.106
		cal	BC	2,720	-	cal	BC	2,704	cal	BP	4,670	-	4,654	0.015
816	3,906±33	cal	BC	2,466	-	cal	BC	2,398	cal	BP	4,416	-	4,348	0.645
		cal	BC	2,384	-	cal	BC	2,346	cal	BP	4,334	-	4,296	0.355
		cal	BC	2,473	-	cal	BC	2,293	cal	BP	4,423	-	4,243	1.000
		cal	BC	2,831	-	cal	BC	2,821	cal	BP	4,781	-	4,771	0.063
		cal	BC	2,630	-	cal	BC	2,564	cal	BP	4,580	-	4,514	0.612
		cal	BC	2,533	-	cal	BC	2,494	cal	BP	4,483	-	4,444	0.325
821	4,057±35	cal	BC	2,848	-	cal	BC	2,813	cal	BP	4,798	-	4,763	0.086
		cal	BC	2,471	-	cal	BC	2,732	cal	BP	4,421	-	4,682	0.008
		cal	BC	2,693	-	cal	BC	2,688	cal	BP	4,643	-	4,638	0.004
		cal	BC	2,679	-	cal	BC	2,475	cal	BP	4,629	-	4,425	0.902
		cal	BC	2,620	-	cal	BC	2,603	cal	BP	4,570	-	4,553	0.136
		cal	BC	2,601	-	cal	BC	2,561	cal	BP	4,551	-	4,511	0.359
822	4,044±32	cal	BC	2,536	-	cal	BC	2,492	cal	BP	4,486	-	4,442	0.505
		cal	BC	2,834	-	cal	BC	2,818	cal	BP	4,784	-	4,768	0.038
		cal	BC	2,663	-	cal	BC	2,647	cal	BP	4,613	-	4,597	0.025
		cal	BC	2,636	-	cal	BC	2,474	cal	BP	4,586	-	4,424	0.937
		cal	AD	1,696	-	cal	AD	1,725	cal	BP	254	-	225	0.306
		cal	AD	1,814	-	cal	AD	1,835	cal	BP	136	-	115	0.218
833	89±28	cal	AD	1,846	-	cal	AD	1,850	cal	BP	104	-	100	0.041
		cal	AD	1,877	-	cal	AD	1,917	cal	BP	73	-	33	0.428
		cal	AD	1,952	-	cal	AD	1,953	cal	BP	2	-	3	0.007
		cal	AD	1,688	-	cal	AD	1,730	cal	BP	262	-	220	0.269
		cal	AD	1,809	-	cal	AD	1,926	cal	BP	141	-	24	0.725
		cal	AD	1,951	-	cal	AD	1,954	cal	BP	-1	-	-4	0.005

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、历年較正曲線や历年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

4) 統計的に真の値が入る確率は  $\sigma$  は 68%、 $2\sigma$  は 95% である

5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$  のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

表3 種実定結果

No	遺構名	層位	分類群	部位	状態
830	SI01	Q3 複土上層	コナラ属	子葉	破片(半分)炭化
831	SK08	3~4層	コナラ属コナラ亜属	子葉	破片(半分)炭化

## VII 総括

ここでは、八木沢Ⅱ遺跡の調査成果について時代ごとに概観し、総括する。八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡の調査成果については、第V章（P96～97）を参照されたい。

### 1 遺構

#### （1）縄文

縄文時代の遺構として、竪穴住居跡4棟、竪穴状遺構2棟、陥し穴状遺構6基、土坑（貯蔵穴）7基、土器埋設遺構2基などが検出された。

##### a 竪穴住居跡・竪穴状遺構

4棟の竪穴住居跡及び2棟の竪穴状遺構は、いずれも調査区北端から検出された。標高87m前後の尾根上の緩斜面を利用して築かれており、平面形は円形基調と推測される。柱穴の配置は不規則なものが多く、周溝は伴っていない。炉はSI01・02が地床炉、SI03が石開炉である。時期は、出土遺物からSI01・02は中期末葉、SI03・06は中期中葉、SK101・02は中期中葉から後葉と考えられる。遺構間の重複が多いが、やせ尾根上で限られた緩傾斜を意図的に選んでいるために同地点に繰り返し構築されたと考えられる。

##### b 貯蔵穴

貯蔵穴とみられる定形的な土坑7基が、尾根上で住居跡と近接もしくは重複して検出された。SI01の炉を切って構築されたSK07と、SI01に切られるSK08は、開口部より底面が広い断面フラスコ状を呈する形状であるが、その他は壁がほぼ直立て立ち上がる断面がピーカー状を呈している。底部に溝などの付属施設は伴わない。時期は、出土遺物が少ないために得られた情報が少ないので、遺構の重複関係やC14年代測定の分析結果などから、住居跡とほぼ同じ中期中葉から末葉に収まるものと考えられる。

##### c 土器埋設遺構

尾根上から土器埋設遺構が2基検出された。SZ02は正立、SZ04は斜位に土器が埋設されていた。SZ02はSI01を切って構築されており、時期的には中期末葉以降と考えられる。SZ04は遺構の切り合い関係は無いが、埋設土器に使われた上器から、時期は中期後葉以降の可能性があるものと推測される。

##### d 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は6基検出された。そのうちの5基がIV～V・D～Eグリッドの谷部である平坦面から検出された。形状は溝状と橢円形のものがあり、底面に副穴を持つものと持たないものがある。

（八重畠）

#### （2）古代

古代の竪穴住居跡が2棟検出された。ここでは、竪穴住居跡の特徴についてまとめる。

竪穴住居跡は、北尾根の裾に当たる標高60m前後の緩い東斜面に構築されている。平面形・規模は、一辺3.19～3.71mほどで、方形基調と推測される。壁・床面は、IV層面を掘り込んで構築されている。覆土は、自然堆積の様相を呈しているが、詳細は不明である。柱穴は確認できておらず、配置も不明である。カマドは、斜面上方の西側に造られ、一辺の中央付近より一方の隅に偏った位置に設けられている。煙道は割り貫き式である。時期は、出土遺物から平安時代9世紀中頃と考えられる。

### (3) 現代

現代の遺構として、炭窯跡2基と土取り穴が確認された。ここでは炭窯跡の特徴についてまとめる。2基の炭窯は、調査区南端の埋没沢に向かう南向きの標高45m前後の緩斜面を利用して、少し場所を移動して構築されている。炭窯の構築方法は、地山を掘り込んで窯の本体にあたる部分を構築し、排煙口を北側の斜面上方、焚口を南側の斜面下方に設けている。平面形は焚口側がすぼまる長い卵形である。規模は、SW01炭窯跡は、長軸285cm×短軸201cm、床面積は約4.465m<sup>2</sup>、SW02炭窯跡は、長軸194cm×短軸147cm、床面積は約2.162m<sup>2</sup>、SW02炭窯からSW01炭窯に移行する際に床面積が約2倍の大きさに造り替えられている。排煙口は、傾斜などの工夫はみられず、床面と同じ高さで設けられており、窯との間仕切りには鉄板・レンガなどが用いられている。煙道の上部には、土管が用いられていたと推測される。排水・防湿・保溫などを目的とした炭窯に伴う周溝や下部に板材を敷くなどの付属施設は確認できていない。

今回、調査したSW01・02炭窯跡は、黒炭を焼いた炭窯と思われる。生産された炭の量は、床面積から判断して、…俵約15kgで20俵前後で、ナラ炭をつくったものと推定される。聞き取り調査から得られた炭窯が機能していた1950年代という時期から類推できる炭窯の型式は「岩手窯」又は「岩手1号窯」である。今回調査された炭窯跡は、いずれかの型式の炭窯と考えられる（註1）。（阿部）

## 2 遺物

### (1) 繩文

土器は、大コンテナで4箱、総重量53,155.5gの縄文土器が出土している。出土地点の分布をみると、遺構内では、堅穴住居跡・堅穴状遺構から9,495.3g (18%)、土坑から3,243.3g (6%)、遺構外では、ⅢBグリッド(尾根上・遺構外)から19,199.4g (36%)、ⅣBグリッド(谷頭・遺構外)から6,024.5g (11%)で、出土した縄文土器の多くは、堅穴住居跡や貯蔵穴などの遺構が集中する4区尾根上とその北斜面・南斜面(3区谷頭を含む)から出土している。時期は、主に中期中葉から末葉に収まる。特に末葉に比定される大木10式土器が、全体の約3分の1を占める。これらの出土土器は、覆土中からの破片資料が多く、住居の埋没する過程のなかで廃棄もしくは流れ込んだものと考えられる。

土製品は、きのこ形土製品、棒状の土製品が出土している。出土地点から中期と考えられる。石器は、掲載した44点中22点(50%)が磨石で、SI06を除くすべての堅穴住居跡・堅穴状遺構から出土している。石材は花崗閃緑岩と安山岩が多く用いられている。また、石鎚・石錐などの剥片石器では、頁岩が多く使用されている。石製品は、砂岩でつくられた大形の石棒が出土している。

(八重畠)

### (2) 古代

9世紀中ごろの土師器がSI05から出土している。器種は甕・壺である。

### (3) 現代

炭窯の構築に用いられた遺物として、鉄板・レンガ・土管、他にビール瓶、船釘が確認された。

(阿部)

### 3 まとめ

八木沢Ⅱ遺跡は、八木沢川に北西側から合流する支流によって形成された低地と、その南側に位置する山地上に立地する。遺跡全体は、尾根部と谷部が連続する地形で、北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。標高49~90mで、遺跡の現況は山林・畠地である。

検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡4棟、古代の竪穴住居跡2棟、竪穴状遺構2棟、陥し穴状遺構6基、土坑24基、焼土遺構2基、土器埋設遺構2基、溝跡7条、現代の炭窯跡2基である。

縄文時代の遺構は、北端の尾根上の先端部に立地する。特に竪穴住居跡と貯蔵穴と考えられる大形の土坑は、標高85m以上の尾根上の平坦面から南斜面につくられている。尾根の南側と北側が埋没沢となって落ち込んでおり、南側は、現在も湧水が確認できる。水の確保が比較的容易で、日当たりの良い高台に占地したものであろう。現況から判断して、居住域は、調査区域外の西側の尾根伝いに広がる可能性がある。陥し穴状遺構と占地が異なることも注意される。古代の竪穴住居跡は、北側の尾根の裾部に占地している。縄文時代より占地場所が下ることの理由は、環境の変化と生業との関わりがあるのかもしれない。今回の調査では明らかではないが、古代においては、水田や畠地など、より広い生業の場に隣接して集落が設けられていた可能性がある。さらに、現代における人々の生活域は八木沢川沿いに移動しているが、当地では炭窯が設けられて生業が営まれていたようである。

出土遺物は、縄文土器、弥生土器、上師器、上製品、石器、石製品、鉄製品、陶磁器、ガラス製品、炭化種実、炭化材などが出上している。総量は大コンテナ(30×40×30cm)5箱である。

縄文土器は、前期・中期のものが出土しており、中期末葉が主体である。土師器は9世紀代である。

土製品は、きのこ形土製品、棒状の土製品など縄文時代のものが出土している。

石器は、石鏸・石錐・楔形石器・不定形石器などの剥片石器、磨石・凹石・台石などの礫石器が出土している。石製品は、石棒が出土している。

陶磁器は、18世紀代・19世紀代のものが出土している。鉄製品は、板状の製品が出土している。炭窯に関連する現代のものである。ガラス製品は、ビール瓶が出土している。

#### おわりに

今回の調査で、八木沢Ⅱ遺跡は、縄文時代の集落跡と狩り場、古代の集落跡であることが明らかになった。遺構・遺物とも量的にそれほど多くはないが、時代により遺構の占地が異なるなど貴重な資料を得ることができた。今後は、周辺遺跡の調査成果と合わせて、当該地域の遺構の立地について、さらに検討していくことが課題となる。

(阿部)

#### 註

- (1)「岩手1号窯」は、1950年佐々木半助によって考案された炭窯で、「岩手窯」は、昭和31年に協会の指導窯として考案された炭窯である。「岩手窯」の特徴は、窯底径は、「奥行きを定め後部は奥行きの7割5部の大円、前部は5割の小円を描き、この点を通じて内円に接する円曲線を描いて、卵型とする。」(岩手県木炭協会 1991『岩手窯の業』)とされている。この窯底径の比率(規徴:長径=0.75)は、SW01(201÷285=0.70)・SW02(147÷194=0.75)の窯底径の比率とはほぼ一致する。よって形状からSW01・02炭窯跡は、「岩手窯」の可能性が高い。

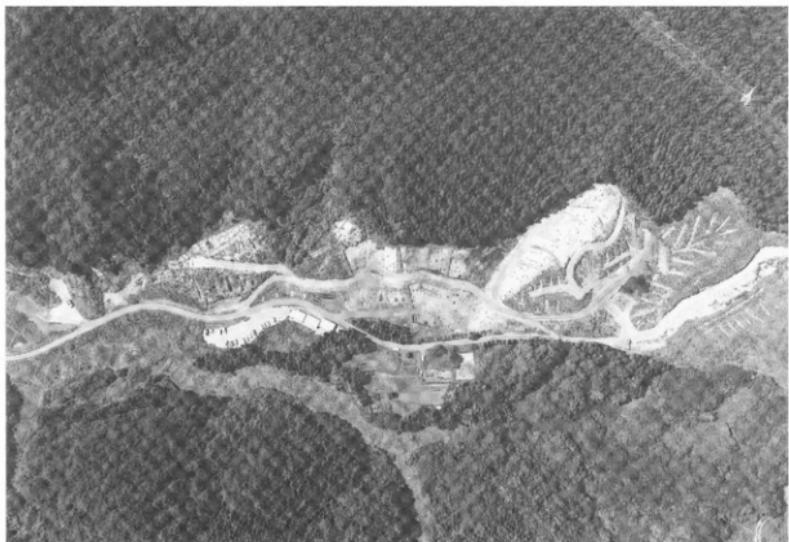
#### 引用・参考文献

島山 剛 2003『炭焼きの二十世紀—書置きとしての歴史から未来へ』彩流社

# 写 真 図 版



調査区 遺跡（南から）



調査区 全景（東から）



遺跡 現況（西から）



遺跡 現況（南から）



T263~272 平面（北から）



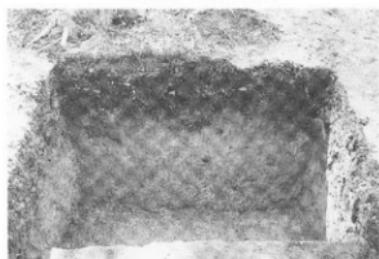
T255・272~279 平面（東から）



4区尾根部 全景（南から）



3区谷部 全景（北から）



1区尾根部基本土層② 断面（東から）



4区尾根部基本土層⑤ 断面（東から）

写真図版 2 遺跡(2)：調査前現況・基本土層



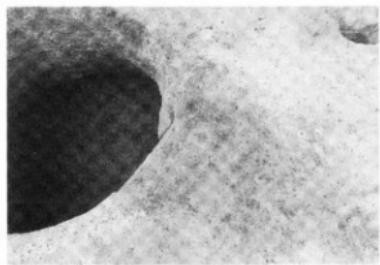
SI01 平面（東から）



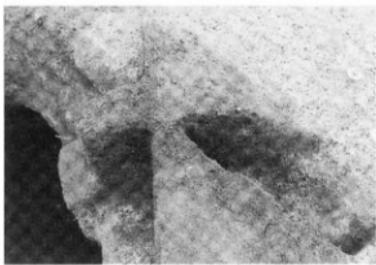
SI01 断面 A-A'（東から）



SI01 断面 B-B'（南から）



SI01-炉 平面（南から）



SI01-炉 断面K-K'（南から）

写真図版 3 積穴住居跡(1) : SI01



SI02 平面 (東から)



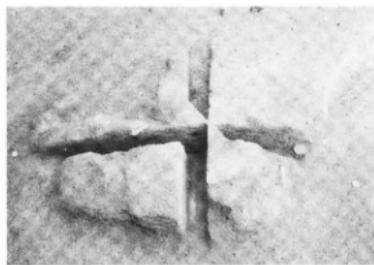
SI02 断面A-A' (東から)



SI02 断面B-B' (北から)



SI02 炭化材出土状況 (西から)

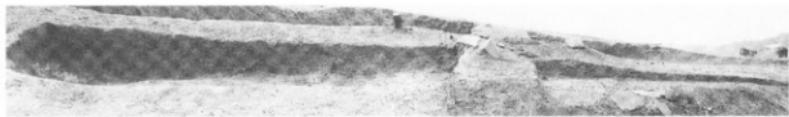


SI02-1炉 断面H-H' (東から)

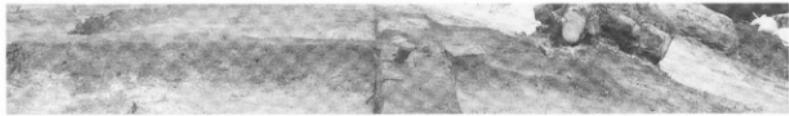
写真図版 4 壁穴住居跡(2) : SI02



SI03 平面 (東から)



SI03 断面A-A' (南から)



SI03 断面B-B' (西から)

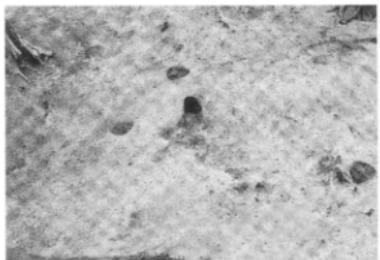


SI03-石圓炉 断面 (東から)



4区 作業風景

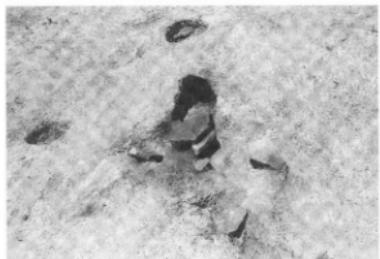
写真図版5 堪穴住居跡(3): SI03



SI04 平面 (東から)



SI04-カマド 平面 (櫛除去後) (東から)



SI04-カマド 平面 (東から)



SI04-カマド 断面F-F'① (東から)



SI04-煙出 断面G-G' (南から)



SI04-カマド煙道 断面G-G' (南から)



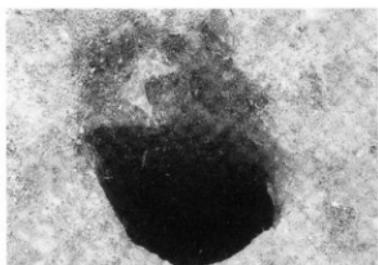
SI05 断面A-A' (東から)



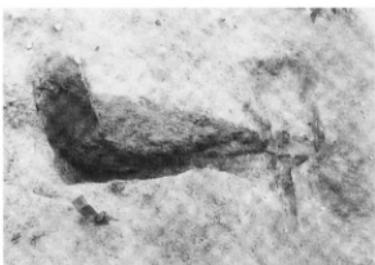
SI05 断面B-B' (南から)



SI05 平面 (東から)



SI05—カマド煙出 断面E—E' (南から)



SI05—カマド煙道 断面E—E' (南から)



SI05—カマド 断面D—D' ① (東から)

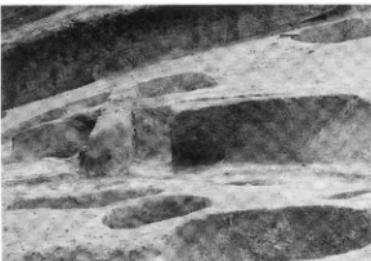


SI05—カマド 断面D—D' ② (東から)

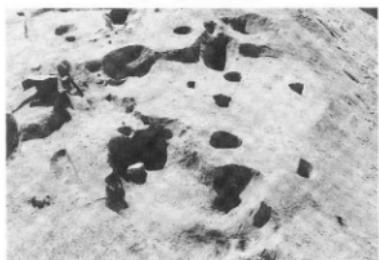
写真図版 7 積穴住居跡(5) : SI05(2)



SI06 平面 (東から)



SI06 断面A-A' (東から)



SK101 平面 (東から)



SK101 断面A-A' (東から)



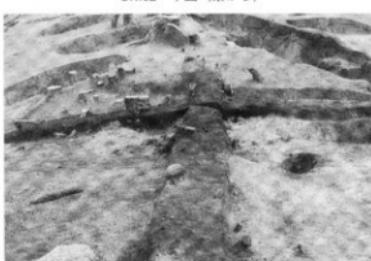
SK101 断面B-B' (南から)



SK102 平面 (東から)



SK102 断面A-A' (南から)

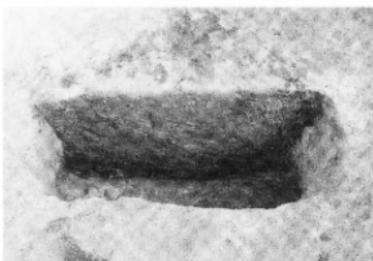


SK102 断面B-B' (東から)

写真図版 8 壁穴住居跡(6) : SI06、壁穴状遺構 : SK101・02



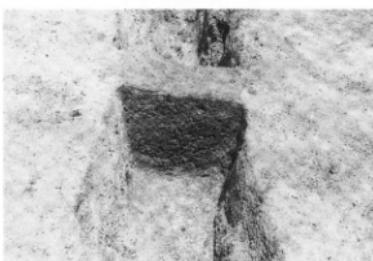
SK02 平面 (北から)



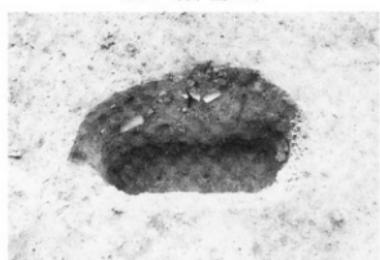
SK02 断面 (北から)



SK14 平面 (南から)



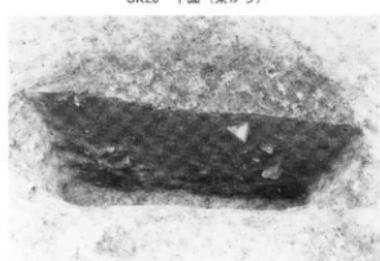
SK14 断面 (南から)



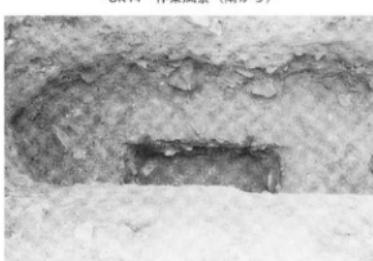
SK20 平面 (東から)



SK14 作業風景 (南から)



SK20 断面A-A' (東から)

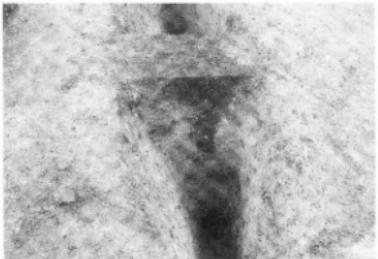


SK20-副穴 断面B-B' (南から)

写真図版 9 陥し穴状造構(1) : SK02・14・20



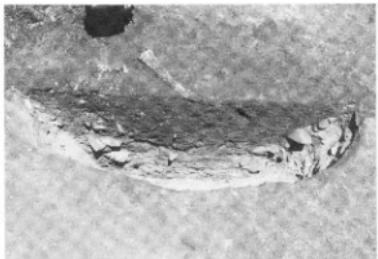
SK22 平面 (南から)



SK22 断面 (南から)



SK25 平面 (南から)



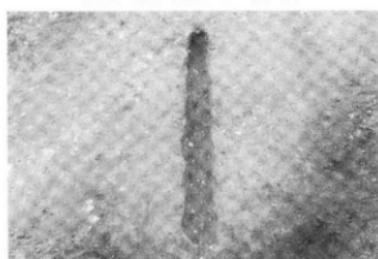
SK25 断面A-A' (南から)



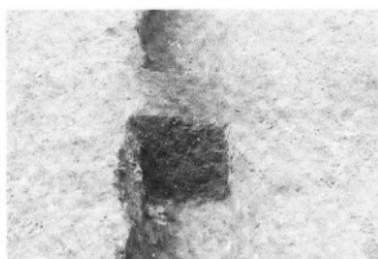
SK25-副穴 断面B-B' (南から)



現地説明会の様子



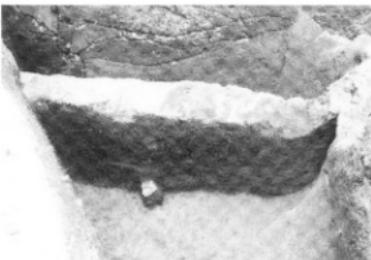
SK30 平面 (東から)



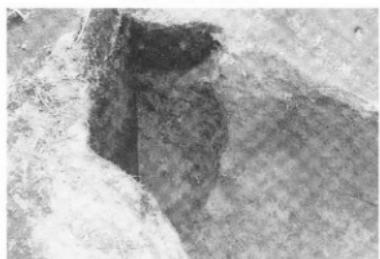
SK30 断面 (東から)



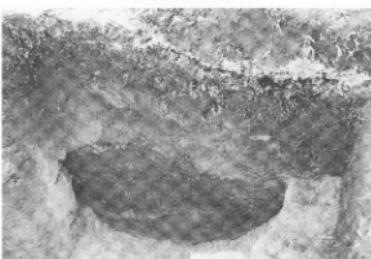
SK01 平面 (南から)



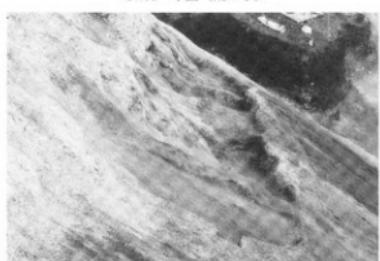
SK01 断面 (南から)



SK03 平面 (南から)



SK03 断面 (東から)



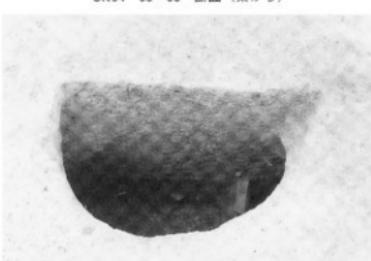
SK04・05・06 平面 (南から)



SK04・05・06 断面 (東から)



SK07 平面 (南から)

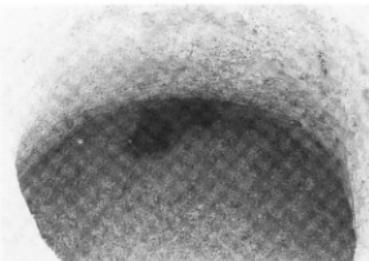


SK07 断面 (南から)

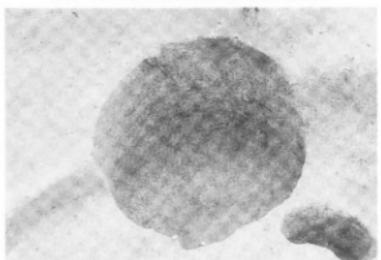
写真図版11 土坑(1) : SK01・03~07(1)



SK07 土器 (P1 : No.35) 出土状況 (南から)



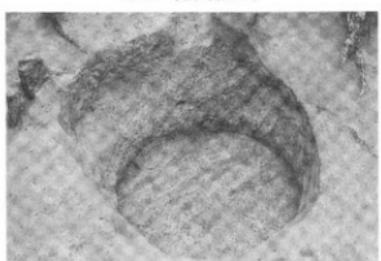
SK07 土器 (P2 : No.34) 出土状況 (東から)



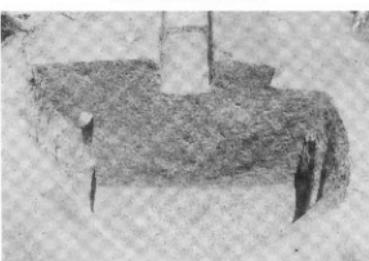
SK08 平面 (東から)



SK08 断面 (南東から)



SK09 平面 (南から)



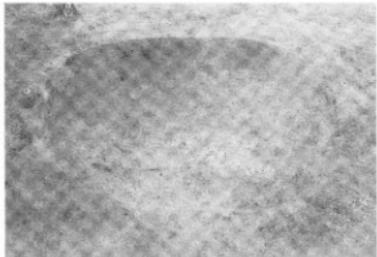
SK09 断面 (南から)



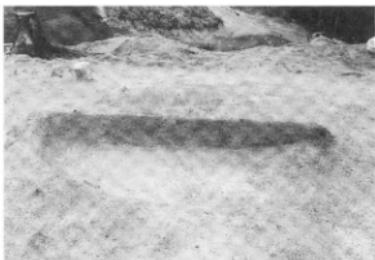
SK10 平面 (南から)



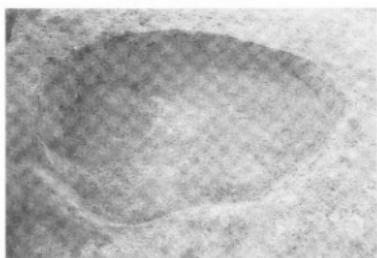
SK10 断面 (東から)



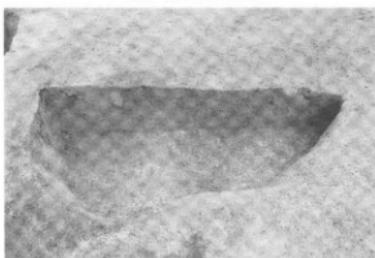
SK11 平面 (南から)



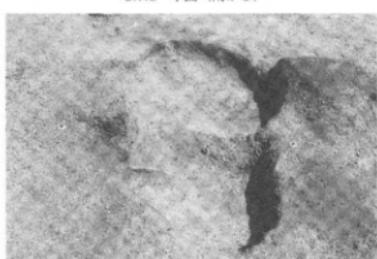
SK11 断面 (南から)



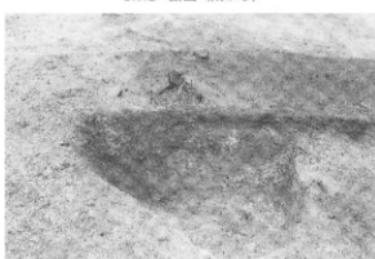
SK12 平面 (南から)



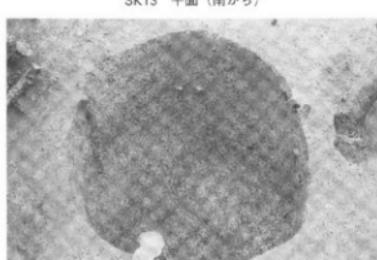
SK12 断面 (南から)



SK13 平面 (南から)



SK13 断面 (南から)



SK15 平面 (南から)



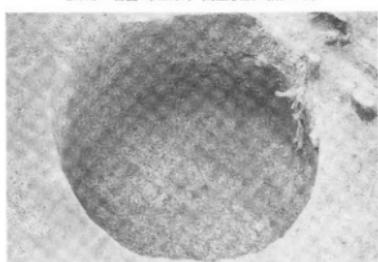
SK15 断面 (南から)



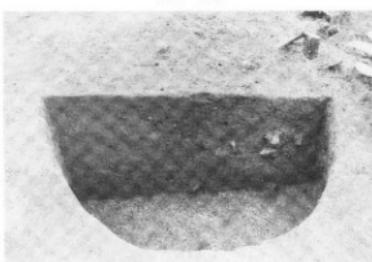
SK15 石器 (No.187) 出土状況 (南から)



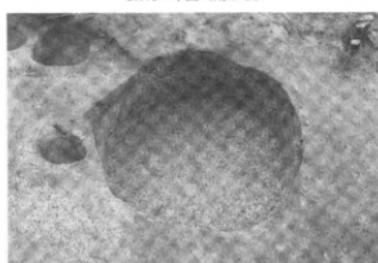
4区 全景



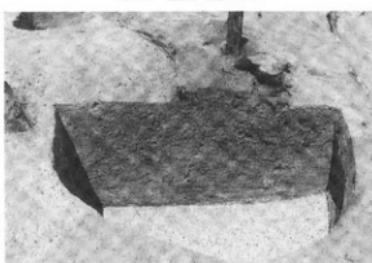
SK16 平面 (南から)



SK16 断面 (南から)



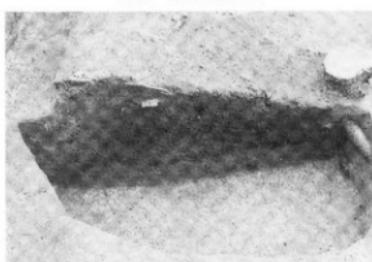
SK17 平面 (南から)



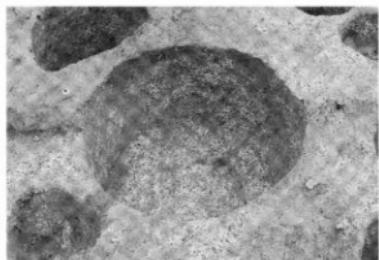
SK17 断面 (南から)



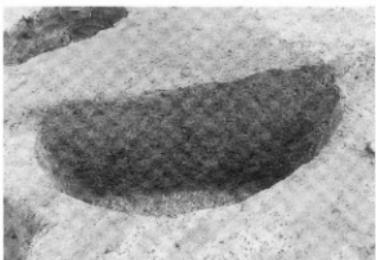
SK18 平面 (南から)



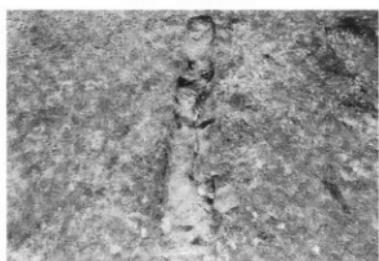
SK18 断面 (南から)



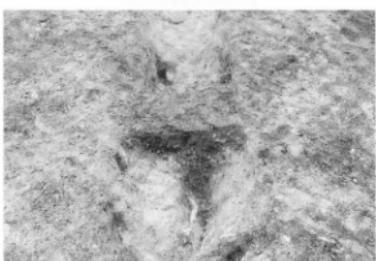
SK19 平面 (東から)



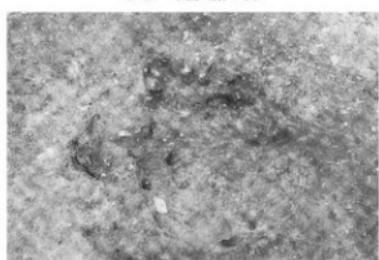
SK19 断面 (東から)



SK21 平面 (東から)



SK21 断面 (東から)



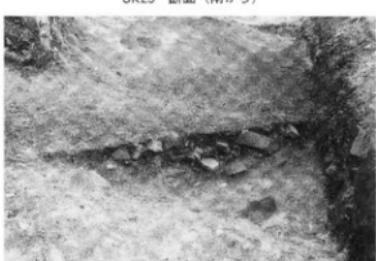
SK23 平面 (南から)



SK23 断面 (南から)



SK24 平面 (南から)



SK24 断面 (南から)



SK26 平面 (北から)



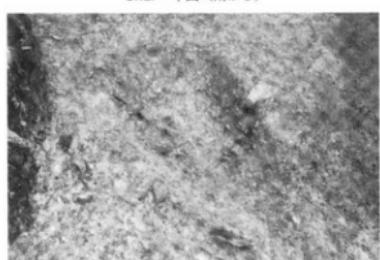
SK26 断面 (西から)



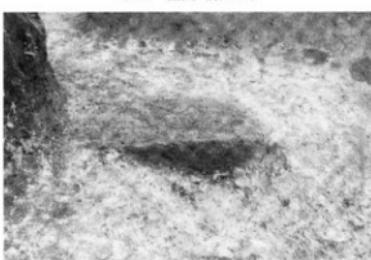
SK27 平面 (南から)



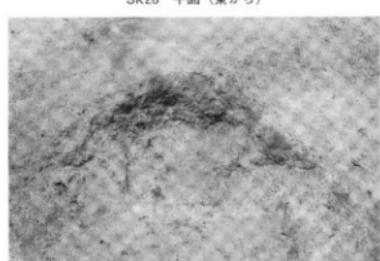
SK27 断面 (東から)



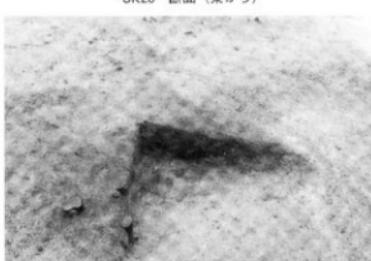
SK28 平面 (東から)



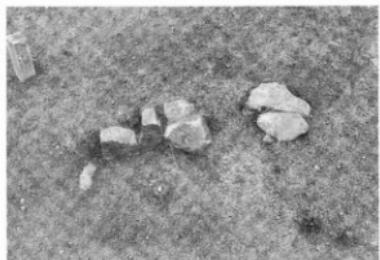
SK28 断面 (東から)



SK29 平面 (南から)



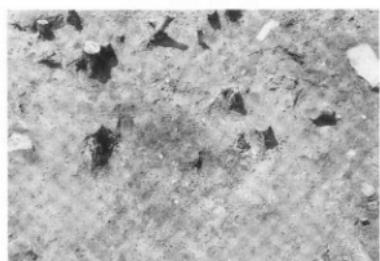
SK29 断面 (南から)



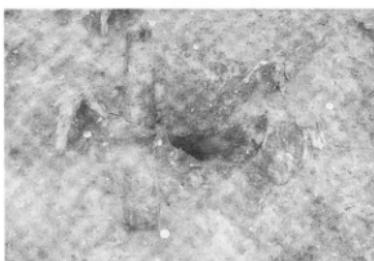
SN01 平面 (東から)



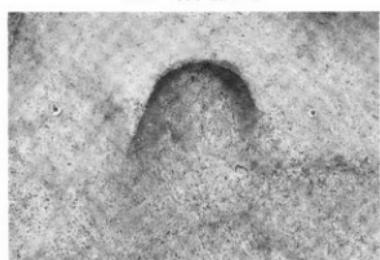
SN01 断面 (南から)



SN02 平面 (東から)



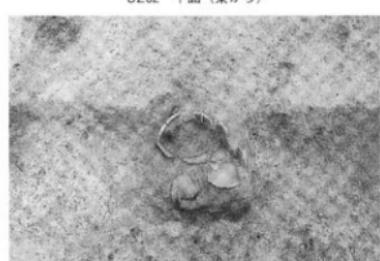
SN02 断面 (南から)



SZ02 平面 (東から)



SZ02 断面 (東から)



SZ04 平面 (東から)



SZ04 断面 (南から)

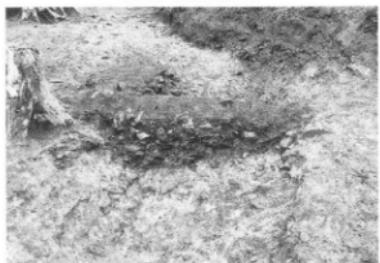
写真図版17 焼土遺構：SN01・02、土器埋設遺構：SZ02・04



SD01 平面 (東から)



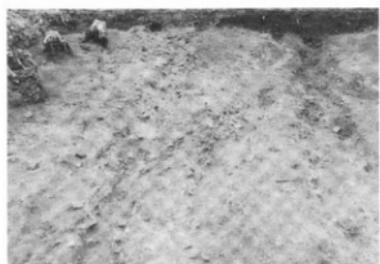
SD01 平面 (東から)



SD01 断面A-A' (東から)



SD04・05 作業風景 (東から)



SD02・03・04・05 平面 (東から)



SD02・03・04・05 平面 (東から)



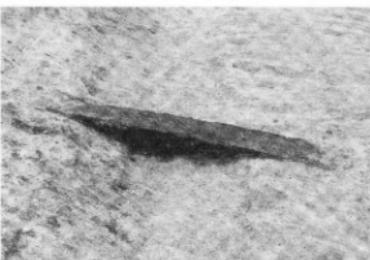
SD03 断面B-B' (東から)



SD04・05 断面B-B' (東から)



SD09 平面 (南から)



SD09 断面A-A' (東から)



SD09 断面C-C' (南から)



SD09 断面D-D' (南から)



SD09 葦出土状況 (南から)



2区東側 平面 (南から)



現地説明会の様子



現地説明会の様子

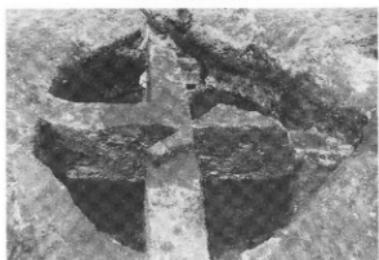
写真図版19 溝跡(2) : SD09



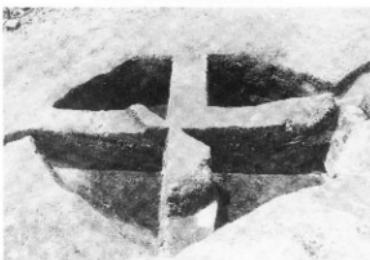
SW01 平面 (南から)



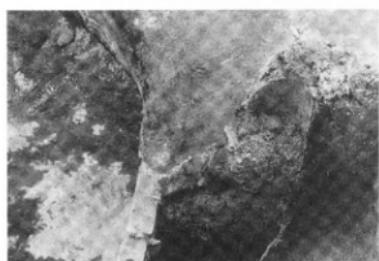
SW01—煙道 側面 (南から)



SW01 断面A-A' ① (南から)



SW01 断面B-B' ① (東から)



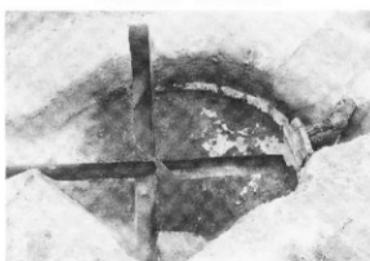
SW01—煙道 断面 (東から)



SW01—煙道 平面 (東から)



SW01 断面A-A' ② (南から)



SW01 断面B-B' ② (東から)



SW01 岩化材出土状況 (南から)



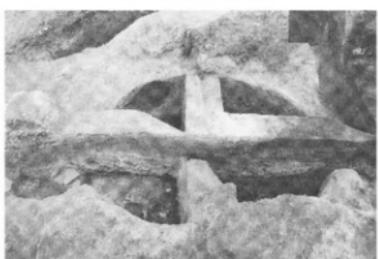
SW01 作業風景 (南東から)



SW02 平面 (南東から)



SW02-煙道部 平面 (南東から)



SW02 断面A-A' ① (北東から)



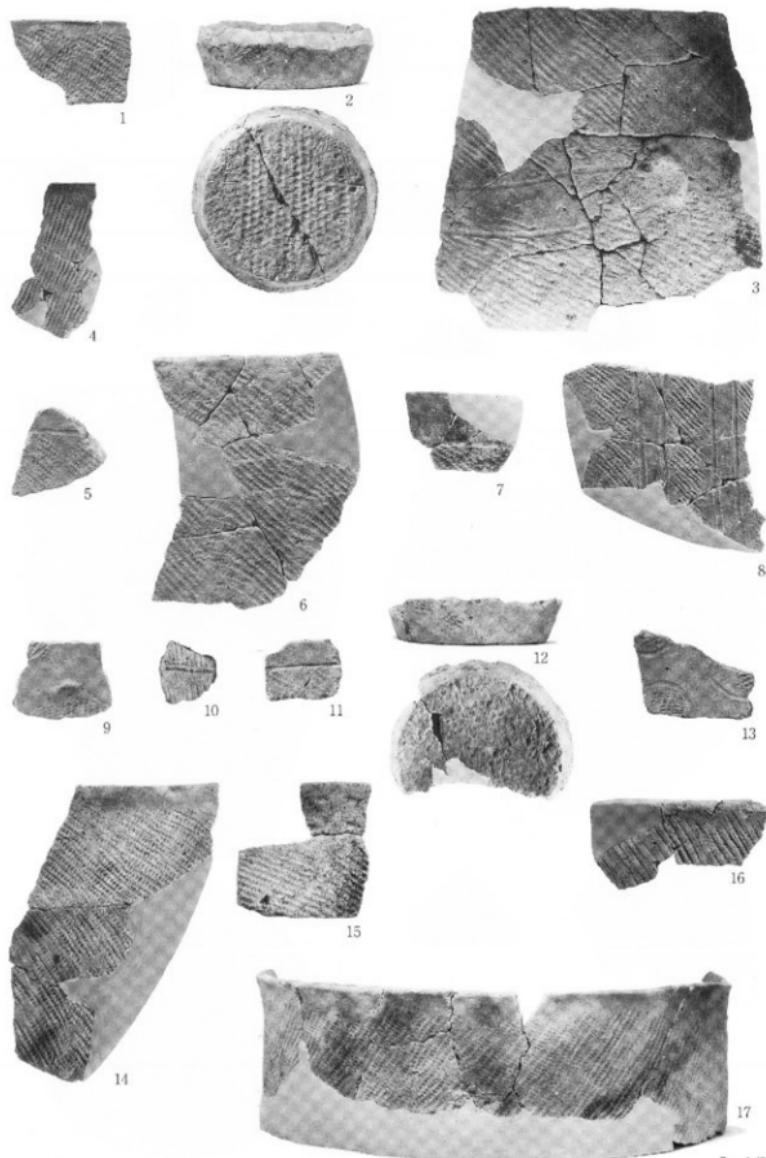
SW02 断面B-B' ① (南東から)



SW02 断面B-B' ② (南東から)

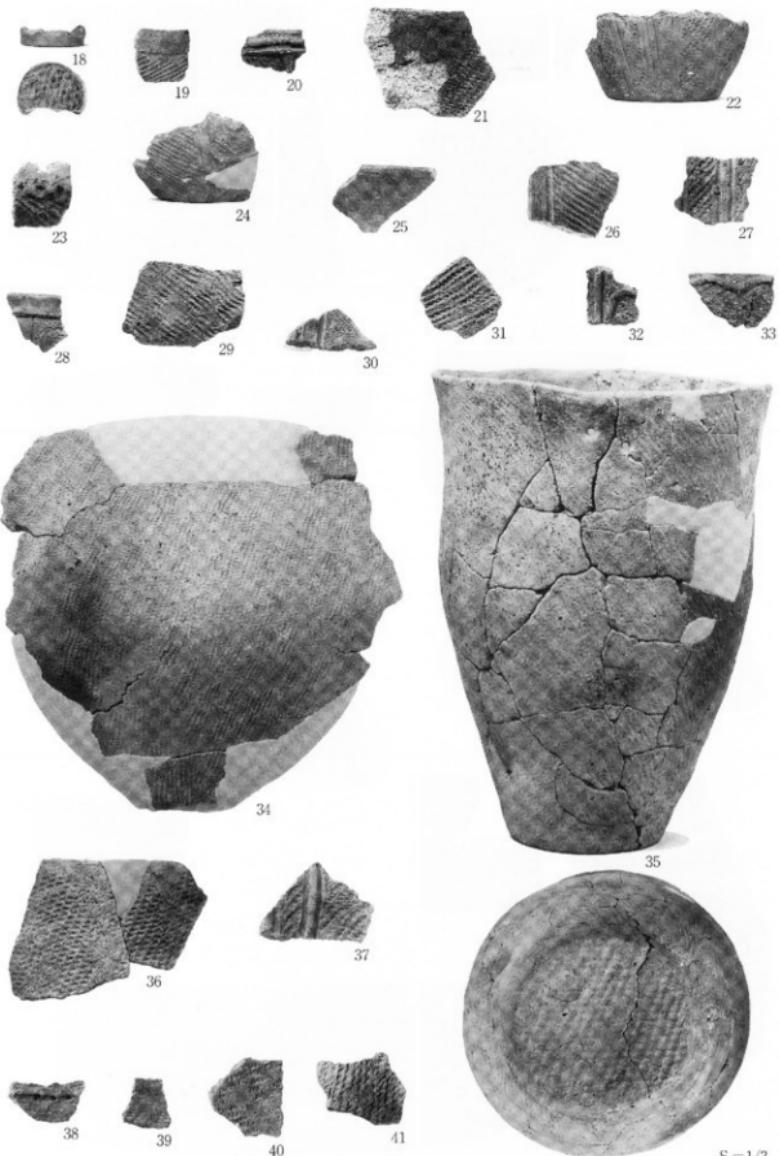


SW02-煙道部 平面 (南東から)

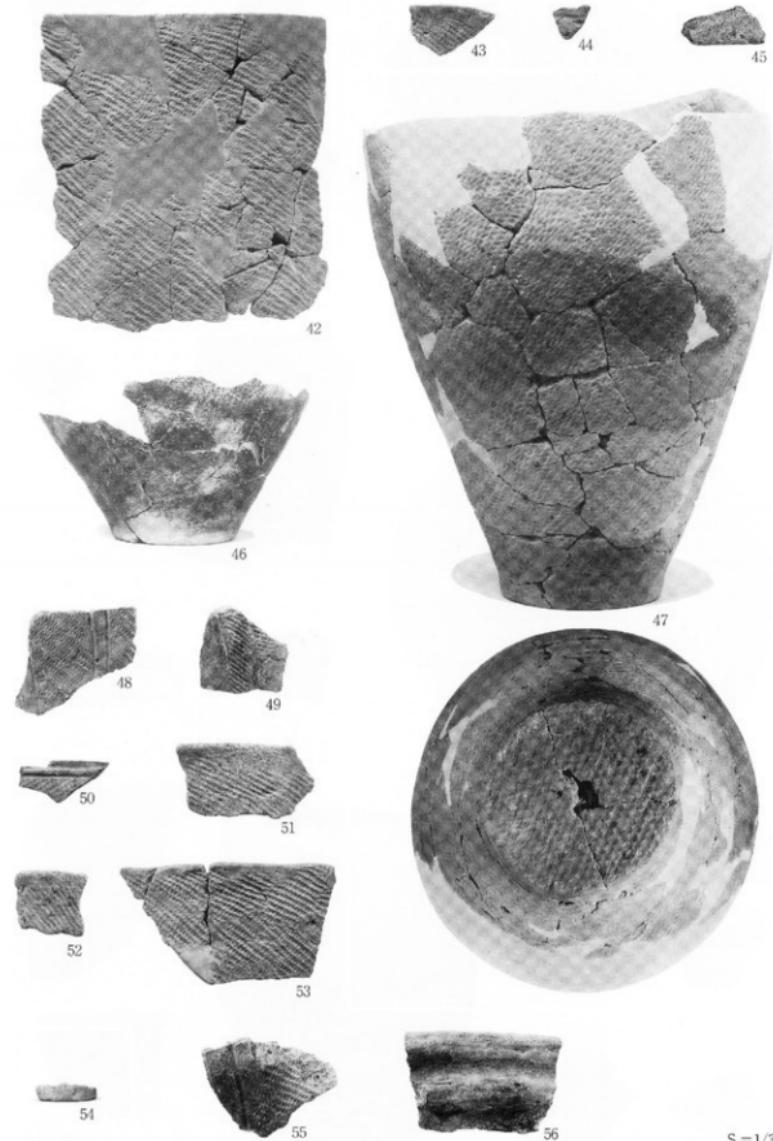


写真図版22 土器(1)

-133-

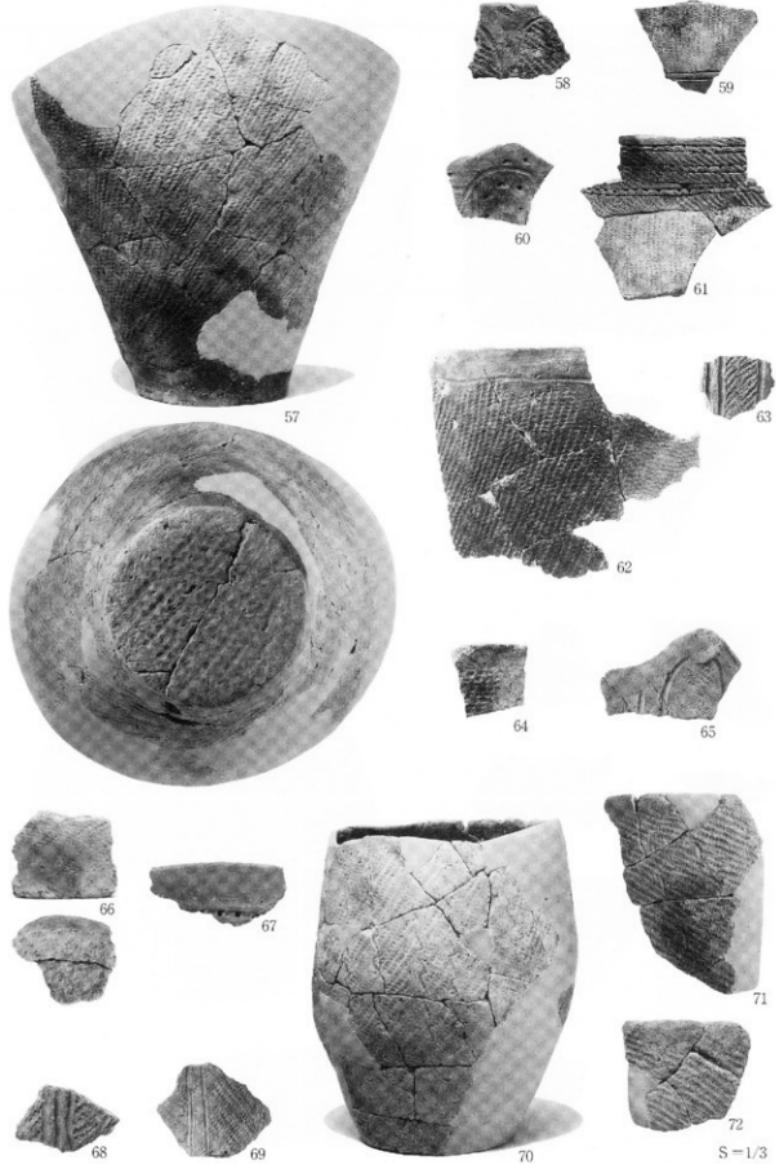


写真図版23 土器(2)

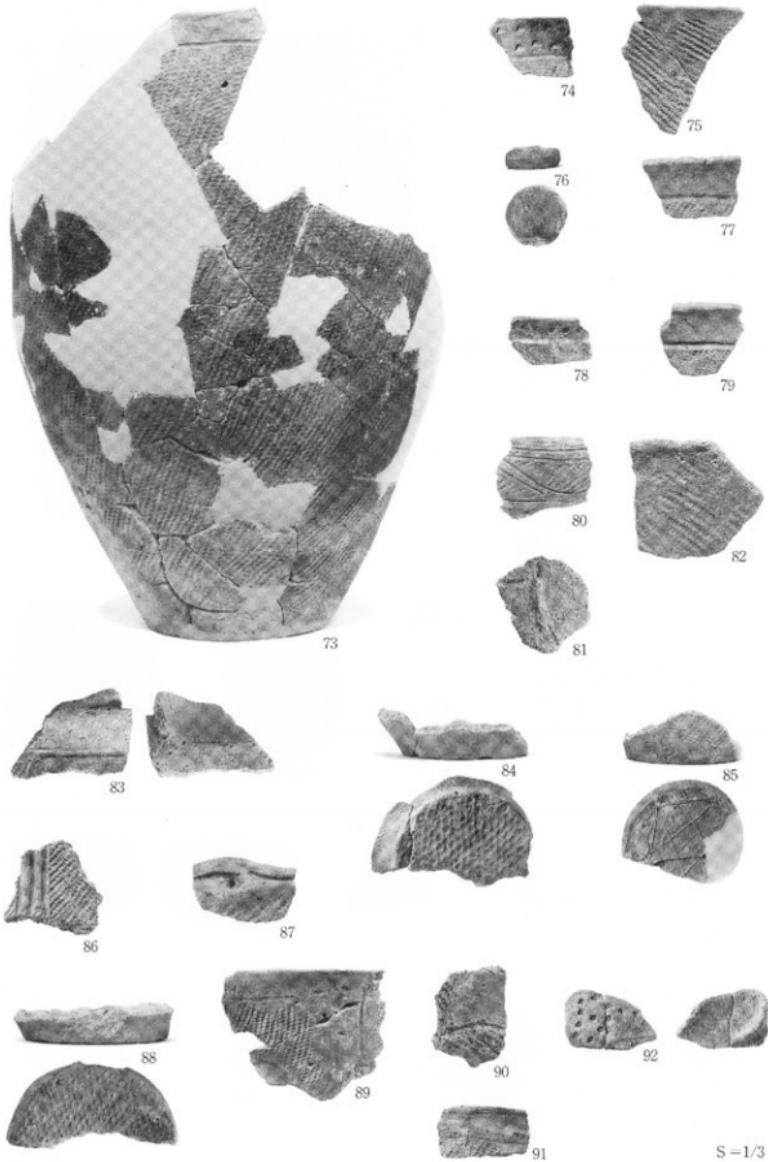


S = 1/3

写真図版24 土器(3)

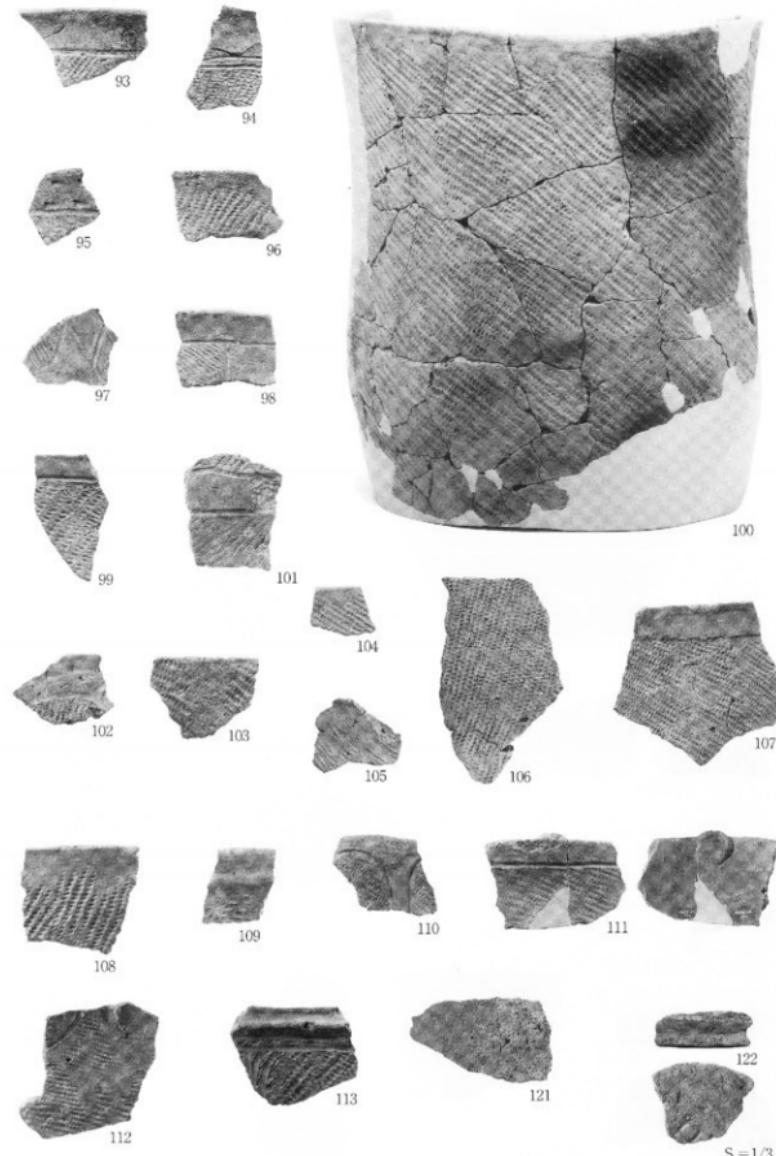


写真図版25 土器(4)



S = 1/3

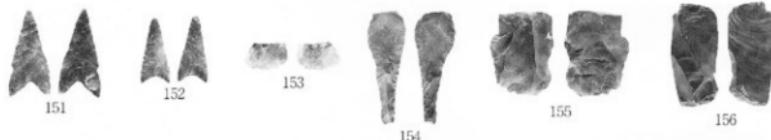
写真図版26 土器(5)



写真図版27 土器(6)



写真図版28 土器(7)・土製品



S = 1/2



S = 1/3

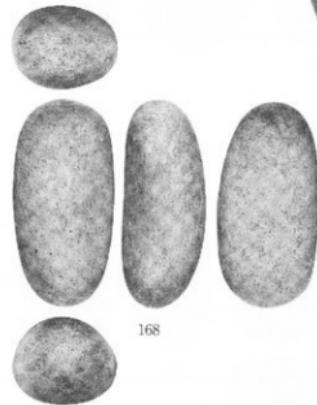
写真図版29 石器(1)



166



167



168

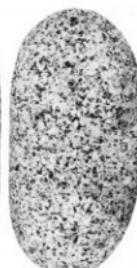


170



169

S = 1/3



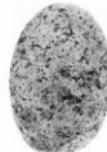
173



171



172



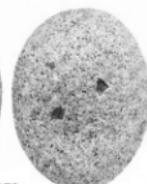
175



174



176



177

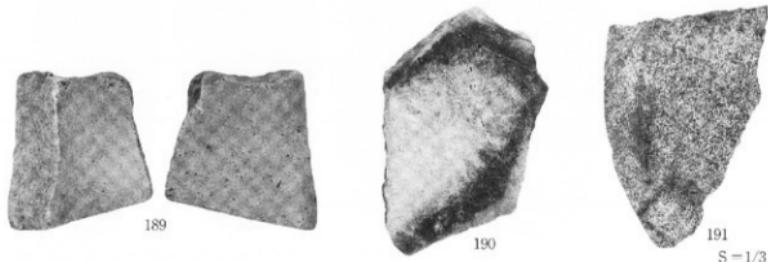
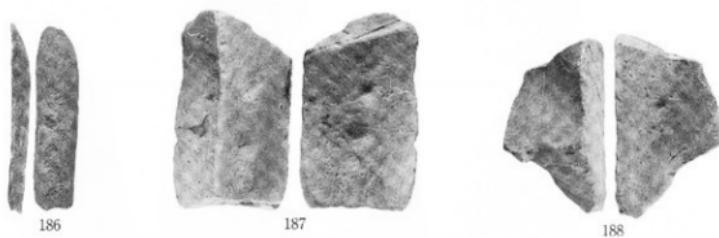
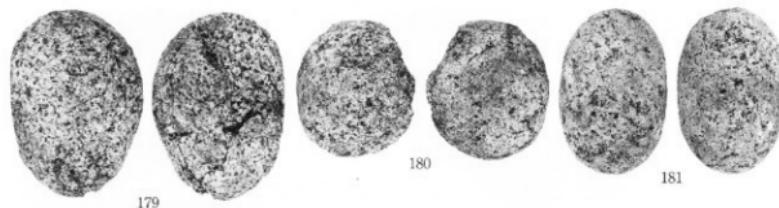


178



S = 1/3

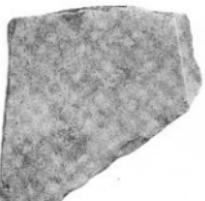
写真図版31 石器(3)



写真図版32 石器(4)



192



193



194



201



202

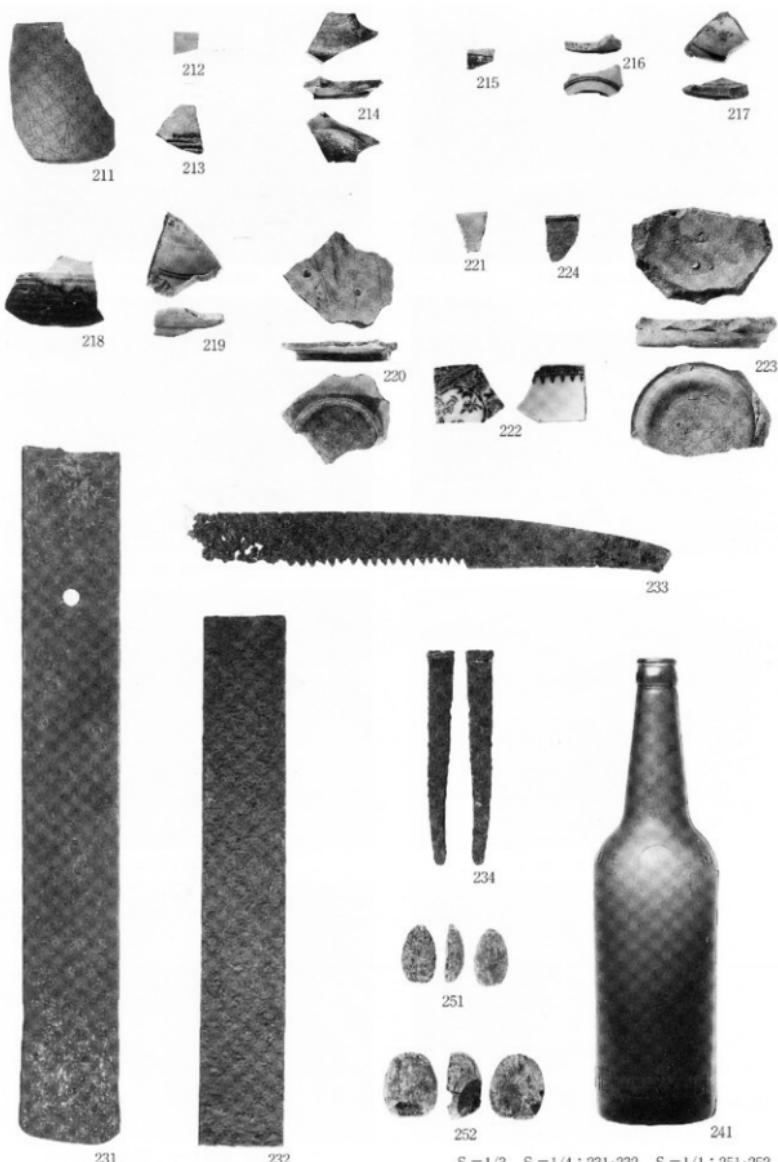
S = 1/3 S = 1/2 : 201 S = 1/6 : 202



敲打痕拡大



202



写真図版34 陶磁器・鉄製品・ガラス製品・炭化種実



調査区の全景（南から）



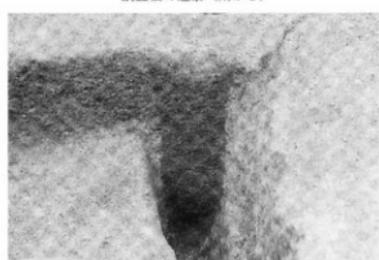
調査前の近景（北から）



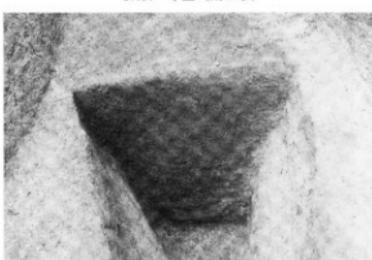
調査後の近景（南から）



SK01 平面（南から）



SK01 断面A-A'（南から）



SK01 断面B-B'（南から）



SK02 平面（南から）



SK02 断面A-A'（南から）

写真図版35 遺跡：調査区全景、陥れ穴状構造：SK01、土坑：SK02

## 報告書抄録

ふりがな	やぎさわいせき・やぎさわらんとのさわいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書						
副書名	三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査						
巻次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第328集						
編著者名	阿部勝則・八重輝ちか子						
編集機関	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日	2008年12月26日						
所収遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度分 秒	東經 度分 秒	調査期間	面積面積 調査原因	
八木沢Ⅱ遺跡	岩手県宮古市 大字八木沢第 3地割字中村 129ほか	03202 LG43-0206	39度 37分 15秒	141度 55分 42秒	2007.04.12 ~ 2007.08.10	7,500m <sup>2</sup> 三陸縦貫自動車 道宮古道路建設 事業に伴う緊急 発掘調査	
八木沢ラント ノ沢Ⅰ遺跡	岩手県宮古市 大字八木沢第 8地割字駒込 7-1ほか	03202 LG43-0279	39度 36分 53秒	141度 56分 51秒	2007.10.09 ~ 2007.10.25	700m <sup>2</sup> 三陸縦貫自動車 道宮古道路建設 事業に伴う緊急 発掘調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
八木沢Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代 古代 現代	竪穴住居跡 竪穴状遺構 土坑 焼土遺構 竪穴住居跡 炭灰跡	4棟 2棟 6基 24基 2基 2基 2基	縄文土器 土製品 石器 石製品 陶磁器 鐵製品	大コンテナ4箱 8点 44点 2点 14点 4点	縄文時代中期中葉～末葉の集落跡
八木沢ラント ノ沢Ⅰ遺跡	狩場跡	縄文時代	陥し穴状遺構 土坑	1基 1基	なし		
要約	八木沢Ⅱ遺跡は、連續する尾根部と谷部、また八木沢川の支流が形成した低地からなる。縄文時代は、調査区北側の尾根上に竪穴住居跡や貯藏穴を構築して居住の場とし、低地には陥し穴をつくっていた。古代には綾糸面部に竪穴住居跡が発見されており、調査区南側の尾根の中腹では、現代の貯藏路が検出された。この遺跡では、縄文時代から現代まで、多岐にわたる時期の遺構が確認され、時期により土地利用が異なることが明らかとなった。						
	八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡は、調査区が尾根部から谷部に向かう急斜面上に位置し、縄文時代と推定される陥し穴状遺構1基、時期不明の土坑1基が検出された。当該地点は、縄文時代には、主に狩猟の場として利用されていたものと推測される。						

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第528集  
**八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書**

三陸縱貫自動車道宮古道路建設事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成20年12月22日

発 行 平成20年12月26日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001

発 行 國土交通省東北地方整備局三陸国道事務所  
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号  
電話 (0193) 71-1716

勧(財)岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電話 (019) 654-2235

印 刷 小松総合印刷株式会社  
〒020-0827 岩手県盛岡市銘辰町15-4  
電話 (019) 624-1374

